

授 業 概 要

2023年度

令和5年度入学（29期生）



東京女子医科大学看護専門学校

目 次

教育理念・目的・目標	1
3つのポリシー	2
看護学教育の基本概念	3
教育課程	
1. 教育課程の考え方	4
2. 授業科目の概要、構造図	5～12
3. 教育課程一覧	13～14
4. 進度予定表	15～16
5. 科目配点一覧	17～18
基礎分野	
基礎分野 科目構成	19
論理学	20
統計学	21
情報科学概論	22
人間と生命	23
社会と家族	24
人間関係論	25
カウンセリング論	26
教育学	27
人間と生活	28
英語	29
保健体育	30
人間と文化	31
心理学	32
人間発達論	33
専門基礎分野	
専門基礎分野 科目構成	34
解剖学 I II	35～36
生理学 I II	37～38
生化学	39
臨床栄養	40
臨床薬理	41
微生物学	42
病理学総論	43
病態治療論 I II III IV V VI VII	44～72
リハビリテーション論	73

専門基礎分野

医療倫理	74
公衆衛生学	75
社会福祉	76
医療保障制度	77
関係法規	78

専門分野

基礎看護学

基礎看護学 科目構成	79
基礎看護学概論	80
医療安全 I	81
共通看護技術 I II III	82~84
日常生活援助技術 I II III	85~87
診療に伴う援助技術 I II	88~89
臨床看護総論	90

地域・在宅看護論

地域・在宅看護論 科目構成	91
地域・在宅看護概論 I II	92~93
地域・在宅看護方法論 I II III IV	94~97

成人看護学

成人看護学 科目構成	98
成人看護学概論	99
成人看護学方法論 I II III IV V	100~104

老年看護学

老年看護学 科目構成	105
老年看護学概論	106
老年看護学方法論 I II III	107~109

成人・老年看護学実習 科目構成	110
-----------------	-----

小児看護学

小児看護学 科目構成	111
小児看護学概論	112
小児看護学方法論 I II III	113~115

母性看護学

母性看護学 科目構成	116
母性看護学概論	117
母性看護学方法論 I II III	118~120

精神看護学

精神看護学 科目構成	121
精神看護学概論	122
精神看護学方法論 I II III	123~125

統合分野

看護の統合と実践 科目構成	126
看護の統合と実践 I II III IV V	127~131

教育理念・目的・目標

教育理念

本校は、創立者吉岡弥生の建学の精神である「至誠と愛」の精神に基づき、女性の自立と看護の専門性を追求することを通して主体性を啓発し、生涯に亘る自己教育能力を培い、社会に貢献し得る人材を育成することを理念としている。

教育目的

人間として、女性として豊かな感性を養い、人間尊重に基づき、多様化する医療ニーズに対応できる実践的基礎能力を持った看護師を育成することを目的とする。

教育目標

1. 看護を志す人として人間愛に基づいた温かで誠実な心を育む。
2. 生命の尊さを認識し、人間を統合的された存在として幅広く理解する基礎能力を養う。
3. 人々の健康のあらゆる状態に対し、科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎能力を養う。
4. 看護を発展させるための対人関係能力を養う。
5. 専門職業人としての倫理に基づいた看護が実践できるための基礎能力を養う。
6. 保健医療福祉における看護の役割を理解し、チームの中で協働して人々の健康支援ができるための基礎能力を養う。
7. 看護について継続して自ら学び、探求する姿勢を養う。

3つのポリシー

アドミッション・ポリシー（当校が求める入学者像）

本校では東京女子医科大学の教育理念「至誠と愛」に基づき、「女性の自立と看護の専門性を追求することを通して、主体性を啓発し、生涯にわたる自己教育能力を培い、社会に貢献し得る看護実践者を育成する」ために、次のような学生を求めています。

1. 誠実で思いやりのある人
2. 目的に向かって自ら学び、自分の考えを表現できる人
3. 他者の話をよく聴き、自分の役割を果たすことができる人
4. 周囲の人と協力し合い、自分の役割を果たすことができる人
5. 生活・健康の自己管理ができ、責任ある行動がとれる人

カリキュラム・ポリシー（教育の7柱）

卒業時に看護師としての必要な基礎知識、技能および態度を身につけ、建学の精神も沿って社会の中で看護の役割を認識し、社会に貢献できる看護実践者を育成するために7つの教育の柱を定めています。

1. 看護師を志す人として人間愛に基づいた温かで誠実な心を育む
2. 生命の尊さを認識し、人間を統合された存在として幅広く理解する基礎能力を養う
3. 人々の健康のあらゆる状態に対し、科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎能力を養う
4. 看護を発展させるための対人関係能力を養う
5. 専門職業人としての倫理に基づいた看護が実践できるための基礎能力を養う
6. 保健医療福祉における看護の役割を理解し、チームの中で協働して人々の健康支援ができるための基礎能力を養う
7. 看護について継続して自ら学び、探究する姿勢を養う

ディプロマ・ポリシー

看護実践に必要な基本技術を身につけ、所定の期間に卒業に必要な単位を修得するとともに、以下の能力を身につけた者に専門（職業実践専門課程 看護学科）の称号を与えます

1. 「至誠と愛」の実践能力
倫理をわきまえ誠意をもって、相手に対して心からの配慮ができる
2. 自己理解・自己管理能力
自分自身のあり方を謙虚に振りかえることができ、自立した社会人として自己の役割を自覚し、責任を主体的に果たし得る行動がとれる
3. 課題湧出対応能力
看護上の課題を抽出し、自ら対応実践できる
4. キャリアプランニング能力
生涯にわたり、自分自身に課題を持ちながら、自己成長のための学習の継続ができる

看護学教育の基本概念

教育理念 「至誠と愛」

「人間」

人間は複雑・多面的であり、統合的な存在である。

人間はただ1回きりの有限性のある人生を自己実現に向かって成長発達し、変化し続ける創造的な存在である。人間はただ唯一ひとりのかけがえのない存在として、人間愛に基づき尊重される権利をもつ。人間は個々、独自の欲求をもち、多様な生活様式、価値観をもつ。人間は自立・自律していく存在であり、それぞれ社会の中で発達段階に応じた役割を担っている。人間は個別のひとりの人格をもった存在であり、自らの責任において意思決定する。人間は社会システムの中で生活し、その影響を受け、様々な欲求を充足するために、あらゆる環境と相互に作用し、目標達成のため欲求を修正しながら行動している。

「環境」

環境には、自然環境・社会環境・内部環境があり人間の生活と相互に作用し合い、人間の健康に影響を与えている。社会は、個人・家族・集団・地域からなり、人間関係を基盤とし人間との相互作用の中で変化する。

「健康」

人間の健康は、環境と相互に作用しあう関係にある。

健康とは、心身ともに調和のとれた状態で、社会において自らの能力を最大限に発揮し、生き生きとその人らしく生活している動的状態をいう。健康とは固定された概念ではなく、個人特有なものでそれぞれの人が、自らの価値観の中で創造していくものである。健康はすべての人がよりよく生活していくための基本的な権利であり、社会システムの中で保証されなければならない。健康は様々な段階があり連続体であり、常に流動的である。人間にとって「病む」とは生命力が充実せず、その働きが十分に発揮されていない状態であり、心身全体としての調和に影響がある状態をいう。しかしどのような状態においても健康な側面を合わせ持っている。健康と病気は対極にあるものではなく、包含した概念であり、その状態には様々なレベルがあり、それぞれの人は連続体のどこかに位置し変化している。

「看護」

看護の対象となる人は、個人および家族・集団である。

看護はあらゆる健康段階、発達段階にある人が、主体的に自らの欲求充足に向けて健康的に生活していけるよう支援する。看護とは、その人らしさが尊重され、看護者との相互作用的な関係の中で共同して創造していくプロセスである。看護は科学的な思考と人間愛、専門職業人としての倫理観に基づいた判断のもとに行われる実践活動であり、看護技術を媒介として実現される。看護は保健・医療・福祉チームと協働しながら、チームの一員として独自の機能・役割を担うものである。看護は社会変動のニーズに対応するものである。

「学習」

すべての人間は学習者であり、自己実現に向かい生涯に亘り、主体的に学習する。

学習は人間として発達課題をもち生活することにつながり、学習者自身の真摯な努力なしには発展しない。学習者は自ら学習者としての立場を選択したことへの責任をもつ。学習は学習者と教師との相互作用の中で発展するものであり、同意の探求を目指し、共に学習し、成長し合う関係にある。学校・教師は学習者の主体的な学習活動を支援し、学習者が自己成長できるよう個人の潜在能力を最大限に引出し、学習環境を整え教育的な配慮をする。

教育課程の考え方

基礎分野、専門基礎分野、専門分野、統合分野」に区分し、総単位時間数を103単位（3,120時間）とした。教育課程（教育課程一覧参照）

1. 基礎分野

「論理学」、「統計学」、「情報科学概論」を設定し、科学的思考力の基盤となる科目を置いた。また、人間を生活、社会の視点で幅広く理解するため、「人間と生命」、「社会と家族」、「人間と生活」、を設定した。さらに、その人間関係の構築や看護を考える基盤づくりのため、「人間関係論」「カウンセリング論」「人間と文化」「心理学」「人間発達論」を設定し、個人を理解し尊重した看護を考え提供するうえので基礎的内容を含むものとした。

2. 専門基礎分野

「臨床栄養」「臨床薬理」は臨床で活用できる内容を含むものとした。「病理学総論」は、疾病の成り立ちとその形態学変化を学ぶ内容とした。

「病態治療論Ⅰ～Ⅶ」では、人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するための内容とした。また、「リハビリテーション概論」を設定し、社会生活を送る対象への看護を思考するためリハビリテーションの知識を深めるための教科を設定した。

「医療倫理」は、医療に従事する者として医療における倫理を幅広く学ぶ内容とした。

3. 専門分野

「基礎看護学」においては、各看護学並びに在宅看護論の基礎となる基礎的知識や基礎的技術を学ぶ内容とした。また、安全についての知識・技術を継続的に学ぶこととし、「医療安全Ⅰ」を皮切りに、カリキュラムの軸に医療安全を置く考え方とした。共通技術、日常生活援助技術、診療検査に伴う援助技術に分けて看護技術を学び、看護師としての倫理的な思考に基づいた看護ををするための基礎的能力を養う内容を含むものとする。臨床看護総論として、治療や障害別の看護を学び、他看護学の基盤となる科目として設定した。

「地域・在宅看護論」では、地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し在宅での看護の基礎を学ぶ内容とした。また在宅で提供する看護を理解し、基礎的な技術を学び、他職種の連携と協働する中での看護の役割を理解する内容とした。

「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」では、人間のライフステージにおいて看護の対象・目的の理解、予防、身体的・精神的における健康の回復、保持増進及び疾病・障害を有する人々に対する看護の方法を学ぶ科目とした。また臨床実践能力の向上を図るため、演習も含めた内容とした。

5. 統合分野

「看護の統合と実践Ⅰ～Ⅳ」では、基礎分野、専門基礎分野、専門分野で学習したことを臨床実践に近い形で学び、知識・技術を統合できるように学ぶ。ここでは、医療安全、看護とマネジメント、災害看護、看護と国際協力、総合的な看護技術力の強化、看護研究を学ぶ内容とした。

6. 行事・教科外活動の考え方（学生便覧参照）

様々な行事・教科外活動（特別教育活動・学生支援活動）を通して豊かな人間性、社会性を培い、看護学生としての認識を高め、心身ともに調和のとれた健康的な人間育成の機会とする。規程教科履修および行事・教科外活動も合わせて、本校がめざす卒業生育成に必要な課程と位置づける。

授 業 科 目 の 概 要

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	
科学的 思考の 基礎	論理学	論理的な考え方、表現ができるために必要な力を養う。学習内容は、議論の識別や議論の分析、議論の形式などの演習を通して学ぶ	
	統計学	統計学の基礎を理解し、統計的な視点の考え方を学び、統計処理能力を養う。学習内容として、統計学の基礎として、代表値、散布図、正規分布、母集団と標本、検定などを学ぶ	
	情報科学概論	人と情報社会の関係を理解し、医療と情報の関係、情報に関する倫理、情報の取り扱いについて学ぶ。学習内容は、情報理論の基礎やコンピューターの仕組み、情報通信のセキュリティー、情報倫理について学ぶ	
基礎 分野	人間の 生活・ 社会の 理解	人間と生命	生物の形態・機能・環境との相互作用を学ぶことを通して、生命現象について理解する。人の生老病死に寄り添う医療者として、基本的な生命江陰影の考え方を学ぶ。学習内容は、生命単位の生命の設計図、生命維持、環境との生命、生命倫理等を学ぶ
		社会と家族	社会的存在としての人間を理解する。また家族の構造や現代家族をめぐる諸問題を、家族社会学の観点から学ぶとともに、家族支援の考え方を理解する。学習内容としては、人間と社会、家族と社会の視点から学ぶ。
		人間関係論	グループ、集団活動を通してメンバーシップの在り方や協働していくことの意義について学ぶ。学習内容は、演習を通して集団やリーダーシップ、メンバーシップを学ぶ。またグループ活動を通して、お互いを知り、自己を振り返る機会としている。
		カウンセリング論	カウンセリングの基礎である考え方や理論を知り、他者を理解するためのコミュニケーションスキルを学ぶ。援助関係について学び、看護場面で必要とされる人間関係について理解する。
		教育学	教育の基礎を学び、人間形成における教育の機能を理解する。また、看護において教育的側面について学ぶ。学習内容は人間の成長と教育や成人教育理論、また学習方法や障害学習に関する基礎などを映像視聴・グループワークを通して学ぶ
		人間と生活	生活者としての人間を理解する。また人間工学の視点から人間の動作に必要な機能の特徴などを学ぶ。学習内容は、人間にとっての食事・衣類、住環境や生活行動などの視点から生活者としての人間を学ぶ。また人間工学の基礎的概念や人間の動作に必要な機能の特徴を理解し、環境を人間工学の視点から学ぶ
		英語	臨床看護における必要な英語の読解・表現能力を養う。学習内容は、臨床に関連した内容ロールプレイやグループディスカッションによる会話練習を行う
		保健体育	将来の看護師として、心と体の健康管理について、余暇時間の有効活用、体力づくりの重要性を学び、運動することの楽しさを体験し、習得する。学習内容は、運動・スポーツの必要性を講義を通して学び、体力づくりの基本など実技を通して学ぶ
		人間と文化	人間の文化の一端を理解し、豊かな感性と品性を養い、医療人として思いやりや礼節、誠意や献身などを涵養について考える機会とする。また、建学の精神である「至誠と愛」について学び、医療人として思いやりや誠意、献身などを考えまとめる
		心理学	感覚・知覚、認知行動、発達・人格、臨床、教育、健康、社会・集団の側面から人間の行動のメカニズムと学ぶ。学習内容は、思考や言語・知能、学習、集団とパーソナリティ、発達等を講義を通して学ぶ
		人間発達論	人間の障害を発達の視点から捉え、人間発達の共通性と特異性を精神と身体の側面から学ぶ。学習内容は、発達理論やメンタルヘルスと発達、また各期の発達の特徴や課題などを講義を通して学ぶ

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ	人体の形態と構造について系統的に学ぶ。学習内容は、運動器系、消化器系、循環器系などを学ぶ
		解剖学Ⅱ	人体の形態と構造について系統的に学ぶ。学習内容は、神経系、体液の調整と尿の生成、成長と老化等を講義を通して学び、解剖学見学実習を最後に行う
		生理学Ⅰ	人体の生理機能について系統的に学ぶ。学習内容は、循環器系、神経系、運動器系、呼吸器系などを学ぶ
		生理学Ⅱ	人体の生理機能について系統的に学ぶ。学習内容は、腎泌尿器系や感覚器系の生体の防御機構・体温調整等を学ぶ
		生化学	生体の生命現象を化学的に理解し、生体成分やその代謝についての基礎知識を学ぶ。学習内容は、タンパク質や糖、脂質の構造や遺伝子、ビタミン消化酵素等を学ぶ
		臨床栄養	健康と栄養の意義を理解し、食事療法と栄養指導の基礎を学ぶ。学習内容は、臨床栄養の概念を学び、疾患・病態別栄養ケアマネジメント（糖尿病・高血圧・腎疾患など）と実際の献立作成を行う
		臨床薬理	身近で重要な疾患に用いられる各薬物について理解する。学習内容は、薬理学の概論を学び、末梢・中枢神経系作用薬や循環器作用薬、抗感染症薬、抗がん薬等について学ぶ
		微生物学	微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解し、予防対策について学ぶ。学習内容は、微生物の基礎、生体防御、各種感染症と検査と予防について学ぶ
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学総論	各臓器・組織における病変の特徴を理解する。学習内容は、病理学の概念と先天性異常と遺伝子や代謝・循環障害、腫瘍等を学ぶ
		病態治療論Ⅰ	呼吸器系、循環器系における主要疾患の病態生理、原因、症状と経過、検査・治療について学ぶ。学習内容は、呼吸器系感染症や間質性肺炎、肺腫瘍、虚血性心疾患や心不全、外科的治療を伴う疾患等を学ぶ
		病態治療論Ⅱ	消化器系、腎・泌尿器系における主要疾患の病態生理、原因、症状と経過、検査・治療について学ぶ。学習内容は、消化管総論と肝・胆・膵臓系、食道がんなどや、腎・泌尿器系総論と腎不全やがんなどを学ぶ
		病態治療論Ⅲ	内分泌・代謝、脳神経系、運動器における主要疾患の病態生理、原因、症状と経過、検査・治療について学ぶ。学習内容は、内分泌・代謝系の糖尿病や脳神経系の脳血管疾患や脊髄炎、重症筋無力症やパーキンソン病、てんかん等、運動器系としては変形性関節症や脳性麻痺、椎間板ヘルニア等を学ぶ
		病態治療論Ⅳ	血液・造血器、アレルギー・膠原病、感染症、小児の主要疾患の病態生理、原因、症状と経過、検査・治療について学ぶ。学習内容は、白血病や気管支喘息等アレルギー疾患、感染性疾患、膠原病、小児に特徴的な染色体異常や代謝性疾患神経疾患などについても学ぶ。
		病態治療論Ⅴ	周産期・新生児、女性生殖器、乳腺、眼科、耳鼻科、皮膚科、歯科口腔外科における主要疾患の病態生理、原因、症状と経過、検査・治療について学ぶ。学習内容は、周産期では妊娠経過と異常分娩、新生児では感染症や黄疸、早産などを学び、女性生殖器では卵巣や子宮に関連する疾患や乳がんなどを学ぶ。眼科や耳鼻科、皮膚科、歯科口腔外科などは代表的な検査や疾患を学ぶ
		病態治療論Ⅵ	精神、救命、麻酔、臨床検査における主要疾患の病態生理、原因、症状と経過、検査・治療について学ぶ。学習内容は、精神疾患では、気分障害や認知症、救急医療での概要と基礎知識、医療体制や倫理的側面、麻酔は麻酔の種類や管理などを学び、臨床検査では一般検査や血液検査、病理検査などについて学ぶ

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	
専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	病態治療論Ⅶ	移植、再生医療、遺伝子医療、がん放射線療法、がん薬物療法、透析における主要疾患の病態生理、原因、症状と経過、検査・治療について学ぶ	
		リハビリテーション論	リハビリテーションの理念を学び、身体的・精神的リハビリテーションにおける代表的疾患と機能障害のアプローチ方法について学ぶ。学習内容は、運動器系・中枢神経系・神経難病、循環器・呼吸器系疾患のリハビリテーションを学ぶ。また理解療法士・作業療法士などを目指す学生と交流を持ち、多様な考え方を学ぶ	
	健康支援と社会保障	医療倫理	人間尊重を基盤とした医療倫理の在り方について学び、倫理観を養う。学習内容は、急性期医療や生体移植等を学ぶ	
		公衆衛生学	公衆衛生に関する統計情報、公衆衛生活動の現状を学ぶ。公衆衛生領域における健康教育の重要性を理解し、その活動の概要について学ぶ。学習内容は、地域保健や母子・学校・精神・環境などの保健について学ぶ	
		社会福祉	社会保障及び社会福祉について認識を深めてその内容を理解し、保健・医療・福祉の連携の意義について学ぶ。学習内容は、社会保障制度や公的扶助、児童家庭福祉、障害児・社会福祉、高齢者福祉、虐待対策、医療保障制度、労働保険制度所得補償制度について学ぶ	
		医療保障制度	医療保障制度の概要を理解し、我が国の制度とその諸問題について学ぶ。学習内容は、児童虐待支援や介護保険制度について学ぶ	
		関係法規	法律を通じて、看護師の業務と責任および患者の権利について理解する。学習内容は、保健師助産師看護師法や医療法、労働関連法、保健県連法などについて学ぶ	
	専門分野	基礎看護学	基礎看護学概論	看護の概念・目的・機能、看護学の発展の歴史、看護倫理や法律、看護をとりまく課題および看護の将来的展望など、看護学の概観を学ぶ
			医療安全Ⅰ	医療者として医療安全を学ぶ意義とその責任について、医療安全とコミュニケーション、ヒューマンエラーの特性と防止、看護事故の構造と防止の視点について学ぶ。その方法として危険予知トレーニングを実施する
			共通看護技術Ⅰ	看護技術に共通する技術(技術とは、コミュニケーション、感染予防、安楽確保)を学ぶ
共通看護技術Ⅱ			看護技術に共通する、健康評価のためのヘルスアセスメント技術を学ぶ	
共通看護技術Ⅲ			看護技術に共通する、問題解決のための思考過程の技術を学ぶ。また、クリティカルシンキングの強化を図る	
日常生活援助技術Ⅰ			対象の日常生活援助技術(環境、活動)を学ぶ。根拠に基づき、安全・安楽・自立度を考え実践する力の強化を図る	
日常生活援助技術Ⅱ			対象の日常生活援助技術(食事、排泄)を学ぶ。根拠に基づき、安全・安楽・自立度を考え実践する力の強化を図る	
日常生活援助技術Ⅲ			対象の日常生活援助(清潔、衣生活)を学ぶ。根拠に基づき、安全・安楽・自立度を考え実践する力の強化を図る	
診療に伴う援助技術Ⅰ			診療処置時の援助技術(呼吸・循環を整える、検査)を学ぶ。根拠に基づき、安全・安楽を考え正確に実践する力の強化を図る	
診療に伴う援助技術Ⅱ			診療処置時の援助技術(与薬・輸血、救命救急処置、創傷管理)を学ぶ。根拠に基づき、安全・安楽を考え正確に実践する力の強化を図る	
	臨床看護総論	経過別、障害別、治療別の看護の概要を学ぶ		

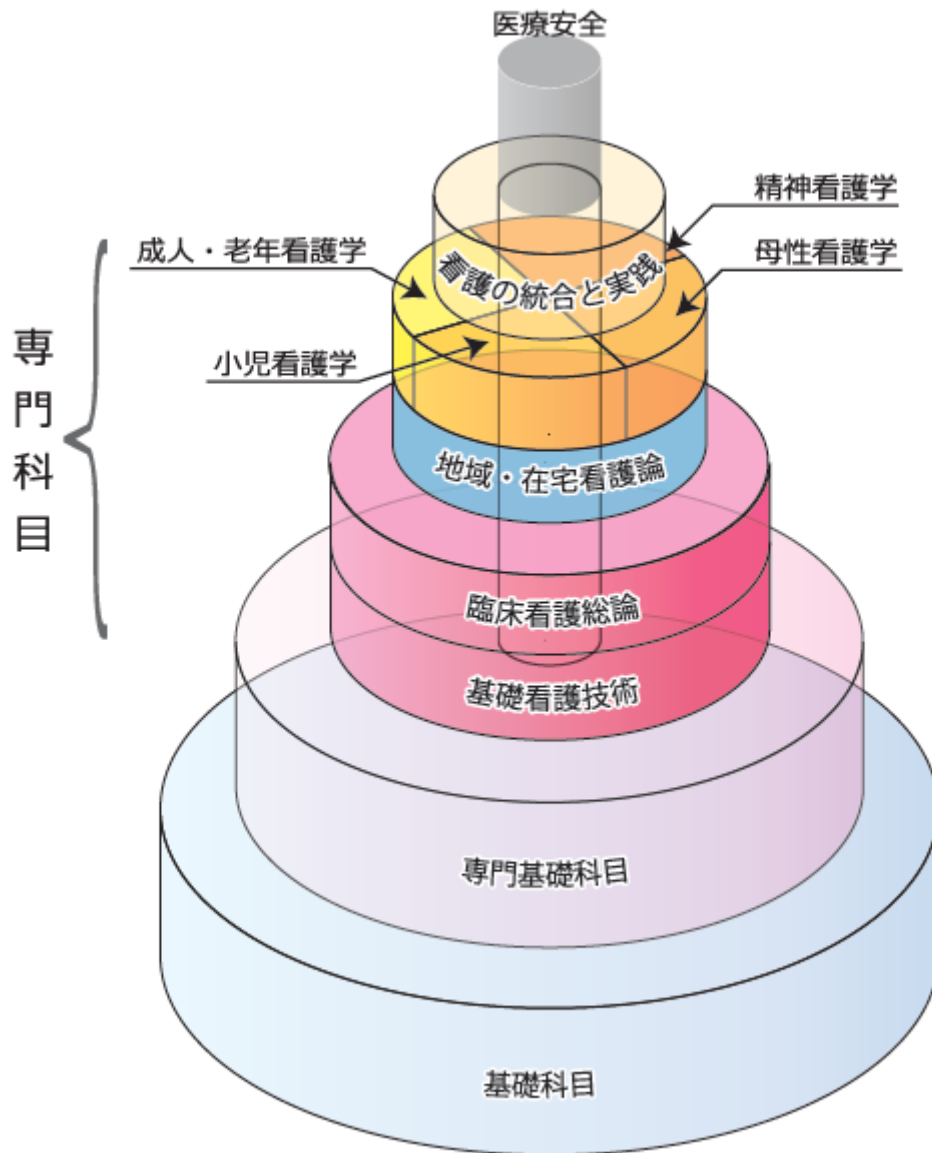
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	
専門分野	基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ	対象の基本的ニーズである療養環境やコミュニケーションについて学ぶ
		基礎看護学実習Ⅱ	対象の基本的ニーズの充足を図るための援助を学ぶ
		基礎看護学実習Ⅲ	対象の基本的ニーズに基づき、看護過程の展開を踏まえ、その患者の個別性に応じた看護を学ぶ
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論Ⅰ	地域包括ケアシステム等を促進するために、まず地域に暮らす人々も看護の対象者という視点で、まず地域を知ること、地域環境が健康にどのように影響をしているか、「暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解する
		地域・在宅看護概論Ⅱ	地域で療養する人々とその家族の健康と暮らしを継続的に支援する能力を育成する「地域・在宅看護論の対象と看護の基盤となる概念を理解する
		地域・在宅看護方法論Ⅰ	地域で生活する人々、療養者や障害者などすべての人が対象であることや特徴を捉える。地域包括ケアシステムの中で看護の継続の多職種の理解を学び、「地域で暮らす人々の健康を守る看護を理解する
		地域・在宅看護方法論Ⅱ	地域包括ケアシステムの中で多職種との連携・協働していくことが重要である。多職種の役割と責務について学び、多職種間のコミュニケーション能力をつけていくために基礎知識を理解する
		地域・在宅看護方法論Ⅲ	在宅療養者を支える基本的な技術や、応用・創意工夫をした在宅療養者に適した援助を学ぶ内容とし、療養の場における安全と健康危機管理についても学ぶ
		地域・在宅看護方法論Ⅳ	在宅療養者とその家族に対する看護につなげる思考過程と必要な援助方法について学習する
		地域・在宅看護方法論Ⅳ	在宅療養者とその家族に対する看護につなげる思考過程と必要な援助方法について学習する
		地域・在宅看護論実習Ⅰ	地域の中で健康の保持・増進・回復を目指す場と取り巻く人々を理解する
		地域・在宅看護論実習Ⅱ	地域包括ケアシステムの実際を知り、在宅で療養生活を送る対象とその家族に看護が実践できる基礎的能力を養う
	成人看護学	成人看護学概論	成人期の特徴と生活を理解し、健康保持・増進、疾病予防と成人看護におけるアプローチの基礎を学ぶ 1. 成人期の特徴と生活を理解する 2. 成人期における健康の保持・増進、疾病の予防における看護の役割について知る 3. 対象の健康問題に応じた看護のアプローチの基本を理解する 4. 統計と保健・医療・福祉の動向を知る
		成人看護学方法論Ⅰ	急激な健康の破綻状態をきたした対象の看護の基本を学ぶ 1. 急激な健康破綻状態をきたした対象の特徴と看護がわかる 2. 急激な健康破綻状態をきたす代表的な疾患をもつ対象の看護がわかる 3. クリティカル看護の対象と看護の特徴について理解できる
		成人看護学方法論Ⅱ	傷病により障害されたセルフケアの再獲得を支援する看護の基本を学ぶ 1. 回復期にある対象の特徴を理解できる 2. セルフケア再獲得を目指す看護について理解できる 3. セルフケア再獲得を目指す代表的な健康障害をもつ対象の看護が理解できる

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門分野	成人看護学	成人看護学方法論Ⅲ 慢性的な経過をたどる健康障害を持つ対象の看護の基本を学ぶ 1. 慢性的な経過をたどる健康障害を持つ対象の特徴と看護がわかる 2. 代表的な慢性的な経過をたどる健康障害を持つ対象の看護がわかる
		成人看護学方法論Ⅳ がんとともに生きていく対象の看護の基本を学ぶ 1. 緩和ケアと看護の役割がわかる 2. がんとともに生きていく対象の特徴とその看護がわかる 3. がん治療の特殊性と看護がわかる 4. 死をめぐる倫理的課題がわかる 5. 終末期の特徴と看護の役割が理解できる 6. 自己の人生観・死生観を見つめることができる
		成人看護学方法論Ⅴ 成人期にある対象の看護過程の展開と看護援助について学ぶ 1. 事例の生活背景、発達段階及び発達課題を理解することができる 2. 事例の病態、症状、治療を考慮して、対象の身体的、心理的、社会的側面を分析して、健康障害をもつ対象の全体像をとらえることができる 3. 看護問題を抽出し、優先度を考えて看護計画を立案できる 4. 看護援助の実施、評価・修正ができる
	老年看護学	老年看護学概論 老年期にある対象の特徴を理解し、健康保持・増進、疾病予防のための看護の役割を学ぶ 1. 老年期の対象の特徴と老いの概念を知る 2. 加齢に伴う身体的各機能の変化と高齢者に特有の症状を理解する 3. 高齢社会における統計と保健・医療・福祉の動向を知る 4. 高齢者の家族への支援を理解する
		老年看護学方法Ⅰ 高齢者の健康を支える看護の方法を理解する 1. 高齢者のQOLに配慮した援助の方法を理解する 2. 加齢に伴う高齢者の日常生活に及ぼす影響を知り、看護を理解できる 3. 高齢者のリスクマネジメントと災害看護がわかる
		老年看護学方法論Ⅱ 老年期に生じやすい疾患の特徴を知り、対象にあった看護の方法を理解する 1. 治療を受ける高齢者の看護について理解する 2. 老年期に生じやすい疾患について理解する 3. 認知機能の障害と看護について理解する 4. 高齢者の保健医療福祉施設における看護について理解できる 5. 人生の終焉を迎える高齢者の終末期看護について理解できる
		老年看護学方法論Ⅲ 健康障害を持つ高齢者の看護過程について学ぶ 1. 老年期の特徴を踏まえ、健康障害とその看護を理解できる 2. 根拠に基づいて看護を計画的に実践する必要性が理解できる
	成人・老年看護学	成人・老年看護学実習Ⅰ 1. 急性期を脱して、社会復帰に向けて支援を受ける対象の看護を学ぶ 2. 健康の回復に向けて施設で療養する対象の看護役割を学ぶ 3. 介護老人福祉施設において生活をする高齢者の看護の役割を学ぶ
		成人・老年看護学実習Ⅱ 急激な健康の破綻状態をきたした対象の特徴を理解し、健康の修復過程を促進する看護を学ぶ 1. 発達段階・発達課題をふまえて、対象の健康段階をとらえることができる 2. 急激な健康破綻状態に応じた対象の看護が実践できる 3. 回復を阻害する身体的・心理的要因を取り除き、回復を促進する看護が実践できる 4. 対象の看護を通して、チーム医療における看護の役割を理解できる 5. 対象に必要な社会資源について考えることができる
成人・老年看護学実習Ⅲ 慢性疾患を持つ対象の特徴を理解し、セルフマネジメントを支援する看護を学ぶ 1. 対象の発達段階・発達課題をふまえて、対象の健康段階をとらえることができる 2. 対象のセルフマネジメント能力に応じた看護を実践できる 3. 対象の看護を通して、自己効力を高める支援について考えることができる 4. 対象に必要な社会資源について考えられる		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	
専門分野	成人・老年看護学	成人・老年看護学実習Ⅳ クリティカルケアを必要とする対象の看護の基本を学ぶ 1. 生命の危機に瀕した対象の救急看護の実際を知る 2. 手術を受ける対象の手術室看護を知る 3. 健康の急激な破綻状態により、集中治療をうける対象の看護の実際を知る 4. 手術室、救急救命センター、ICUでの医療チームにおける看護の役割を知る	
	小児看護学	小児看護学概論	小児はたえず成長・発達を続けている。したがって健康障害とそれに伴う問題も、成長の流れのなかでとらえなければならない。今後小児看護を学習していくにあたり、小児と取り巻く環境や生活の場を学ぶ
		小児看護学方法論Ⅰ	小児の健やかな成長・発達のためには、小児の直接的な支援とともに、家族が安心して育児にあたれる環境を整える必要がある。疾病や事故を予防し、より健康的な生活が送れることを目指した健康教育を家族および段階に応じて小児自身にも行う必要があるため、その知識を習得する
		小児看護学方法論Ⅱ	小児の健康障害は、一時的な苦痛体験だけでなく生涯にわたる障害を残すこともあり、家族に与える負担も大きい。生命の危険から守り、その健やかな成長・発達を脅かす様々な苦痛や恐怖を早期に緩和するために必要な看護の知識を学ぶ
		小児看護学方法論Ⅲ	小児看護学の科目の集大成として、既習の知識を活用し健康障害をもつ小児と家族に必要な看護を展開するための思考過程を学ぶ
		小児看護学実習	小児の成長発達を理解し、健全な育成をめざしてあらゆる健康段階にいる小児と家族に対して適切な看護が実践できる基礎的能力を養う
	母性看護学	母性看護学概論	母性看護の概念を学び、女性に寄り添う看護のあり方を理解する 1. 母性看護の概念を学ぶ 2. 人間の性と生殖に関する健康（リプロダクティブヘルスライツ）、健全な母性の育成を学ぶ 3. 生涯を通じた女性の健康支援を学ぶ 4. 母性看護の対象を取り巻く社会変遷、現状、課題を考える
		母性看護学方法論Ⅰ	妊婦・産婦の看護に必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ 1. 妊娠経過を理解し、妊婦に必要な看護を学ぶ 2. 分娩経過を理解し、産婦に必要な看護を学ぶ 3. 妊婦・産婦の看護に必要な看護技術を習得する
		母性看護学方法論Ⅱ	褥婦・新生児の看護に必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ 1. 産褥経過を理解し、妊婦に必要な看護を学ぶ 2. 新生児の生理を理解し、新生児に必要な看護を学ぶ 3. 褥婦・新生児の看護に必要な看護技術を習得する
		母性看護学方法論Ⅲ	看護過程の展開を通し、母性看護に特有な看護を理解する 1. 母性看護に必要なウェルネス看護診断の考えが理解できる 2. 母性看護学における看護過程が展開でき、対象に必要な看護を考えることができる
		母性看護学実習	女性の特性である周産期における対象の特徴を理解し、妊婦・産婦・褥婦・新生児に応じた看護を学ぶ。母児を捉え、ウェルネス思考でセルフケア向上をはかる看護過程が実践できる基礎能力を養う。学生自らも母性であることを踏まえて、リプロダクティブヘルスの視点で母性観が養われていく事を目的とする。
	精神看護学	精神看護学概論	人間の健康な心と働きを知り、成長発達段階に伴うメンタルヘルスケアの特徴を理解する。心の健康のとらえ方、精神看護学の概要を踏まえ、現代社会の問題と精神の健康問題の関連を考える。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	
専門分野	精神看護学	精神看護学方法論Ⅰ	主な精神疾患の診断・検査、症状、治療について学ぶ。さらに精神保健看護における患者－看護師関係の理解から、看護師の機能と役割を考える。た、リスクマネジメントの考え方と方法について学ぶ
		精神看護学方法論Ⅱ	精神障害をもつ人とその家族を、疾患や心の健康に関する知識および考え方にに基づき実践的に理解する。また、これらの人々が自律に向けて地域でその人らしく生活することを支える援助のありかたについて、精神保健医療福祉チームの一員として論理的に考える
		精神看護学方法論Ⅲ	統合失調症または気分（感情）障害をもつ人の看護を、対象のストレスに着目しながら演習によって紙上展開する
		精神看護学実習	精神障害をもつ対象を理解し、その治療および看護の役割について学ぶ。精神に障害をもちながら地域で生活する人の理解を深める
	看護の統合と実践	看護の統合と実践Ⅰ （医療安全Ⅱ）	臨床の場における医療安全の考え方と実践方法を学ぶ 1. 臨床の場におけるリスクの理解とスキルの向上の重要性がわかる 2. 医療安全を担うチームの一員である自覚が持てる 3. 品質改善の手法を用いて、医療安全が改善されていくことが理解できる 4. 患者や介護者と協働した医療安全を考えることができる 5. 我が国の医療安全の施策の動向を知る
		看護の統合と実践Ⅱ （災害看護・国際看護）	災害看護に関する基礎的な知識・技術を習得する。 国際看護における国際交流と協力の現状の仕組みを学び、必要性や意義を理解する
		看護の統合と実践Ⅲ （看護とマネジメント） （看護技術総合）	基本的知識・技術・態度を統合して、看護実践能力を高めるとともに、看護におけるマネジメントの基礎的能力を養う 1. 看護におけるマネジメントならびに多職種と連携を図る看護師の役割を理解できる 2. 医療安全をふまえた複合的な看護技術の実践能力を高めることができる 3. 複数患者受持ちのイメージ化を図り、多重課題における優先順位の決定とともに倫理的配慮について理解できる
		看護の統合と実践Ⅳ （看護研究Ⅰ）	看護における研究の意義、基礎的知識を理解して、臨床実践能力の向上に必要な論理的思考・探究的態度を養う 1. 看護研究の基礎的知識を学ぶ
		看護の統合と実践Ⅴ （看護研究Ⅱ）	ケーススタディを通して、看護を探究する態度を養う 1. 実習での看護体験を振り返り、目的意識をもって研究的に取り組むことができる 2. 文献に裏付けられた論理的思考が展開できる
		看護の統合と実践 実習	1. 既習の知識・技術・態度を統合し、管理実習・夜間実習・複数患者受け持ちを通して、看護実践力を養う 2. 医療安全を踏まえた診療の実際を学ぶ 3. 専門職としての倫理観を高め自己成長への今後の課題を明確にする

構造図



教育課程一覽

No. 1

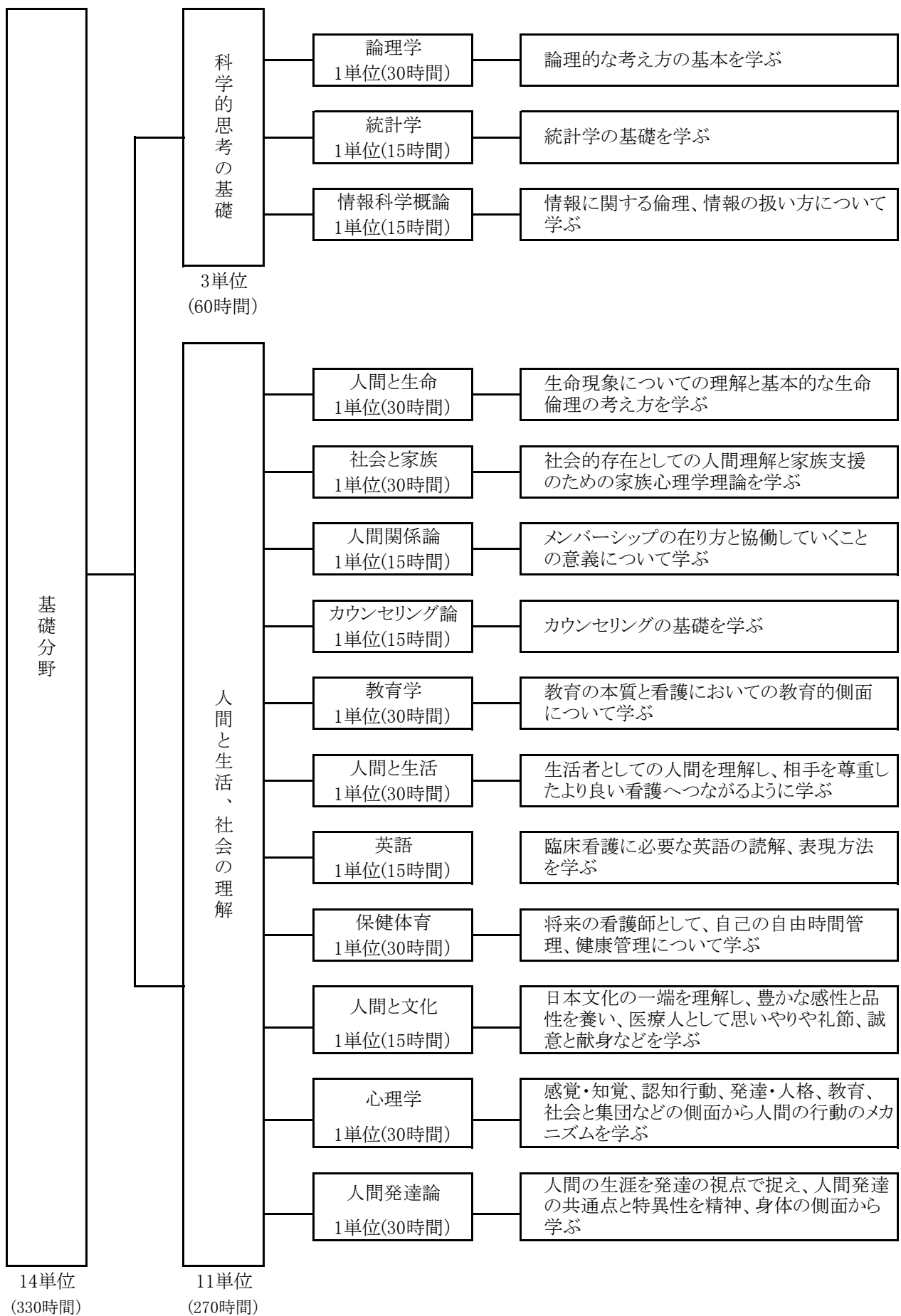
科目区分	単位数 (時間数)	科目	単位数	時間数	1年	2年	3年	
基礎分野	科学的思考 の基盤	論理学	1	30	30			
		統計学	1	15		15		
		情報科学概論	1	15	15			
	人間の生活、 社会の理解	11 〔270〕	人間と生命	1	30	30		
			社会と家族	1	30	30		
			人間関係論	1	15	30		
			カウンセリング論	1	15		15	
			教育学	1	30		30	
			人間と生活	1	30	30		
			英語	1	15	15		
			保健体育	1	30	30		
			人間と文化	1	15	15		
			心理学	1	30	15		
	人間発達論	1	30	30				
小計	14 〔330〕		14	〔330〕	11 〔270〕	3 〔60〕		
専門基礎科目	人体の構造 と機能	解剖学Ⅰ	1	30	30			
		解剖学Ⅱ	1	30	30			
		生理学Ⅰ	1	30	30			
		生理学Ⅱ	1	30	30			
		生化学	1	30	30			
	疾病の 成り立ち と回復の促進	11 〔315〕	臨床栄養	1	30	30		
			臨床薬理	1	30		30	
			微生物学	1	30	30		
			病理学総論	1	15	15		
			病態治療論Ⅰ (呼吸器・循環器)	1	30	30		
			病態治療論Ⅱ (消化器・腎泌尿器)	1	30	30		
			病態治療論Ⅲ (内分泌・代謝・脳神経・運動器)	1	30	30		
			病態治療論Ⅳ (血液・アレルギー・膠原病・感染症・小児)	1	30		30	
			病態治療論Ⅴ (周産期・女性生殖器・乳腺・感覚器)	1	30		30	
			病態治療論Ⅵ (精神・救命・麻酔・検査)	1	30		30	
	病態治療論Ⅶ (移植・再生・遺伝子・放射線療法・化学療法・透析)	1	30		30			
	リハビリテーション概論	1	30		30			
	健康支援と 社会保障制度	5 〔120〕	医療倫理	1	15		15	
			公衆衛生学	1	30	30		
			社会福祉	1	30		30	
			医療保障制度	1	15		15	
			関係法規	1	30		30	
小計	22 〔615〕		22	〔615〕	12 〔345〕	10 〔270〕		
専門分野	基礎看護学	基礎看護学概論	1	30	30			
		医療安全Ⅰ	1	15	15			
		共通看護技術Ⅰ	1	30	30			
		共通看護技術Ⅱ	1	30	30			
		共通看護技術Ⅲ (看護過程)	1	30	30			
		日常生活援助技術Ⅰ	1	30	30			
		日常生活援助技術Ⅱ	1	30	30			
		日常生活援助技術Ⅲ	1	30	30			
		診療に伴う援助技術Ⅰ	1	30		30		
		診療に伴う援助技術Ⅱ	1	30		30		
		臨床看護総論	1	30	30			
		地域・在宅 看護論	6 〔120〕	地域・在宅看護概論Ⅰ	1	15	15	
	地域・在宅看護概論Ⅱ			1	15	15		
	地域・在宅看護方法論Ⅰ			1	30		30	
	地域・在宅看護方法論Ⅱ			1	15		15	
	地域・在宅看護方法論Ⅲ			1	30		30	
	地域・在宅看護方法論Ⅳ			1	15		15	

教育課程一覽

No. 2

科目区分	単位数 (時間数)	科目	単位数	時間数	1年	2年	3年	
専門分野	成人看護学 6 〔180〕	成人看護学概論	1	30	30			
		成人看護学方法論Ⅰ	1	30		30		
		成人看護学方法論Ⅱ	1	30		30		
		成人看護学方法論Ⅲ	1	30		30		
		成人看護学方法論Ⅳ	1	30		30		
	成人看護学方法論Ⅴ (看護過程)	1	30			30		
	老年看護学 4 〔120〕	老年看護学概論	1	30	30			
		老年看護学方法論Ⅰ	1	30		30		
		老年看護学方法論Ⅱ	1	30		30		
		老年看護学方法論Ⅲ (看護過程)	1	30			30	
	小児看護学 4 〔90〕	小児看護学概論Ⅰ	1	15	15			
		小児看護学方法論Ⅰ	1	30		30		
		小児看護学方法論Ⅱ	1	30		30		
		小児看護学方法論Ⅲ (看護過程)	1	15			15	
	母性看護学 4 〔105〕	母性看護学概論	1	30	30			
		母性看護学方法論Ⅰ	1	30		30		
		母性看護学方法論Ⅱ	1	30		30		
		母性看護学方法論Ⅲ (看護過程)	1	15			15	
	精神看護学 4 〔90〕	精神看護学概論	1	15	15			
		精神看護学方法論Ⅰ	1	30		30		
精神看護学方法論Ⅱ		1	30		30			
精神看護学方法論Ⅲ (看護過程)		1	15			15		
統合分野	看護の 統合と実践 5 〔120〕	看護の統合と実践Ⅰ (医療安全Ⅱ)	1	30		30		
		看護の統合と実践Ⅱ (災害・国際)	1	30			30	
		看護の統合と実践Ⅲ (管理・技術総合)	1	30			30	
		看護の統合と実践Ⅳ (看護研究Ⅰ)	1	15		15		
		看護の統合と実践Ⅴ (看護研究Ⅱ)	1	15			15	
小計	44 〔1140〕		44	〔1140〕	38 〔1050〕	37 〔960〕	3 〔75〕	
専門分野 (臨地実習)	基礎看護学 4 〔180〕	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	45			
		基礎看護学実習Ⅱ	1	45	45			
		基礎看護学実習Ⅲ	2	90		90		
	地域・在宅 看護論 4 〔180〕	地域・在宅看護論実習Ⅰ	2	90		90		
		地域・在宅看護論実習Ⅱ	2	90			90	
	成人看護学 老年看護学 7 〔315〕	成人・老年看護学実習Ⅰ	2	90		90		
		成人・老年看護学実習Ⅱ	2	90			90	
		成人・老年看護学実習Ⅲ	2	90			90	
		成人・老年看護学実習Ⅳ	1	45			45	
	小児看護学 2 〔90〕	小児看護学実習	2	90			90	
母性看護学 2 〔90〕	母性看護学実習	2	90			90		
精神看護学 2 〔90〕	精神看護学実習	2	90			90		
統合分野	看護の 統合と実践 2 〔90〕	統合実習	2	90			90	
小計	23 〔1035〕		23	〔1035〕	2 〔90〕	6 〔270〕	15 〔675〕	
総計	103 〔3120〕	講義 (演習含) 80 (2085)	98	〔3105〕	38 〔1110〕	34 〔870〕	3 〔90〕	
		臨地実習 23 (1035)			2 〔90〕	6 〔270〕	15 〔675〕	

基礎科目 科目構成



授業科目	論理学	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	古田 知章
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	論理学を、言葉に対しての意識を高めるという観点から学ぶ。このなかでは、人間の生きることと論理との関係、言語や記号による表現とその意味の成立、主張の整合性などの論理についての基礎的知識を学び、日常的な思考やコミュニケーションといった実際の場面での論理のあり方を検討する						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言葉を使うことが人間として生きることの本質にかかわることを実感する 2. 言葉の意味がどのように成立するのかを知る 3. 言葉や主張の意味が、その場の状況や対話相手との関係性によって変化することを学ぶ 4. 正しい形式で言葉をつなぎ、状況に応じた言葉の選択や主張の形成ができるようになる 5. 他者の主張の内容を把握し、その正しさの判断ができるようになる 						
回数	内容						授業形態
1	イントロダクション 人間の生きることと論理						講義・演習
2	論理的発想 出来事に対しての論理の立場						講義・演習
3	論理の基本原理 矛盾律と排中律						講義・演習
4	意味の成立と言葉の連関						講義・演習
5	意味の成立と状況との関係 文化・システムを巡る問題						講義・演習
6	主張の基本的形式とその内容						講義・演習
7	命題の図式化 オイラーの図とヴェン図						講義・演習
8	様々な主張の仕方 様相命題と条件命題						講義・演習
9	条件命題の形式と真偽関係						講義・演習
10	主張の真偽判断とその根拠 ヴェン図を用いた判断の仕方						講義・演習
11	推論の基本形と真偽判断						講義・演習
12	推論の応用(1) 命題を基本単位とした推論						講義・演習
13	推論の応用(2) 対偶の問題						講義・演習
14	日常的な推論						講義・演習
15	まとめの練習問題、講義後試験						講義・試験
		特に教科書は用いないが、参考書として、以下の著作を紹介します 『論理学入門』 近藤洋逸、好並英司 著岩波書店					
評価	筆記・練習問題によって評価する						
学習上の留意点	日常の研究や生活における論理的な考え方や言葉の使い方を意識しながら受講・学習していきましょう						

授業科目	統計学	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	東垣内 徹生
		開講時期	前期	時間数	15時間		
科目目標	統計学の基礎を理解し、統計的な視点の考え方を学び、統計処理能力を養う						
学習目標	統計学の基礎を学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	統計学の基礎 度数分布表、ヒストグラム						講義
2	統計学の基礎 代数值						講義
3	統計学の基礎 散布度						講義
4	統計学の基礎 正規分布						講義
5	統計学の基礎 母集団と標本、推測統計						講義
6	統計学の基礎 2変数の共変関係の記述						講義
7	統計学の基礎 検定						講義
8	まとめ講義後試験						講義・試験
使用テキスト	資料配布						
評価	授業への参加度、終講時試験等で総合的に評価する						
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・電卓を使用する(スマホ・携帯は終講時試験で使用できないので不可) ・「ルート($\sqrt{\quad}$)機能」は必須です。 安価な電卓で構いませんが、この機能がないものは避けてください						

授業科目	情報科学概論	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	佐藤 恭子 山岸 なおみ 柴 織江 宮田 英明
		開講時期	前期	時間数	15時間		
科目目標	人と情報社会の関係を理解する。また、医療と情報の関係、情報に関する倫理について学ぶ。 また情報の取り扱いについて学ぶ						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人と情報社会の関係について理解する 2. 医療と情報の関係について理解する 3. 情報に関する倫理について考える 4. 分権の種類、文献検索について理解し活用できるようにする 5. 情報の管理について理解する 						
回数	内容						授業形態
1	情報とは 情報理論の基礎 コンピューターの仕組み 情報通信のしくみ						講義
2	情報通信におけるセキュリティ セキュリティ、ウイルス対策						講義
3	情報倫理 I 看護における情報学 看護研究と情報						講義
4	情報倫理 II 医療コンピューター						講義
5	中間試験筆記/解説まとめ						
6	文献について						講義
7	文献検索						演習
8	医療情報システム 電子カルテ						講義
使用テキスト	指定なし 適宜資料配布						
評価	中間試験・演習等で総合的に評価する (中間試験70%、演習30%)						
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・実習や看護研究につながる重要な科目である ・情報の意味や情報の取り扱いと責任の重さを認識し学んでほしい 						

授業科目	人間と生命	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	佐々木元子 山本佳世乃
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	生物の形態・機能・環境との相互作用を学ぶことを通して、生命現象について理解する 人の生老病死に寄り添う医療者として、基本的な生命倫理の考え方を学ぶ						
学習目標	1. 「ヒト」が有している、生き物としての普遍性・特殊性を理解することにより、医療者として備えるべき生命感の醸成を目指す 2. 現代の医学・生命科学に起因する倫理的諸問題を理解し、その社会的意思決定について学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	人間と生命を学ぶにあたって (担当:佐々木) ガイダンス、遺伝カウンセリングの紹介						講義
2	生命とは① (担当:佐々木) 化学の基礎						講義
3	生命とは② (担当:佐々木) 生命の誕生、生命のたどってきた歴史						講義
4	生命の単位① (担当:佐々木) 細胞小器官とその機能						講義
5	生命の単位② (担当:佐々木) 細胞の増殖と周期						講義
6	生命の設計図① (担当:佐々木) ゲノム、遺伝子、染色体、DNA						講義
7	生命の設計図 ② (担当:佐々木) 遺伝情報の伝達、発現						講義
8	生命の操作① (担当:佐々木) 医療や生殖補助医療への応用と影響						講義
9	生命の維持① (担当:佐々木) エネルギーの産生機構						講義
10	生命の維持② (担当:佐々木) 酵素と化学反応						講義
11	環境と生命① (担当:佐々木) 地球環境の変化と生物への影響、環境改善への取り組み						講義
12	生命と倫理① (担当:山本) 終末期医療、生命倫理の四原則、脳死と臓器移植など						講義
13	生命と倫理② (担当:山本) SOL、QOL、生命の尊厳、ゲノム科学の進展と生命倫理						講義
14	生命の操作③ (担当:山本) 医療や生殖補助医療への応用と影響						講義
15	まとめ講義後試験						講義・試験
使用テキスト	指定なし 適宜資料配布						
評価	授業への参加度、終講時試験等を総合的に評価する						
学習上の留意点	人間の誕生、人体、環境、いのち など 看護の基本となる知識を学びます						

授業科目	社会と家族	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	宝月 理恵
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	1. 社会的存在としての人間を理解する 2. 家族の構造や現代家族をめぐる諸問題を、家族社会学の観点から学ぶとともに、家族支援の考え方を理解する						
学習目標	1. 社会や家族をめぐる基本的な考え方や専門用語を理解する 2. 社会と家族についての具体的な問題を、自ら考察できるようになる						
回数	内容						授業形態
1	人間と社会① 社会的存在としての人間						講義
2	人間と社会② 医療と社会の密接な関係						講義
3	人間と社会③ ジェンダーと社会						講義
4	家族と社会① 近代家族とは何か						講義
5	家族と社会② 結婚の現代的意味						講義
6	家族と社会③ 少子化						講義
7	家族と社会④ 就業と家族						講義
8	家族と社会⑤ ワーク・ライフ・バランス						講義
9	家族と社会⑥ 子どもの貧困						講義
10	家族と社会⑦ 福祉と家族						講義
11	家族と社会⑧ ファミリー・バイオレンス						講義
12	家族と社会⑨ 障害と家族						講義
13	家族と社会⑩ 高齢者と家族						講義
14	家族と社会⑪ 家族を支援する						講義
15	まとめと終講時試験						講義・試験
使用テキスト	指定なし 適宜資料配布						
評価	平常点、提出課題、終講時試験による総合評価						
学習上の留意点	この科目では、単に学習したことを覚えるだけでなく、毎回のテーマを様々な社会の問題と結びつけて自ら考えるという過程を重視します。日頃より新聞に目を通すなど、社会で何が問題となっているのかについて常に興味を持っておいて下さい。						

授業科目	人間関係論	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	諏訪 茂樹
		開講時期	前期	時間数	15時間		
科目目標	看護の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、患者やスタッフとの関係を築くことができる。						
学習目標	1. 対人感情と対人認知を理解し、統制された情緒的関与による感情労働ができる。 2. 患者とのコミュニケーションの基本姿勢を身につけ、テクニックをスキルとして使いこなせる。 3. 医療安全を実現する真の意味でのチーム医療を理解し、チームワークが実践できる。						
回数	内容						授業形態
1	対人感情 好き嫌いの人間関係、好き嫌いの条件						講義及び演習
2	対人認知 自分から見た他者、自分から見た自分、他者から見た自分、						講義及び演習
3	コミュニケーションの基礎能力 メッセージの共有、メッセージの影響、言語・準言語・非言語						講義及び演習
4	コミュニケーションの基本姿勢 利用者・患者中心、受容、統制された情緒的関与						講義及び演習
5	コミュニケーションテクニック うなづきと相づち、要約、共感						講義及び演習
6	コミュニケーションスキル 聞くと聴く、対決と受容、励ましと共感、ティーチングとコーチング						講義及び演習
7	チームワーク メディカルーパラメディカル、コラボレーティブワーク(協働)						講義及び演習
8	人間関係 会議時の関係、危機対処時の関係、通常時の関係						講義及び演習
使用テキスト		諏訪茂樹『看護のためのコミュニケーションと人間関係』中法規出版,2019					
評価		授業への参加度とレポートとで総合的に評価する。					
学習上の留意点		教科書は演習の際のワークブックとして使うため、筆記用具とともに必ず持参。					

授業科目	カウンセリング論	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	渋谷 寛子
		開講時期	前期	時間数	15 時間		
科目目標	カウンセリングの基礎である考え方や理論を知り、他者を理解するためのコミュニケーションスキルを学ぶ						
学習目標	1. カウンセリングの基礎について理解する 2. 援助的関係について学び、看護場面で必要とされる人間関係について理解する						
回数	内容						授業形態
1	カウンセリングの考え方						講義
2	カウンセリング① 精神分析、行動療法等						講義
3	カウンセリング② 認知行動療法、クライアント中心療法						講義
4	カウンセリング③ 看護ケアへの応用、援助におけるカウンセリングの技法						講義
5	保健医療チームの人間関係						講義
6	看護場面における人間関係① 援助的人間関係						講義
7	看護場面における人間関係② 事例検討						講義
8	まとめ講義後試験						講義・試験
使用テキスト	系統看護学講座 人間関係論 医学書院、適宜資料配布						
評価	授業への参加度、リアクション・ペーパー、課題、試験等を総合的に評価する						
学習上の留意点	講義形式の時にも、適宜、演習を取り入れます。演習を通じた体験による気づきも大切に、理解を深めるようにしましょう						

授業科目	教育学	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	阪本 陽子
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	教育の本質を学び、人間形成における教育の機能を理解し、また、看護における教育的側面について学ぶ						
学習目標	1. 教育や学習について幅広い視野を持つとともに、人間の成長・発達における教育の意義を捉えなおす 2. 対象者に対する教育的役割を果たすために、教育活動の基礎となる知識・技術を養うとともに、専門職として生涯にわたって継続学習する意欲や能力の基礎を養う						
回数	内容						授業形態
1	授業ガイダンス 1)オリエンテーション 2)教育学を学ぶ意義						講義
2	教育的働きかけの意味 学習の支援と指導						講義・演習
3・4	人間の成長と教育						講義 映像視聴
5	生涯発達と発達課題						講義
6	生涯学習時代の教育・学習						講義
7	学習の理論 成人教育の理論						講義
8	学習方法のいろいろ① コミュニケーションで学ぶ						講義
9・10	学習方法のいろいろ② 参加型学習の手法						講義・演習
11	教育のちからを考える① 病気とともに生きるための学び						講義
12	教育のちからを考える② 病気療養児の教育環境						講義
13・14	病気療養児の指導事例から学ぶ						講義・演習
15	看護と教育 まとめ						講義
使用テキスト	指定なし 適宜資料配布						
評価	授業への参加度、リアクション・ペーパーレポート等で総合的に評価する レポートは終講後2週間以内に提出すること						
学習上の留意点	グループ演習への積極的に参加すること 事前配布資料は熟読してから授業に臨むこと						

授業科目	人間と生活	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	三代 かおる 正宗 賢 田村 学 赤川 浩之
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	生活者としての人間を理解することにより、より良い看護を目指す。また、人間工学の基礎的概念を理解し、人間の動作に必要な機能と特徴を学ぶ						
学習目標	1. 毎日の生活の構造と機能、健康との関わりを学ぶことにより、まず自分の生活をみつめ直す 2. 人間の生活は、生命体としての自然科学的環境と、個々の生活スタイルから作られた社会文化的環境の中で、複雑に統合されたものとして捉えることができる。自身の生活に向き合い確立していくことで、相手を尊重したより良い看護に繋がるようにする 3. 人間工学の概念を学び、人間の動作に必要な機能の特徴を理解する						
回数	内容						授業形態
1	授業ガイダンス（担当：三代 ～11回まで） 人間と生活について						講義
2	食生活と健康						講義
3	栄養素の働き、食事のバランス						講義
4	栄養素の消化吸収						講義
5	食品の安全性						講義
6	人間と被服と機能						講義
7	被服材料						講義
8	被服管理						講義
9	界面活性剤の作用						実験
10	住環境と生活行動						講義
11	生活環境と健康						講義
12	姿勢と動作のメカニズム（担当：赤川）						講義
13	ボディメカニクス(看護周辺の工学)①（担当：正宗）						講義
14	ボディメカニクス(看護周辺の工学)②（担当：田村）						講義
15	まとめ講義後試験						講義・試験
使用テキスト		指定なし 適宜資料配布、参考図書適宜紹介、食品成分表：実教出版					
評価		授業への参加度、授業内課題、終講時試験等で総合的に評価する					
学習上の留意点		毎日の生活を見直し、その重要性を認識することが、相手の生活を理解していく気持ちに繋がっていく。心と身体の健康を築くための生活の基本を自覚し、日々の生活で実践して欲しい					

授業科目	英語	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	林 愛	
		開講時期	後期	時間数	15時間			
科目目標	教員による講義形式の英語学習だけでなく、「(英語を)聴く・話す・読む・書く」という4技能を積極的に使う時間を出来るだけ多く設ける事で、臨床看護における英語運用力の向上を目指す。							
学習目標	1. 臨床看護の現場で実践的に使える英語表現を身に付ける。 2. クラスで扱った内容を基に、2種類の実践課題(①Medical Questionnaire ②Role Play)を行う。							
回数	内容						授業形態	
1	Introduction with Course Guidance & Unit 2: Don't worry.						Lecture	
2	Unit 3: How may I help you? Group Work 1: Making Medical Questionnaire -1						Lecture with Group Work	
3	Unit 4: How are you feeling? Group Work 1: Making Medical Questionnaire -2							
4	Unit 5: Could you fill in this medical questionnaire? Group Work 1: Making Medical Questionnaire -3							
5	Preparation for Group Work 2 Group Work 2: Role Play in Medical Settings -1							
6	Unit 6: Take the elevator, please. Group Work 2: Role Play in Medical Settings -2							
7	Group Work 2: Role Play in Medical Settings							
8	Final Term Test							Test
評価基準	1. Group Work: 45% (Medical Questionnaire: 20% / Role Play: 25%) 2. Check Tests: 25% 3. Final Term Test: 30%							
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・「各課題への積極的な取り組み」や「英語に取り組もうとする姿勢」を評価する。 ・出席していれば無条件に単位を取得出来る訳では無い。 							

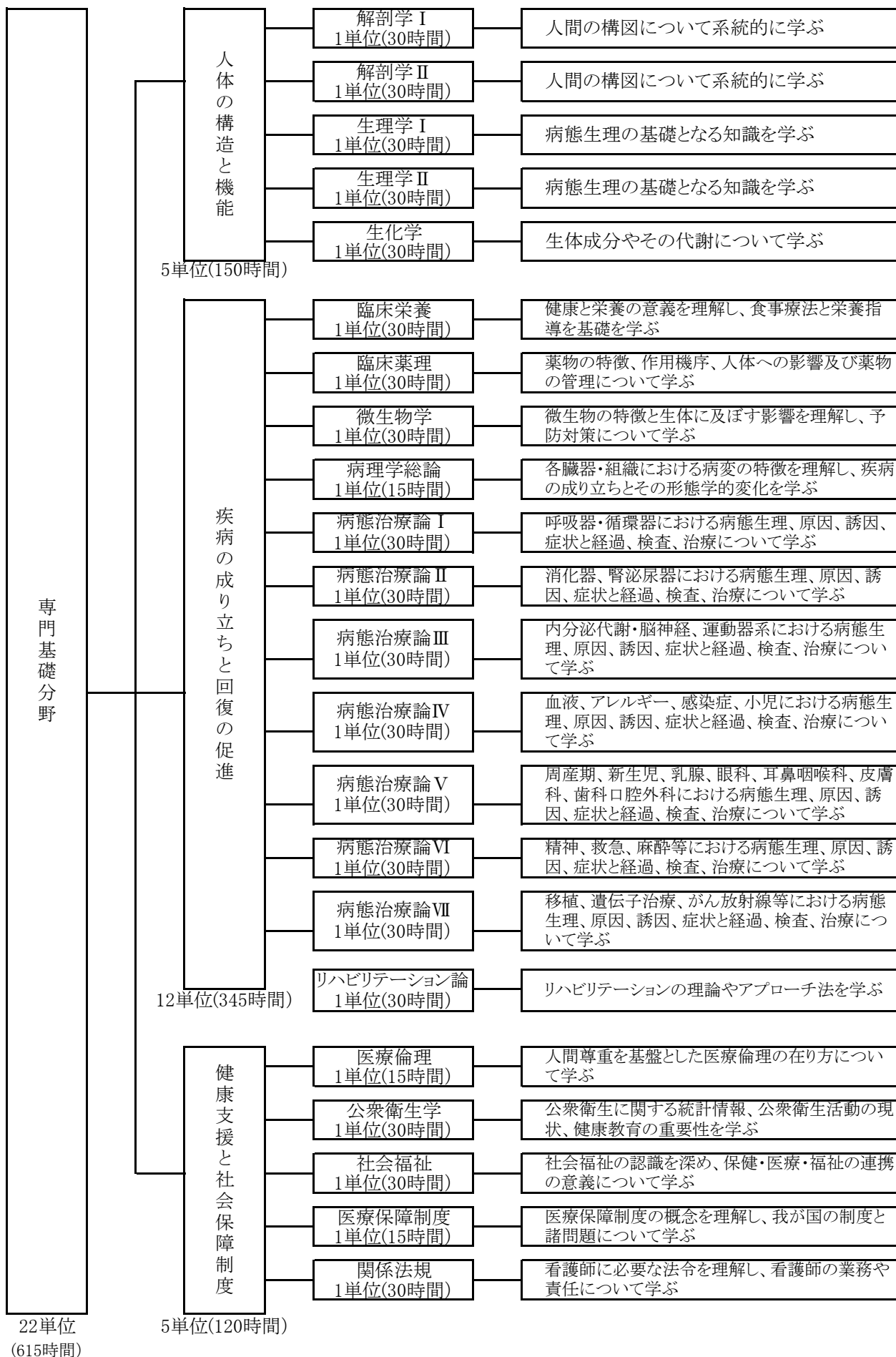
授業科目	保健体育	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	高木 美樹 青柳 秀幸
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	将来の看護師として、心と体の健康管理について、余暇時間の有効活用、体力づくりの重要性を学び、運動することの楽しさを体験し、修得する						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的な健康づくりの必要性や基本となる正しい姿勢動作について理解する 2. 日常生活における余暇時間の有効活用について理解する 3. 自己の体力を知り、体力づくりのための基本や継続的に実践できる運動・スポーツへの理解を深める 4. 体育祭および授業において、集団で実施する運動の楽しさを実感するとともに集団の中の役割や責任を全うする能力(チームワーク)を身につける 						
回数	内容						授業形態
1	【講義】 オリエンテーション・現代生活と健康						座学
2	正しい姿勢と動作の原則						座学
3	体力について						座学
4	運動・スポーツの必要性						座学
5	余暇時間の意義・有効活用						座学
6	健康管理に向けて						座学
7	まとめー今後の健康体力づくりに向けて						座学
8	筆記試験						座学
1	【実技】 オリエンテーション・健康体力に関するアンケート						座学
2	正しい姿勢と歩き方						実技
3	体力測定						実技
4	球技・グループゲーム						実技
5	体力づくりのための基本-ストレッチング						実技
6	体力づくりのための基本-筋力トレーニング・有酸素運動						実技
7	体力づくり計画と実施						実技
使用テキスト	指定なし 参考資料:適宜紹介						
評価	授業態度・参加度・提出物・試験等を総合的に評価する						
学習上の留意点							

授業科目	人間と文化	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	天笠 葉月 小松 美智子 油谷 順子 江畑 典子 専任教員		
		開講時期	前期	時間数	15時間				
科目目標	日本文化の一端を理解し、豊かな感性と品性を養い、医療人として思いやりや礼節、誠意や献身などを涵養する								
学習目標	1. 日本人における礼儀や医療人としての接遇について知る 2. ボランティア精神を知り、思いやりや献身について考える 3. 創始者や理念「至誠と愛」について学び医療人としての自分について考える								
回数	内容							授業形態	
1	日本人と礼儀、医療人としての接遇を学ぶ							講義・演習	
2	ボランティア精神について学ぶ							講義	
3	創始者 吉岡彌生について知る		吉岡彌生記念室見学					演習	
4～5	「彌生伝」を読み、創始者の生き方や女性の自立について考える						演習・GW		
6	広義のキャリアについて学び、医療人としての自分のキャリアについて考える						講義・演習		
7	医療人として必要な資質や理念「至誠と愛」について考える						GW		
8	医療人として必要な資質や理念「至誠と愛」についてグループで話し合ったことを発表						発表		
使用テキスト		なし							
評価		授業への参加度、終講時試験等で総合的に評価する							
学習上の留意点		積極的にグループワークや演習に参加する							

授業科目	心理学	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	宮脇 郁
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	感覚・知覚、認知行動、発達・人格、臨床、教育、健康、社会・集団の側面から人間の行動のメカニズムを学ぶ						
学習目標	1. 人間に関する様々な現象を、心理学の観点から理解することができる 2. 発達段階の視点で人間を理解することができる						
回数	内容						授業形態
1	心理学とは						講義
2	性格とパーソナリティ						講義
3	感情と動機付け						講義
4	心理臨床① 臨床心理学、心の適応と不適応						講義
5	心理臨床② ストレス						講義
6	心理臨床③ クライアント中心療法とコミュニケーション技法						講義
7	心理臨床④ 認知行動療法、その他						講義
8	感覚・知覚						講義
9	記憶① 記憶の種類としくみ						講義
10	記憶② 記憶の障害						講義
11	思考・言語・知能						講義
12	学習						講義
13	社会と集団						講義
14	医療・看護と心理						講義
15	まとめ講義後試験						講義・試験
使用テキスト	系統看護学講座 基礎分野 心理学						
評価	授業への参加度、終講時試験等で総合的に評価する						
学習上の留意点	人間を理解するための、基礎的学習です。積極的に学習に参加して下さい						

授業科目	人間発達論	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	城田 和明
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	人間を生涯発達の視点で捉え、人間発達の共通性と特異性を精神と身体の側面から学ぶ						
学習目標	発達の定義および人間発達の諸理論・影響を及ぼす要因について理解できる						
回数	内容						授業形態
1～2	人間発達論の概説 1) 発達の定義 2) 人間の発達における一般的な原則と発達に影響を及ぼす要因						講義
3～4	人間発達の諸理論 1) 発達理論の歴史的展開 2) 現状の発達理論						講義
5～6	人間のライフサイクルと発達①						講義
7～8	人間のライフサイクルと発達② 1) 各時期における心と身体の特徴						講義
9～10	人間のライフサイクルと発達③ 2) 形態的、機能的側面の発達						講義
11～12	人間のライフサイクルと発達④ 3) 心理・社会的側面の発達						講義
13～14	人間のライフサイクルと発達④ 4) 発達の必要な支援						講義
15	まとめ講義後試験						講義・試験
使用テキスト	看護のための人間発達学 第5版 医学書院						
評価	筆記試験によって評価する						
学習上の留意点	人間を発達段階別に理解する学問です。これから看護の対象を理解するために基本となる学習になります						

専門基礎科目 科目構成



授業科目	解剖学 I	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師
		開講時期	前期	時間数	30時間	
科目目標	人体の形態と構造について系統的に学ぶ					早川 亨・蔣池 かおり 齋藤 文典・菊田 幸子 桂 秀樹
学習目標	1. 生命を維持する人体の植物機能について学習する 2. 生命を活用する人体の動物機能について学習する 3. 人体を保護して人体の種を保存する機能について学習する					
回数	内容					授業形態
1	解剖学を学ぶための基礎知識 (担当:早川) 人体とは、素材としての細胞・組織					講義
	遺伝子と遺伝情報					講義
2	構造と機能から見た人体 (担当:早川) 構造からみた人体、機能からみた人体、体液とホメオスタシス					講義
3~4	運動系の概要、体の支持と運動 (担当:蔣池) 骨格とはどういうものか、骨の連結					講義
5	骨格筋、体幹の骨格と筋、上肢の骨格と筋 (担当:蔣池)					講義
6	下肢の骨格と筋、頭頸部の骨格と筋 (担当:蔣池)					講義
7	消化器系の概要、栄養の消化と吸収 (担当:菊田) 咽頭・食道の構造と機能、腹部消化管の構造と機能					講義
8	膵臓・肝臓・胆のうの構造と機能、腹膜 (担当:菊田)					講義
9	呼吸器系の概要、呼吸と血液の働き (担当:桂) 呼吸器の構造、呼吸、血液					講義
10	上気道、下気道、肺 (担当:桂)					講義
11	循環器系の概要、血液の循環とその調整 (担当:齋藤) 循環器系の構成、心臓の構造					講義
12	心臓の拍出機能、末梢循環系の構造 (担当:齋藤)					講義
13	血液の循環の調整 (担当:齋藤)					講義
14	リンパとリンパ管 (担当:齋藤)					講義
15	まとめの講義後試験					講義・試験
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 医学書院					
評価	出席状況・授業の参加度・提出物・筆記試験等を総合的に評価する					
学習上の留意点	人体の形態や構造についての学習は、人体の役割と機能についての学習と対にして行う。今後学習する疾患や看護技術の基礎となる知識を学習する					

授業科目	解剖学Ⅱ	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	早川 亨
		開講時期	通年	時間数	30時間		菊田 幸子
科目目標	人体の形態と構造について系統的に学ぶ						
学習目標	1. 生命を維持する人体の植物機能について学習する 2. 生命を活用する人体の動物機能について学習する 3. 人体を保護して人体の種を保存する機能について学習する						
回数	内容						授業形態
1～2	神経系・感覚系の概要、情報の受容と処理・神経系の構造と機能（担当：早川）						講義
3	脊髄と脳、脊髄神経と脳神経、脳の高次機能（担当：早川）						講義
4	運動機能と下行伝達路、感覚機能と上行伝達路（担当：早川）						講義
5	眼の構造と視覚、耳の構造と聴覚、平衡覚、味覚と臭覚、疼痛（担当：早川）						講義
6	外部環境からの防御・皮膚の構造と機能、生体の防御機構、体温とその調整（担当：早川）						講義
7	内部機能の調整・自律神経による調整、内分泌系による調整（担当：菊田） 全身の内分泌腺と内分泌細胞、ホルモンの分泌と調整 ホルモンによる調整の実態						講義
8	体液の調整と尿の生成（担当：菊田） 腎臓、排泄路、体液の調整						講義
9	男性生殖器（担当：菊田）						講義
10	女性生殖器（担当：菊田）						講義
11～12	受精と胎児の発生（担当：菊田）						講義
	成長と老化						講義
13～14	体表から見た人体の構造						講義
	解剖見学実習 ・人体の形態や機能について体験学習をする						講義
15	まとめの講義後試験						講義・試験
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 医学書院						
評価	出席状況・授業の参加度・提出物・筆記試験等を総合的に評価する						
学習上の留意点	人体の形態や構造についての学習は、人体の役割と機能についての学習と対にして行う						

授業科目	生理学 I	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師
		開講時期	前期	時間数	30時間	
科目目標	人体の生理機能について系統的に学ぶ					伊豆原郁月・樋口 清香 丸山 拓真・植田 禎史 降矢 芳子・桂 秀樹
学習目標	人体の構造と機能について、恒常性の維持・細胞内情報伝達、循環器系・神経系・感覚器系・運動器系・呼吸器系・生殖器系・腎泌尿器系・血液・消化器系・代謝系・内分泌系、生体防御機構、成長や加齢に伴う変化を総合的に理解する事が出来る					
回数	内容					授業形態
1～2	生理学の基礎知識（担当：伊豆原） 1) 生体のリズム 2) 内部環境の恒常性					講義
3～4	生理学の基礎知識2（担当：樋口） 1) 細胞・組織 2) 遺伝子と遺伝情報 3) 細胞分裂 4) 細胞内情報伝達					講義
5～6	血液循環とその調整(循環器系)（担当：伊豆原） 1) 心臓の機能 2) 血管系の機能 3) リンパ系の機能					講義
7～8	情報の受容と処理(神経系)（担当：丸山） 1) 中枢神経系の機能 2) 末梢神経系の機能					講義
9～10	体性感覚と感覚器機能(感覚器系)（担当：植田） 1) 視覚 2) 聴覚・平衡感覚 3) 味覚・臭覚 4) 体性感覚 5) 疼痛					講義
11～13	身体の支持と運動(運動器系) (担当：降矢) 1) 骨格の機能 2) 関節の機能 3) 骨格筋の機能					講義
14～15	呼吸とガス交換(呼吸器系) (担当：桂) 1) 肺機能・呼吸運動 2) ガス交換					講義
16	まとめの講義後試験					講義・試験
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 医学書院					
評価	担当ごとに試験を行う。全体の平均点が規定に満たない場合、再試対象となる					
学習上の留意点	解剖学とともに生理学の基礎知識を学び、人体の正常状態の形態と機能を理解することにより、正常から変化した状態である疾病の成り立ちや回復過程の理解に繋がる					

授業科目	生理学Ⅱ	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師
		開講時期	通年	時間数	30時間	
科目目標	人体の生理機能について系統的に学ぶ					浦瀬 香子・中村 裕子 風間 哲至・佐川まさよ 柴田 興一
学習目標	人体の構造と機能について、恒常性の維持・細胞内情報伝達、循環器系・神経系・感覚器系・運動器系・呼吸器系・生殖器系・腎泌尿器系・血液・消化器系・代謝系・内分泌系、生体防御機構、成長や加齢に伴う変化を総合的に理解する事が出来る					
回数	内容					授業形態
1	生殖のしくみ(生殖器系) (担当:浦瀬) 1) 男性の生殖機能 2) 女性の生殖機能					講義
2～4	体液の調整と尿の生成(腎・泌尿器系) (担当:中村) 1) 体液の構成と調整 2) 尿生成(腎・糸球体機能) 3) 体液量調整 4) 排尿機能					講義
5～6	血液の機能 (担当:風間) 1) 血液の成分と機能 2) 止血機構 3) 血液型					講義
7～9	栄養の消化と消化吸収 (担当:佐川) 1) 咀嚼と嚥下 2) 消化と吸収 3) 物質代謝					講義
10～12	内臓機能の調整(内分泌系) (担当:柴田) 1) 自律神経による調整 2) ホルモンの種類と機能 3) ホルモンの分泌調整					講義
13～14	生体の防御機構・体温調整 (担当:中村) 1) 非特異的生体防御機構 2) 特異的生体防御機構 3) 代謝と運動 4) 体温調整					講義
15	発生・成長と老化 (担当:浦瀬) 1) 受精と胎児の発生 2) 成長により変化 3) 老化による変化					講義
16	まとめの講義後試験					講義・試験
使用テキスト	系統看護学講座 専門規模分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 医学書院					
評価	担当ごとに試験を行う。全体の平均点が規定に満たない場合、再試対象となる					
学習上の留意点	解剖学とともに生理学の基礎知識を学び、人体の正常状態の形態と機能を理解することにより、正常から変化した状態である疾病の成り立ちや回復過程の理解に繋がる					

授業科目	生化学	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	中村 裕子 瀧澤光太郎
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	生体の生命現象を化学的に理解し、生体成分やその代謝についての基礎的知識を学ぶ						
学習目標	生体の生命現象、生体成分とその代謝がわかる						
回数	内容						授業形態
1	生化学総論 生体の構成と階層性、細胞、水 (担当:中村)						講義
2	代謝の基礎、ビタミン、補酵素、金属イオン (担当:中村)						講義
3・4・5	糖の構造と機能 (担当:中村) 糖質の代謝						講義
6・7	脂質の構造と機能、脂質代謝 (担当:中村)						講義
8・9	タンパク質の構造と機能、タンパク質代謝 (担当:瀧澤)						講義
10	ポルフィリン代謝と異物代謝(担当:瀧澤)						講義
11・12・13	核酸とは 生体における核酸の役割 (担当:瀧澤) 遺伝と遺伝子						講義
14	シグナル伝達(担当:瀧澤)						講義
15	試験、解説 (担当:瀧澤)						講義・試験
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能② 生化学 医学書院						
評価	終講時試験(筆記試験)						
学習上の留意点	高校で学習した化学の知識を生かしながら、解剖学・生理学とも関連させて学習するとよい						

授業科目	臨床栄養	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	佐川まさの
		開講時期	後期	時間数	30時間		
科目目標	健康と栄養の意義を理解し、食事療法と栄養指導の基礎を学ぶ						
学習目標	1. 健康と栄養の意義を知る 2. 疾患や状態に応じた食事指導の実際を学ぶ 3. 実際に献立作成や調理実習、栄養補給食品の利用方法を知る						
回数	内容						授業形態
1	オリエンテーション 臨床栄養の概念:健康と栄養、各自の栄養状態を知る						講義
2	傷病者・要介護者の栄養アセスメント						講義
3	栄養ケア計画と実施 栄養・食事療法・栄養補給法						講義
4	傷病者・要介護者の栄養教育 モニタリング、再評価						講義
5	商品交換表 栄養成分表						講義
6	疾患・病態別栄養ケアマネジメント(糖尿病)						講義
7	疾患・病態別栄養ケアマネジメント(高血圧)						講義
8	疾患・病態別栄養ケアマネジメント(癌)						講義
9	疾患・病態別栄養ケアマネジメント(腎疾患)						講義
10	疾患・病態別栄養ケアマネジメント(嚥下障害)						講義
11	演習のオリエンテーション						講義
12	演習						演習
13	薬と食事の相互作用 医療連携						講義
14	まとめ						講義
15	まとめの講義後試験						講義・試験
使用テキスト	臨床栄養学:学文社 参考図書:食品成分表(改良最新版)、食品交換表(第7版)						
評価	授業への参加度・態度、試験、レポート等で総合的に評価する						
学習上の留意点	栄養計算を行うため電卓を持参、実習時の服装(靴、エプロン、三角巾)持参 終講時試験の際には、電卓を持参すること						

授業科目	臨床薬理	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	伊東 俊雅
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	1. 臨床治療の場で重要な位置を占める薬に関する基礎的知識を理解する 2. 身近で重要な疾患に用いられる各薬物について理解する						
学習目標	上記を看護活動に活用できるようにする						
回数	内容						授業形態
1	薬理学概論① 薬物および薬理作用の基本						講義
2	薬理学概論② 薬物の体内挙動(薬物動態)・薬物の相互作用・薬効の個人差 ・薬物の有益性と危険性・薬物と法律						講義
3	末梢神経作用薬① 交感神経作用薬/副交感神経作用薬						講義
4	末梢神経作用薬② 神経-筋接合部作用薬/局所麻酔薬						講義
5	中枢神経作用薬① 全身麻酔薬/睡眠薬/抗不安薬/抗うつ薬						講義
6	中枢神経作用薬② 抗精神薬/抗パーキンソン病薬/麻薬性鎮痛薬						講義
7	循環器作用薬① 抗高血圧薬/利尿薬						講義
8	循環器作用薬② 心不全治療薬/抗狭心症薬/抗不整脈薬						講義
9	小テスト 血液系作用薬Ⅰ① 高脂血症薬/貧血治療薬						講義
10	血液系作用薬Ⅱ② 抗凝固薬/血栓溶解薬						講義
11	抗感染症薬 抗菌薬/抗真菌薬/抗ウイルス薬						講義
12	抗がん薬 細胞阻害薬/分子標的薬/免疫増強薬						講義
13	抗炎症薬 抗アレルギー薬/非ステロイド薬/ステロイド薬						講義
14	その他の薬 気管支喘息治療薬/消化性治療薬/糖尿病治療薬 など						講義
15	まとめの講義後試験						講義・試験
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 医学書院 系統看護学講座 別冊 臨床薬理学 医学書院						
評価	小テスト、授業への参加度、終講時試験を総合的に評価する						
学習上の留意点	主な薬物の作用と副作用を理解することで、臨床で薬物治療を行う患者の看護ができるようにする						

授業科目	微生物学	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	飯塚 護
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解し、予防対策について学ぶ						
学習目標	1. 微生物の特徴がわかる 2. 生体防御がわかる 3. 各種感染症がわかる 4. 感染症の検査と予防がわかる						
回数	内容						授業形態
1	微生物とは① 人と細胞の関わり(常在菌、感染症)						講義
2	微生物とは② ウイルス、細菌、真菌の違い						講義
3	生体防御① 自然免疫と獲得免疫						講義
4	生体防御② 液性免疫と細胞性免疫						講義
5	生体防御③ ワクチン、他						講義
6	各種感染症① 呼吸器感染症(結核)						講義
7	各種感染症② 消化器系感染症(肝炎)、尿路感染症、性感染症						講義
8	各種感染症③ 皮膚・粘膜の感染症						講義
9	各種感染症④ 脳・神経系感染症 人獣共通感染症 寄生虫感染症						講義
10	各種感染症⑤ 母子感染 高齢者の感染 日和見感染						講義
11	各種感染症⑥ 移植患者、手術創、外傷、カテーテルの感染症						講義
12	感染症と検査と予防① 診断法、薬剤耐性菌						講義
13	感染症と検査と予防② 滅菌、消毒、スタンダードプリコーション						講義
14	まとめ						講義
15	まとめの講義後試験						講義・試験
使用テキスト	ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち③ 臨床微生物・医動物 メディカ出版						
評価	終講時試験(筆記試験)						
学習上の留意点	高校で学んだ生物学を復習しながら、解剖学・生物学ともに関連させて学習するとよい。また、ここで学んだ知識はこれから学習する疾患や看護技術に生かされる						

授業科目	病理学総論	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	増井 憲太 加藤陽一郎 岡村 幸宜
		開講時期	後期	時間数	15時間		
科目目標	各臓器・組織における病変の特徴を理解する						
学習目標	疾病の成り立ちとその形態的变化を学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	病理学の概念、病因論（担当：加藤）						講義
2	細胞と組織障害（担当：増井）						講義
3	先天性異常と遺伝子異常（担当：加藤）						講義
4	代謝障害（担当：加藤）						講義
5	循環障害（担当：岡村）						講義
6	炎症、免疫および感染症（担当：岡村）						講義
7	腫瘍（担当：岡村）						講義
8	まとめの講義後試験（担当：増井）						講義・試験
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院						
評価	終講時試験を基本とし、総合的に評価する						
学習上の留意点	病気の原因・発生機序・病態について正確な知識を持つことで、看護師が科学的根拠に基づいた看護を行うことができるようにする。これから学習する病態治療論の知識の基礎となる						

授業科目	病態治療論 I (呼吸内科領域)	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	桂 秀樹
		開講時期	後期	時間数	8時間・ 30時間		
科目目標	呼吸器系における主要疾患の病態生理、原因、誘因、症状と経過、検査・治療について学ぶ						
学習目標	1. 呼吸器の構造や機能の基本的知識を習得していることを確認する 2. 呼吸不全の種類と病態を理解する 3. 呼吸器疾患の診断に必要な検査の種類とその意味を理解する 4. 呼吸器疾患の治療法を学習する						
回数	内容						授業形態
1	呼吸器の構造 1) 肺の構造・気管・気管支の構造・縦郭の構造 2) 肺と胸郭/胸腔/胸膜の関係・横隔膜 呼吸の生理 1) 呼吸調整・換気運動・ガス交換・塩酸基平衡 症状とその病態生理 1) 喀痰(血痰・喀血)・咳嗽・胸痛・呼吸困難・チアノーゼ 2) 呼吸の異常・意識障害 3) その他(ばち状指・発熱・声の異常・いびき)						講義
2	検査と治療・処置① 1) 呼吸機能検査 2) 動脈血液ガス分析 3) 急性呼吸不全(急性・慢性) 4) 酸素療法(人工呼吸療法含む) ・肺泡低換気とガス交換障害 ・急性呼吸不全と慢性呼吸不全						講義
3	検査と治療・処置② 1) 胸部X線検査 2) 胸部CT 疾患の理解と治療① 1) 感染症 ①急性気管支 ②インフルエンザ ③肺炎 ④結核(非結核性抗酸菌症含む)						
4	疾患の理解と治療② 2) 間質性肺疾患 ①サルコイドーシス ②好酸球性肺疾患 など 3) 気道疾患 ①気管支喘息 ②気管支拡張症 ③慢性閉塞性肺疾患 6) 呼吸調整に関する疾患 ①過換気症候群 ②睡眠時無呼吸症候群						講義
16	終講時試験						
使用テキスト		系統看護学講座 成人看護学② 呼吸器 医学書院					
評価		本科目の他領域と合わせて試験を行う					
学習上の留意点		解剖学 I (第3・4章)、生理学 I・II (呼吸・循環)の講義を基礎知識として展開する					

授業科目	病態治療論 I (循環器内科領域)	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	大森 久子
		開講時期	後期	時間数	8時間・ 30時間		青鹿 佳和
科目目標	循環器系における主要疾患の病態生理、原因、誘因、症状と経過、検査・治療について学ぶ						
学習目標	1. 循環器疾患で見られる代表的な症状とその病態について理解する 2. 虚血性心疾患の概念・症状・分類・合併症・治療を理解する 3. 心不全の概念・症状・所見・治療について理解する 4. 循環器疾患の診断に用いられる検査法とその意味を理解する						
回数	内容						授業形態
8①	循環器の構造と機能 (担当:青鹿) 1) 心臓の構造と機能 2) 血管の構造と機能 循環動態、血圧の調整とその異常(ショック、高血圧) 血管の病気 1) 動脈の疾患:大動脈瘤、大動脈解離、閉塞性動脈硬化症 2) 静脈の疾患:深部静脈血栓症、下肢静脈瘤						講義
9②	循環器検査総論 (担当:青鹿) 1) 心臓カテーテル検査 2) 心臓超音波検査(エコー) 心電図 不整脈 バイスタンダーCPRとAED						講義
10③	疾患の診断と治療① (担当:大森) 1) 心不全 ①急性心不全 ②慢性心不全						講義
11④	疾患の診断と治療② (担当:大森) 1) 虚血性心疾患 ①急性心筋梗塞 ②労作性狭心症 ③冠れん縮性狭心症 2) その他 ①心筋症 ②弁膜症 ③先天性心疾患						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学② 循環器 医学書院						
評価	本科目の他領域と合わせて試験を行う						
学習上の留意点	解剖学 I (第3・4章)、生理学 I・II (呼吸・循環)の講義を基礎知識として展開する						

授業科目	病態治療論Ⅱ (消化器内科領域)	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	大野 秀樹
		開講時期	後期	時間数	8時間・30時間		
科目目標	消化器系、腎・泌尿器系、乳腺における主要疾患の病態生理、原因、誘因、症状と経過、検査・治療について学ぶ						
学習目標	1. 消化管の症状と病態生理、検査・治療について理解できる 2. 主な消化器系疾患の病態生理及び保存的治療について理解できる 3. 肝・胆・膵臓の症状と病態生理、検査・治療について理解できる 4. 主な肝・胆・膵臓系疾患の病態生理及び保存的治療について理解できる						
回数	内容						授業形態
1	消化管総論 1) 消化管の症状とその病態生理・治療 ①食思不振 ②嘔気・嘔吐 ③腹痛 ④吐血・下血 ⑤下痢 ⑥便秘 ⑦腹部膨満感 等 2) 消化管の検査と留意点 ①消化管造影 ②内視鏡 ③腹部超音波検査 ④CT、MRI その他画像検査 ⑤ヘリコバクターピロリ検査 ⑥血液検査(総蛋白、アルブミン など)						講義
2	消化管各論 1) 主な消化器系疾患での病態生理と検査・保存的療法 (食事・薬物療法・内視鏡的治療) ①食道癌 ②逆流性食道炎 ③胃潰瘍 ④腸炎 ⑤消化管憩室 ⑥大腸癌 ⑦腸閉塞 など						講義
3	肝・胆・膵臓系総論 1) 肝・胆・膵臓系の症状とその病態生理・治療 ①黄疸 ②肝性脳症 ③門脈圧亢進症 ④腹水 など 2) 肝・胆・膵臓系の検査 ①ERCP ②MRCP ③肝生検 ④血管撮影 ⑤肝機能検査・肝炎ウイルス検査・膵臓機能・腫瘍マーカー など						講義
4	肝・胆・膵臓系各論 1) 主な肝・胆・膵臓系疾患の病態治療と保存的治療 (食事・薬物療法・内視鏡的治療・TAE・RFA など) ①急性肝炎・慢性肝炎 ②肝硬変 ③肝がん ④急性膵炎・慢性膵炎 など ⑤胆石症(胆のう炎・胆管炎) ⑥急性膵炎・慢性膵炎 など						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学② 消化器 医学書院						
評価	本科目の他領域と合わせて試験を行う						
学習上の留意点	・消化管及び肝・胆・膵臓系の構造と機能を復習して理解を深めながら講義の臨もう ・消化器系の症状の原因・発生のメカニズム・成り行きを理解して治療の学習に臨もう ・侵襲の大きな検査について、目的・方法・副作用についてまとめてみよう ・疾病・病態の伸展の仕方について理解し、起こりやすい看護問題に繋げていこう						

授業科目	病態治療論Ⅱ (消化器外科領域)	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	塩澤 俊一 島川 武
		開講時期	後期	時間数	8時間・ 30時間		
科目目標	消化器系、腎・泌尿器系、乳腺における主要疾患の病態生理、原因、誘因、症状と経過、検査・治療について学ぶ						
学習目標	1. 消化管の症状と病態生理、検査・治療について理解できる 2. 主な消化器疾患の外科的治療に伴う合併症と対応について理解できる						
回数	内容						授業形態
5①	消化器系の外科的治療総論・消化管外科各論Ⅰ 1) 消化器系の外科的治療の基本的考え方 2) 術前後の管理総論 3) 主な消化管疾患の病態生理と外科的治療(一部保存療法を含む) ①胃がん:腹腔鏡下幽門側胃切除 など ②虫垂炎:虫垂切除術 腹膜炎:腹腔内洗浄、腹腔ドレナージ						講義
6②	消化管外科各論Ⅱ 3) 主な消化管疾患の病態生理と外科的治療(一部保存療法を含む) ③食道がん:胸部食道全摘・食道再建術/胸腔鏡下食道部分切除 ④腸閉塞:イレウス管挿入 ⑤大腸腫瘍(良性):大腸内視鏡ポリープ切除術						講義
7③	消化管外科各論Ⅲ/肝・胆・膵臓系外科各論Ⅰ 3) 主な消化管疾患の病態生理と外科的治療(一般保存療法を含む) ⑥大腸腫瘍(悪性) 低位直腸がん:腹会陰式直腸切除術、人工肛門造設術 ⑦肛門疾患(痔核、痔瘻 など) 肝・胆・膵臓系外科各論Ⅱ 1) 主な肝・胆・膵臓系疾患の病態生理と外科的治療(一部保存療法を含む) ①胆嚢炎・胆石/肝内結石:腹腔鏡下胆嚢摘出術						講義
8④	肝・胆・膵臓系疾患の外科各論Ⅲ 1) 主な肝・胆・膵臓系疾患の病態生理と外科的治療(一部保存療法を含む) ②肝がん:肝切除術 ③膵臓がん:膵頭十二指腸切除術、幽門輪温存膵頭十二指腸切除術						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護学各論 医学書院						
評価	本科目の他領域と合わせて試験を行う						
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 消化管系の疾患で外科的治療を受ける対象は、食・栄養のニーズが術前より充足されていないことが多く、術前・術後の栄養状態の維持・向上のためのアセスメントができるよう、患者の病態を把握する知識を深めること頑張ってもらえる 消化器系術後の管理として上記に加え、特にイレウスの合併を予防する対応を学んで、早期離床の看護に繋げてほしい 人工肛門造設などボディイメージ変化を受け入れやセルフケアの支援を要する患者に接するにあたり、手術による身体の変化をよく理解したうえで関わられるように学ぼう 						

授業科目	病態治療論Ⅱ (腎臓内科領域)	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	小川 哲也
		開講時期	後期	時間数	8時間・30時間		
科目目標	消化器系、腎・泌尿器系、乳腺における主要疾患の病態生理、原因、誘因、症状と経過、検査・治療について学ぶ						
学習目標	1. 腎・泌尿器の症状と病態生理、検査・治療について理解できる 2. 主な腎臓系疾患の病態生理及び検査・治療について理解できる						
回数	内容						授業形態
9①	腎臓の構造と機能 腎臓の働き① 1) 排尿機能 ①腎血流量・腎血漿流量、血漿ろ過・糸球体ろ過量、尿量 ②尿所見の読み方 腎臓の働き② 2) 骨形成、赤血球の維持、血圧調整						講義
10②	尿検査(血尿、蛋白尿、尿沈渣) 尿検査からの鑑別						講義
11③	腎炎 1) 機序 2) 種類・分類 3) 原発性糸球体疾患の病理分類 4) 臨床症候と病理診断の関係 5) 糸球体腎炎 6) 尿細管間質性腎炎 7) 治療						講義
12④	主な腎・泌尿器系疾患の病態生理と検査・保存的治療 (食事・薬物療法、結石破碎術) 1) 膀胱炎、腎盂腎炎 2) 糸球体腎炎 3) ネフローゼ症候群 4) ループス腎炎 5) 尿路結石 6) 腎不全の病態生理と保存的治療 ①急性腎不全、慢性腎不全						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学② 腎・泌尿器 医学書院						
評価	本科目の他領域と合わせて試験を行う						
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・腎・泌尿器の構造と機能を復習して、それぞれ理解を深めながら講義の臨もう ・腎・泌尿器系の症状の原因・発生のメカニズム・成り行きを理解して、治療の学習に臨もう ・侵襲の大きな検査について、目的・方法・副作用についてまとめてみよう ・疾病・病態の伸展の仕方について学習し、また腎・泌尿器系の保存的知治療における合併症と異常の早期発見に関わる観察点を理解しよう 						

授業科目	病態治療論Ⅲ (内分泌代謝領域)	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	田中 正巳
		開講時期	後期	時間数	8時間・ 30時間		
科目目標	血液・造血器、内分泌・代謝、アレルギー・膠原病、感染症における主要疾患の病態生理、原因、誘因、症状と経過、検査・治療について学ぶ						
学習目標	内分泌・代謝疾患の病態生理、症状、検査、治療・処置を学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	内分泌・代謝の看護を学ぶにあたって 内分泌・代謝器官の構造と機能						講義
2	症状とその病態生理 検査 疾患の理解①:内分泌疾患 1) 視床下部一下垂体前葉系疾患 2) 視床下部一下垂体後葉系疾患 3) 甲状腺疾患 4) 副甲状腺疾患 5) 副腎疾患 6) 性腺疾患 7) 膵・消化管神経内分泌腫瘍 8) 多発性内分泌腫瘍症 9) 内分泌疾患の救急治療						講義
3	疾患の理解②:代謝疾患 1) 糖尿病						講義
4	疾患の理解③:代謝疾患 2) 脂質異常症 3) 肥満症とメタボリックシンドローム 4) 尿酸代謝異常 患者の看護 1) 疾患の経過と看護 2) 内分泌疾患患者の看護 3) 代謝疾患患者の看護						
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学② 腎・泌尿器 医学書院						
評価	本科目の他領域と合わせて試験を行う						
学習上の留意点	この科目は、1年生で学ぶ解剖学、生理学、病理学窓論と関連が大きい 1年生で学んだ学習内容を復習しながら学習に臨むこと						

授業科目	病態治療論Ⅲ (脳神経内科領域)	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	西村 芳子
		開講時期	後期	時間数	8時間・ 30時間		柴田 興一
科目目標	脳・神経系の主な疾患の病態生理、症状、検査、治療、処置について学ぶ						
学習目標	主な脳・神経系疾患の病態生理及び症状、検査・治療(保存的・外科的)について理解できる						
回数	内容						授業形態
5①	脳神経系の機能と構造、病態 1) 中枢神経の機能局在 2) 高次脳機能とその障害 3) 錐体路と錐体外路 4) 感覚神経路、脳神経系 言語障害、意識障害、脳ヘルニアの病態 神経学的診察と検査 脳血管障害 機能性疾患(頭痛、てんかん)						講義
6②	神経変性疾患 1) パーキンソン病 2) 脊髄小脳変性症 3) 委縮性側索硬化症 など 認知症 1) 原因・鑑別 2) アルツハイマー型認知症 3) レビー小体型認知症 4) ハンチントン病 5) 血管性認知症 6) 前頭側頭型認知症 7) 特発性正常圧水頭症						講義
7③	炎症性疾患(症状、検査、治療) 1) 髄膜炎、脳炎 2) 多発性硬化症						講義
8④	末梢神経・筋疾患(症状、検査、治療) 1) 末梢神経障害: 糖尿病性ニューロパチー、ギランバレー症候群 2) 神経接合部疾患: 重症筋無力症 3) 筋疾患: 進行性筋ジストロフィー						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学⑦ 脳・神経 医学書院						
評価	本科目の他領域と合わせて試験を行う						
学習上の留意点	ここで学ぶことは、看護に必要な知識となります。復習を行い、知識を修得していきましょう						

授業科目	病態治療論Ⅲ (運動器領域)	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	高木 博	
		開講時期	前期	時間数	8時間・ 30時間		山本 直也	
科目目標	運動器系の主な疾患の病態生理、症状、検査、治療、処置について学ぶ						田島 康介	高築 善仁
学習目標	主な運動器系疾患の病態生理及び症状、検査・治療について理解できる							
回数	内容						授業形態	
12①	脊椎の疾患 (担当:山本) 1) 関節、脊椎の機能 2) 各種脊椎疾患(先天性、変性、炎症性、腫瘍性、外傷性、血管性) 椎間板ヘルニア、腰椎分離すべり症、椎体椎間板炎 脊椎腫瘍、脊髄腫瘍、脊髄損傷、骨折 など 3) 神経障害 4) 高齢者の脊椎変形 5) 骨粗鬆症						講義	
13③	外傷性(外因性)の運動疾患 (担当:田島) 1) 骨折、脱臼、筋・腱・靭帯などの損傷(筋断裂、アキレス腱断裂 など) 2) 骨・関節の炎症性疾患(骨・関節の感染症、関節リウマチ、痛風、 脊椎関節炎、変形性関節症)						講義 講義	
14③	内因性(非外傷性)の運動疾患 (担当:高築) 1) 先天性疾患 2) 骨・関節の炎症性疾患 ・関節リウマチ 3) 代謝性骨疾患 ・骨粗鬆症 4) 腱の疾患 5) 神経・筋疾患 6) ロコモティブシンドロームと運動器不安定症 7) フレイル、サルコペニア、廃用症候群						講義	
15④	症状とその病態生理 (担当:高木) 疼痛、形態の異常、関節の運動の異常、神経の障害、異常歩行また跛行 筋肉の障害、その他の障害 検査・診断と治療・処置 診断・診察:一般診察上の注意、肢位または姿勢、計測、神経診察 検査:画像診断、骨密度の計測、電気生理学的検査、関節鏡検査、他 治療・処置:保存療法、理学療法と作業療法、手術療法、義肢と装具						講義	
16	終講時試験							
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学⑦ 運動器 医学書院							
評価	本科目の他領域と合わせて試験を行う							
学習上の留意点	ここで学ぶことは、看護に必要な知識となります。復習を行い、知識を修得していきましょう							

授業科目	病態治療論Ⅳ (血液造血器領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	小笠原 壽恵
		開講時期	前期	時間数	8時間・ 30時間		
科目目標	血液・造血器、内分泌・代謝、アレルギー・膠原病、感染症における主要疾患の病態生理、原因、誘因、症状と経過、検査・治療について学ぶ						
学習目標	血液・造血器疾患の病態生理、症状、検査、治療・処置を学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	血液 血液疾患で行われる検査 1) 血液検査 2) 骨髄検査 3) リンパ節生検 4) PET/CT 5) 出血傾向の検査						講義
2	血液疾患で行われる治療 1) 薬物療法 抗がん薬(化学療法)、分子標的療法(TKIなど) 2) 腫瘍免疫 3) 放射線照射 4) 造血因子 5) 造血幹細胞移植 6) 碑摘 7) 化学療法の有害事象及び支持療法						講義
3	血液の病気① 1) 赤血球系の異常 鉄欠乏性貧血、鉄代謝異常によるその他の貧血 巨赤芽球性貧血、再生不良性貧血、溶血性貧血、二次性貧血 2) 白血球系の異常 急性白血病、骨髄異形成症候群、骨髄増殖性疾患 リンパ系腫瘍、非腫瘍性疾患 3) 血小板系の病気:出血・血栓を起こす疾患						講義
4	血管異常による出血性疾患、血小板異常による出血性疾患、 凝固異常による出血性疾患、播種性血管凝固症候群						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学② 血液・造血器 医学書院						
評価	本科目の他領域と合わせて試験を行う						
学習上の留意点	この科目は、1年生で学ぶ解剖学、生理学、病理学総論と関連が大きい 1年生で学んだ学習内容を復習しながら学習に臨むこと						

授業科目	病態治療論Ⅳ (アレルギー・膠原病領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	高木 香恵
	開講時期	前期	時間数	6時間・30時間			
科目目標	血液・造血器、内分泌・代謝、アレルギー・膠原病、感染症における主要疾患の病態生理、原因、誘因、症状と経過、検査・治療について学ぶ						
学習目標	アレルギー・膠原病の病態生理、症状、検査、治療・処置を学ぶ						
回数	内容						授業形態
5①	アレルギーの仕組み 1) アレルギー反応の分類と仕組み I型アレルギー、II型アレルギー、III型アレルギー、IV型アレルギー 2) アレルゲンの種類 検査と治療 1) 検査と診断(診断までの流れ、検査方法) 2) 治療(薬物療法) 症状と疾患の理解 1) 気管支喘息 2) アレルギー性鼻炎 3) アトピー性皮膚炎 4) 薬物のアレルギー 5) アナフィラキシー 6) 蕁麻疹 7) 接触皮膚炎 8) 食物アレルギー						講義
6②	膠原病の症状と病態生理 1) 関節痛・関節炎 2) レイノー現象 3) 皮膚・粘膜症状 4) 発熱 5) タンパク尿 6) 筋力低下 検査 1) 診断までの流れ 2) 検査(一般検査、血清・免疫学検査、そのほかの検査) 3) 治療方法(一般療法、薬物療法) 疾患の理解① 1) 関節リウマチ 2) 全身性エリテマトーデス						講義
7③	疾患の理解② 3) 全身性強皮症 4) 多発性筋炎、皮膚筋炎 5) 混合性結合組織病 6) シェーングレン症候群 7) ベーチェット病 8) 血管炎症候群						
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学② 血液・造血器 医学書院						
評価	本科目の他領域と合わせて試験を行う						
学習上の留意点	この科目は、1年生で学ぶ解剖学、生理学、病理学総論と関連が大きい 1年生で学んだ学習内容を復習しながら学習に臨むこと						

授業科目	病態治療論Ⅳ (感染症領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	菊池 賢
		開講時期	前期	時間数	6時間・30時間		
科目目標	血液・造血器、内分泌・代謝、アレルギー・膠原病、感染症における主要疾患の病態生理、原因、誘因、症状と経過、検査・治療について学ぶ						
学習目標	感染症疾患の病態生理、症状、検査、治療・処置を学ぶ						
回数	内容						授業形態
8①	看護を取り巻く感染症の問題 多剤耐性菌と院内感染、薬剤耐性菌、結核、HIV感染症、性感染症 新興・再新興感染症、感染が成立する条件 検査と治療 1) 感染症診断の原則 2) 検査・診断・治療の流れ 感染臓器の決定、原因微生物の推定、病原微生物の決定、治療 3) 検査の実施 塗抹・培養検査、迅速抗原検査、真菌抗原検査、抗体検査 HIV検査、毒素の検査、原虫・寄生虫検査、分子生物学検査 治療 1) 感染症治療の原則 2) 抗菌薬 3) 抗真菌薬 4) 抗ウイルス薬 5) その他の治療法 6) 一次予防と二次予防						講義
9②	疾患の理解 1) 上気道感染(急性副鼻腔炎、急性咽頭炎、扁桃炎、かぜ症候群、インフルエンザ、急性喉頭蓋炎) 2) 下気道感染症(肺炎、胸膜炎・膿胸、肺結核) 3) 消化管感染症(食中毒を主とした消化管感染症、虫垂炎、憩室炎) 4) 肝胆道系感染症(肝膿瘍、急性胆管炎、急性胆嚢炎、ウイルス性肝炎) 5) 尿路感染症 6) 皮膚軟部組織感染症(癰・癤、毛包炎、丹毒、蜂巣炎、壊死性筋膜炎、表在性血栓性静脈炎、リンパ管炎) 7) 性感染症 8) 眼の感染症 9) 中枢神経感染症(髄膜炎、脳炎、脳腫瘍)						講義
10③	10) 悪性腫瘍、移植に伴う感染症 11) 菌血症・敗血症 12) 人動物咬傷(動物咬傷、人咬傷) 13) その他のウイルス性感症 14) 真菌感染症(カンジダ症、アスペルギウス症、クリプトコッカス症、その他の真菌感染症) 15) 寄生虫感染症(線虫、吸虫、条虫、原虫、その他の寄生虫による感染症) 16) HIV感染症と日和見感染症 17) 新興・再興感染症 18) 多剤耐性菌感染症(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌、バンコマイシン体性腸球菌、多剤耐性緑膿菌)						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学② 血液・造血器 医学書院						
評価	本科目の他領域と合わせて試験を行う						
学習上の留意点	この科目は、1年生で学ぶ微生物学と関連が大きい。1年生で学んだ学習内容を復習しながら学習に臨むこと。また、呼吸器の感染や消化管の感染など、他の病態治療論とも重なるため関連させた学習をするとよい						

授業科目	病態治療論Ⅳ (小児領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	安田 祐希
		開講時期	前期	時間数	10時間・ 30時間		鈴木 悠
科目目標	精神、母性、小児、新生児における主要疾患の病態生理、原因、誘因、症状と経過、検査および治療について学ぶ						中陣 瑠美
学習目標	小児領域の主な疾患の病態生理、症状、検査・処置を学ぶ					東 範彦	
						老谷 嘉樹	
回数	内容						授業形態
11①	小児アレルギー疾患 (担当:東) 1)気管支喘息 2)食物アレルギー 血液疾患 1)フォンウイルブランド病 2)血友病 川崎病						講義
12②	染色体異常 (担当:中陣) 1)ダウン症候群 2)18トリソミー 3)13トリソミー 4)ターナー症候群 5)クラインフェルター症候群 小児の消化器疾患 1)横隔膜ヘルニア 2)先天性食道閉鎖症 3)肥厚性幽門狭窄症 4)Hischsprung病 5)腸重積症 6)胆道閉鎖症 7)クローン病 8)外鼠径ヘルニア 9)臍ヘルニア						講義
13③	感染症 (担当:鈴木) 1)ウイルス性感染 2)細菌感染 呼吸器 1)上気道感染 2)気管支炎						講義
14④	代謝性疾患・内分泌疾患 (担当:安田) 小児の腎泌尿器および生殖器疾患 1)尿道下裂 2)急性糸球体腎炎 3)尿路感染症 4)ネフローゼ症候群 5)神経芽腫 固形腫瘍 1)ウイルス腫瘍 2)神経芽腫						講義
15⑤	神経疾患 (担当:老谷) 1)痙攣 2)髄膜炎 3)急性脳炎 4)急性脳症 5)神経皮膚症候群 6)脳性麻痺 7)筋ジストロフィー 8)ミオパチー 9)ミトコンドリア脳症 10)精神遅滞 11)自閉スペクトラム症 12)ADHD 運動器疾患						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 小児看護学② 小児臨床看護各論 医学書院						
評価	本科目の他領域と合わせて試験を行う						
学習上の留意点	小児看護学方法論Ⅱで行う健康障害の子どもの看護につながる学習になります						

授業科目	病態治療論Ⅴ (周産期領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	川道 弥生 立花 康成	
		開講時期	前期	時間数	4時間・30時間			
科目目標	精神、母性、小児、新生児における主要疾患の病態生理、原因、誘因、症状と経過、検査および治療について学ぶ							
学習目標	母性領域の主な疾患の病態生理、症状、検査・処置を学ぶ							
回数	内容						授業形態	
1	妊娠経過について（担当：川道） 1) 母体の生理学的変化 ①循環器 ②血液 ③消化器 ④呼吸器 ⑤腎・泌尿器 ⑥内分泌 ⑦代謝 2) 流産について ①流産の病態 ②流産の症状・治療						講義	
2	分娩経過について（担当：立花） 1) 分娩の分類 2) 分娩の三要素 ①娩出力 ②産道 ③娩出物 3) 分娩の進行 ①分娩第Ⅰ期 ②分娩第Ⅱ期 ③分娩第Ⅲ期 ④分娩第Ⅳ期 異常分娩について 1) 分娩時の異常 ①原因、影響、治療、対応 2) 児娩出後の異常 ①産科ショック ②播種性血管内凝固 分娩による胎児への影響 1) 分娩による胎児への変化						講義	
16	終講時試験							
使用テキスト	系統看護学講座 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院							
評価	本科目の他領域と合わせて試験を行う。							
学習上の留意点	母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱの母性看護につながる学習になります							

授業科目	病態治療論V (周産期 新生児領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	山田 洋輔
		開講時期	前期	時間数	4時間・30時間		溝上 雅恵
科目目標	精神、母性、小児、新生児における主要疾患の病態生理、原因、誘因、症状と経過、検査および治療について学ぶ						
学習目標	新生児領域の主な疾患の病態生理、症状、検査・処置を学ぶ						
回数	内容						授業形態
3①	<p>新生児の感染症 (担当:山田)</p> <p>1) 感染経路</p> <p>2) 特徴的な症状</p> <p>3) おもな感染症</p> <p>①GBS ②ブドウ球菌 ③MRSA ④新生児結膜炎 ⑤TORCH</p> <p>4) B型肝炎母子感染予防</p> <p>新生児の黄疸</p> <p>1) 周産期母子医療センターについて</p> <p>2) 生理的黄疸</p> <p>3) 病的黄疸</p> <p>4) 黄疸の治療</p> <p>①光線療法 ②交換輸血 ③ガンマグロブリン療法</p>						講義
4②	<p>早産児について (担当:溝上)</p> <p>1) 在胎期間による分類</p> <p>2) IURRの定義</p> <p>3) 新生児の蘇生プログラム</p> <p>新生児の呼吸障害</p> <p>1) 肺の解剖生理発達</p> <p>2) 呼吸障害の症状</p> <p>3) 喘鳴の鑑別</p>						講義
16	終講時試験						講義
使用テキスト	系統看護学講座 小児看護学② 小児臨床看護各論 医学書院						
評価	本科目の他領域と合わせて時試験を行う。						
学習上の留意点	母性看護学方法論、小児看護学方法論の新生児の看護につながる学習になります						

授業科目	病態治療論V (女性生殖器領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	長野 浩明
		開講時期	前期	時間数	4時間・30時間		折戸 征也
科目目標	女性生殖器系の主な疾患の病態生理、症状、検査、治療、処置について学ぶ						
学習目標	主な女性生殖器系疾患の病態生理及び症状、検査・治療について理解できる						
回数	内容						授業形態
5①	月経異常 (担当:折戸) 不妊症(原因、治療) 更年期(症状、評価、治療)						講義
6②	疾患の理解(症状、検査、治療) (担当:長野) 1) 良性疾患 ①子宮筋腫 ②子宮内膜症 2) 悪性疾患 ①子宮がん ②卵巣がん						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学⑨ 女性生殖器 医学書院						
評価	本科目の他領域と合わせて試験を行う。						
学習上の留意点	ここで学ぶことは、看護に必要な知識となります。復習を行い、知識を修得していきましょう						

2年	病態治療論V	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	平野 明
前期	(乳腺領域)	開講時期	前期	時間数	2時間・30時間		
科目目標	消化器系、腎・泌尿器系、乳腺における主要疾患の病態生理、原因、誘因、症状と経過、検査・治療について学ぶ						
学習目標	1. 乳腺の構造と機能、検査・治療について理解できる 2. 主な乳腺疾患の病態生理及び検査・治療・処置について理解できる 3. 乳がんの外科的治療に伴う合併症と対応について理解できる						
回数	内容						授業形態
7①	乳がん 1) 乳がんの疫学 2) 乳がんの病態生理 原因・誘因、症状と経過 3) 乳がんの検査 ①視診・触診 ②超音波エコー ③マンモグラフィー ④CT、MRI、その他の画像検査 ⑤病理組織学的検査 4) 乳がんの治療 ①手術療法 ・術式の推移と「乳房温存術」の選択 ・腋窩リンパ節郭清/センチネルリンパ節 ・乳房再建術 ・術後合併症とその治療 ②薬物療法 ・ホルモン療法 ・化学療法 ③放射線療法 その他の乳腺疾患						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護学各論 医学書院						
評価	本科目の他領域と合わせて試験を行う。						
学習上の留意点	「乳がん」は女性の9人の1人が罹患すると言われている昨今である。乳がんを早期に発見し、早期に治療をしていくためには、自己検診・定期検診が不可欠である。本講を通して、学生自身が自己検診の必要性と方法を学び実践していくことが求められる。自身を含め女性が罹患する頻度の極めて高い疾患であり、治療に伴うボディイメージの変化や再発の危険性は心理面に大きな影響を及ぼす理解しつつ、社会生活の中で乳がんに関する情報に興味関心を持ちながら、病態と治療に対する知識を深めていくことを希望する						

授業科目	病態治療論V (眼科領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	土至田 宏
		開講時期	前期	時間数	4時間・30時間		
科目目標	1. 感覚器系の主な疾患の病態生理、症状、検査、治療、処置について学ぶ						
学習目標	眼の疾患に関する病態生理、原因・誘因、症状と経過、検査・治療・処置を学ぶ						
回数	内容						授業形態
8①	眼の解剖と機能、検査 1) 眼の構造と生理 眼の構造、視力、視野、眼圧、色覚、複視 2) 検査 視力検査、屈折検査、細隙灯顕微鏡検査、散瞳、眼底検査、眼圧検査、 瞳孔検査、視野検査、色覚検査、眼位・眼球運動、複視・両眼視機能検査						講義
9②	代表的な疾患 1) 機能の異常 屈折異常(近視、遠視、乱視、老視、)、視野異常、色覚異常、弱視、 眼位・眼球運動の異常(斜視、斜位、眼筋麻痺) 2) 部位別の疾患 眼瞼の疾患(麦粒腫、眼瞼下垂など)、結膜の疾患(結膜炎など) 角膜の疾患(角膜感染症、角膜移植など) ぶどう膜の疾患(ベーチェット病、サルコイドーシスなど) 網膜・硝子体の疾患(いわゆる眼底出血:糖尿病網膜症、高血圧眼底)、 硝子体出血、網膜剥離、加齢黄斑変性など)、水晶体の疾患(白内障) 緑内障(閉塞隅角緑内障、開放隅角緑内障、急性緑内障発作、緑内障 治療薬、レーザー、手術など)、視神経・視路の疾患						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学⑬ 眼 医学書院						
評価	本科目の他領域と合わせて試験を行う。						
学習上の留意点	この科目は、1年生で学ぶ解剖学、生理学、微生物学、臨床薬理と関連が大きい 1年生で学んだ学習内容を復習しながら学習に臨むこと						

授業科目	病態治療論V (耳鼻咽喉科領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	余田 敬子
		開講時期	前期	時間数	4時間・30時間		
科目目標	感覚器系の主な疾患の病態生理、症状、検査、治療、処置について学ぶ						
学習目標	耳・鼻・咽頭・喉頭に関する病態生理、原因・誘因、症状と経過、検査・治療・処置を学ぶ						
回数	内容						授業形態
10①	症状とその病態生理 1) 耳にあらわれる症状と病態生理 難聴、耳鳴、耳閉塞感、眩暈、耳漏、耳痛、顔面神経麻痺 2) 鼻にあらわれる症状と病態生理 鼻閉、くしゃみ、嗅覚障害、鼻声、耳漏、鼻出血、鼻痛、神経症状 3) 口腔、唾液腺、咽頭にあらわれる症状と病態生理 咽頭痛、呼吸障害、嚥下障害、知覚異常 4) 喉頭にあらわれる症状と病態生理 音声、言語障害、呼吸障害、喉(嗽)、喀痰、嚥下障害 検査と治療 1) 診察と診断の流れ 耳の診察、鼻の診察、中咽頭の診断、下咽頭・喉頭の診察 2) おもな検査 聴力検査、平衡機能検査、副鼻腔検査、耳管通気検査、内視鏡検査、 嗅覚検査、味覚検査、画像検査、喉頭ストロボスコープ 3) おもな治療 耳の処置、鼻の処置、咽喉頭の処置、手術療法						講義
11②	疾患の理解 1) 耳疾患 外耳疾患、中耳疾患、内耳・後迷路性疾患 2) 鼻疾患 外鼻疾患、鼻腔疾患、副鼻腔疾患 3) 口腔・咽喉頭疾患 口腔疾患、咽頭疾患、唾液腺疾患、喉頭疾患 4) 気道・食道・頸部疾患と音声・言語障害 気道・食道の疾患、頸部疾患、音声・言語障害						講義 講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学⑭ 耳鼻咽喉科 医学書院						
評価	本科目の他領域と合わせて試験を行う。						
学習上の留意点	この科目は、1年生で学ぶ解剖学、生理学、微生物学、臨床薬理と関連が大きい 1年生で学んだ学習内容を復習しながら学習に臨むこと						

授業科目	病態治療論Ⅴ (歯科・口腔外科領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	葭葉 清香
		開講時期	前期	時間数	4時間・30時間		
科目目標	感覚器系の主な疾患の病態生理、症状、検査、治療、処置について学ぶ						
学習目標	歯・口腔に関する病態生理、原因・誘因、症状と経過、検査、治療・処置を学ぶ						
回数	内容						授業形態
14①	1) 歯、口腔の構造と機能 2) 症状とその病態生理 口腔症状、顎口腔機能障害 3) 検査と治療・処置 口腔内検査、画像検査、歯科・口腔外科的検査(味覚検査、皮膚粘膜感覚検査、唾液分泌検査、下顎運動検査、咀嚼機能検査、咬合圧検査) 4) 疾患の理解、治療・処置 歯牙疾患(硬組織疾患)と歯周組織検査(修復処置、歯内治療、欠損補綴、口腔清掃指導、スケーリングとルートプレーニング) <齶蝕に続発する疾患> 顎骨の炎症、頬部、頸部蜂窩織炎、ビスフォスフォネート関連顎骨骨髄炎、壊死、歯性上顎洞炎 <口腔外科で取り扱う疾患> 1) 口腔粘膜の疾患 2) 嚢胞 3) 腫瘍、腫瘍類似疾患 4) 口腔領域の悪性腫瘍 5) 歯と顎骨の外傷(歯の脱臼、歯槽骨骨折、顎骨骨折)、軟組織の外傷 6) 口腔領域の先天異常、発育異常(舌小帯短縮症、顎顔面変形症 など)						講義
15②	患者の看護 1) 症状に対する看護(呼吸障害、開口障害、咀嚼障害 など)、 2) 治療、処置を受ける患者の看護(小児、高齢者 など) 3) 疾患を持つ患者の看護(口腔がん、放射線、化学療法、顎変形症 など) 特論 口腔ケア 口腔ケアの内容、ライフサイクル各期の口腔ケア、口腔清掃方法、義歯の取り扱い、全身疾患を持つ患者の口腔ケア						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学⑯ 歯・口腔 医学書院						
評価	本科目の他領域と合わせて試験を行う。						
学習上の留意点	この科目は、1年生で学ぶ解剖学、生理学、微生物学、臨床薬理と関連が大きい 1年生で学んだ学習内容を復習しながら学習に臨むこと						

授業科目	病態治療論VI (精神領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	大坪 天平
		開講時期	前期	時間数	8時間・ 30時間		
科目目標	精神、母性、小児、新生児における主要疾患の病態生理、原因、誘因、症状と経過、検査および治療について学ぶ						
学習目標	精神領域の主な疾患の病態生理、症状、検査・処置を学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	精神総論 1) 精神疾患の分類・診断基準 2) 患者に対する基本要素 3) 精神現在形の診察 4) 心理検査 5) 精神療法						講義
2	精神各論 1) 統合失調症のスペクトラム障害 ① 診断基準 ② 病型分類 ③ 治療						講義
3	気分障害 1) 抑うつ障害群 2) 双極性障害および関連障害群 3) 不安症/不安障害 4) 強迫症/強迫症障害 5) 心的外傷およびストレス因関連障害 6) 身体症状症 7) 食行動障害/摂食障害 8) 神経認知障害 9) せん妄 ① せん妄と認証の識別 ② 予防と治療						講義
4	認知症、発達障害、器質性神経障害、物質誘発性精神障害 病態生理、治療						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院						
評価	本科目の他領域と合わせて試験を行う。						
学習上の留意点	精神看護概論や方法論とともに、精神看護の基礎となります						

授業科目	病態治療論VI (救急領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	庄古 知久
		開講時期	前期	時間数	6時間・30時間		
科目目標	救急医療について、看護に必要な基礎知識を理解する						
学習目標	救急医療の基礎的知識について学ぶ						
回数	内容						授業形態
5①	救急医療の概要と基本的知識 1) 我が国の救急医療体制、救急医療と法的倫理的側面 2) 呼吸器系の症状 3) 循環器系の症状 4) 消化器系の症状 5) 泌尿器系・生殖器系の症状 6) 筋骨格筋系の症状 7) 内分泌系の症状 8) 精神状態の症状 意識障害・失神・ショック・窒息 9) 救急処置 ①BLS ②成人二次救急処置アルゴリズム ③心肺蘇生ガイドライン						講義
6②	我が国の救急医療体制、法的倫理側面 1) インフォームド・コンセント 2) アドボカシー 3) DNAR 4) 患者の観察とアセスメント 5) トリアージ						講義
7③	意識障害時の処置 1) 意識障害時の対応 2) 呼吸障害時の対応 3) ショック・循環障害時の対応 4) 急性腹症の対応 5) 体液・代謝障害への対応 6) 外傷 7) 熱傷 8) 溺水 9) 精神症状 10) 脳死状態への対応 11) 救急時に使用される薬品 カテコラミン、アドレナリン、ノルアドレナリン、ドパミン、ドブタミン など						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院						
評価	本科目の他領域と合わせて試験を行う。						
学習上の留意点	1年次の臨床看護総論Ⅱで学んだBLSと、3年次の看護の統合と実践Ⅱで学ぶ災害看護と関連させて学習してください						

授業科目	病態治療論VI (臨床検査領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	加藤 博之
		開講時期	前期	時間数	10時間・ 30時間		
科目目標	臨床検査について、看護に必要な基礎知識を理解する						
学習目標	臨床検査の基礎的知識について学ぶ						
回数	内容						授業形態
11①	臨床検査の基礎 1) 臨床検査とその役割 2) 臨床検査の種類 3) 臨床検査の場面と目的 4) 臨床検査結果の評価						講義
12②	主な臨床検査(1) 1) 臨床検査の流れと看護師の役割 2) 一般検査 3) 血液学検査						講義
13③	主な臨床検査(2) 1) 化学検査 2) 免疫、血清検査 3) 内分泌的検査 4) 微生物学検査						講義
14④	主な臨床検査(3)						
15⑤	5) 病理検査 6) 生体検査 ①循環機能検査 ②呼吸機能検査 ③超音波検査 ④MRI検査 ⑤内視鏡検査 ⑥X線 ⑦CT ⑧各医学 ⑨IVR・血管造影						
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院						
評価	本科目の他領域と合わせて試験を行う。						
学習上の留意点	患者の身体状況を把握するために重要な学習内容です。基礎看護学(検査)の単元や各病態治療論と関連させて学習してください						

授業科目	病態治療論Ⅵ (麻酔領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	市川 順子 上田 圭子 向山 瑤子
		開講時期	前期	時間数	6時間・ 30時間		
科目目標	1. 感覚器系の主な疾患の病態生理、症状、検査、治療、処置について学ぶ 2. 麻酔の種類と全身管理について理解する						
学習目標	麻酔についての知識を修得する						
回数	内容						授業形態
8①	麻酔とは (担当:上田) 麻酔の種類 1) 全身麻酔 2) 局所麻酔						講義
9②	局所麻酔 (担当:向山) 1) 局所麻酔とは 2) 局所麻酔の種類 3) 伝達麻酔 脊髄クモ膜下麻酔、硬膜外麻酔						講義
10③	全身麻酔 (担当:市川) 1) 全身麻酔とは 2) 麻酔薬の種類 ①吸入麻酔薬 ②静脈麻酔薬 ③麻薬:オピオイド ④筋弛緩薬 3) 気道確保法 4) 麻酔導入法 5) 麻酔維持、覚醒、抜管 6) 合併症 7) 術後管理 術前管理 1) 術前回診(問診と診察、検査データと麻酔上の留意点) 2) 麻酔前投薬 3) 経口摂取制限						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学⑫ 歯・口腔 医学書院						
評価	本科目の他領域と合わせて試験を行う。						
学習上の留意点	この科目は、1年生で学ぶ解剖学、生理学、微生物学、臨床薬理、2年次前期の成人看護学方法論Ⅰの中の「周手術期の看護」と関連が大きい。学んだ学習内容を復習しながら学習に臨むこと						

授業科目	病態治療論Ⅶ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	土岐 大介 風間 哲至 清水 達也 高橋 宏信 松浦 勝久 衛藤 薫 マーシャル祥子 小川 哲也
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	移植、再生医療、遺伝子医療、がん放射線療法、がん薬物療法、透析についての基礎的知識を学ぶ						
学習目標	1. 移植についての基礎的知識を学ぶ 2. 再生医療についての基礎的知識を学ぶ 3. 遺伝子医療についての基礎的知識を学ぶ 4. がん放射線療法・薬物療法についての基礎的知識を学ぶ 5. 透析療法についての基礎的知識を学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	<移植医療> 移植の拒絶反応と免疫抑制療法（担当：土岐）						講義
2	臓器移植の手術（担当：土岐） 虚血・再灌流障害と臓器保存						講義
3	造血幹細胞移植（担当：風間）						講義
4	<再生医療> 再生医療とは（担当：清水）						講義
5	幹細胞と再生医療（担当：松浦）						講義
6	本学初の再生医療：細胞シート治療（担当：高橋）						講義
7	<遺伝子医療> （担当：衛藤） 遺伝子の基礎						講義
8	遺伝子疾患と遺伝子診断 遺伝子疾患と治療						講義
9	<がん放射線療法> （担当：唐澤） 放射線療法の基礎						講義
10	放射線療法の臨床						講義
11～12	<がん薬物療法> （担当：マーシャル） 薬物療法の目的と種類、治療方針の決定 治療レジメンと晩期合併症、治療後の再発						講義 講義
13	免疫療法の種類、治療の実際						講義
14	<透析療法> （担当：小川） 透析療法の目的と適応						講義
15	透析療法の種類と特徴、実際						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	指定なし 適宜資料配布						
評価	各分野を合わせて試験を行う						
学習上の留意点	解剖学Ⅰ（第3・4章）、生理学Ⅰ・Ⅱ（呼吸・循環）の講義を基礎知識として展開する						

授業科目	リハビリテーション論	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	降矢 芳子 川瀬 義隆 安達 みちる
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	リハビリテーションの理念を学ぶ。身体的・心理的リハビリテーションを必要とする代表的な疾患と機能障害のアプローチ方法について学ぶ						
学習目標	1.各疾患や障害の特徴を理解することができる 2.各疾患におけるリハビリテーションの考え方とアプローチ方法を学ぶ 3.障害を抱えた人の社会復帰をしていくための支援方法を学ぶ 4.看護者としてのリハビリテーションを考える						
回数	内容						授業形態
1	リハビリテーションの概念（担当： ）						講義
2	運動器系障害に対するリハビリテーション①（担当： ）						講義
3	運動器系障害に対するリハビリテーション②						講義
4	中枢神経系障害に対するリハビリテーション①（担当： ）						講義
5	中枢神経系障害に対するリハビリテーション②						講義
6	神経難病患者に対するリハビリテーション（担当： ）						講義
7	廃用症候群に対するリハビリテーション①（担当： ）						講義
8	廃用症候群に対するリハビリテーション②						講義
9	循環器系疾患のリハビリテーション①（担当： ）						講義
10	呼吸器疾患のリハビリテーション①（担当： ）						講義
11	がんのリハビリテーション						講義
12～14	演習： 事例をもとに看護者の視点でリハビリテーションを考える						演習
15	まとめの講義後試験						講義・試験
使用テキスト		リハビリテーション看護 医学書院					
評価		出席状況、授業の参加度、筆記試験等を総合的に評価する					
学習上の留意点		今後学習する看護の基本となる。復習を行い知識を習得してほしい					

授業科目	医療倫理	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師
		開講時期	後期	時間数	15時間	
科目目標	人間尊重を基盤とした医療倫理の在り方について学び、倫理観を養う					三浦 靖彦・秋谷 直子 荒木田真子・斉藤 静香 井出 順子・専任教員
学習目標	1. 患者の権利と医療倫理を学ぶ 2. 医療と生命倫理を学ぶ 3. 現代医療を取り巻く諸問題と医療倫理を学ぶ 4. さまざまな看護場面における倫理を学ぶ					
回数	内容					授業形態
1	医療倫理を学ぶ（担当：三浦） 倫理とは 患者の権利と医療倫理 現代医療を取り巻く諸問題					講義
2	チーム医療と生命倫理（担当：三浦）					講義
3	急性期医療における医療倫理（担当：斉藤） 救命救急と救命看護					講義
4	生体移植と医療倫理（担当：荒木田） 脳死と臓器提供 手術看護と医療倫理					講義
5	周産期医療と医療倫理（担当：秋谷） 母性看護と倫理					講義
6	精神領域と医療倫理（担当：井出）					講義
7	がん治療・終末期と医療倫理（担当：専任教員）					講義
8	講義後レポート					講義 レポート
使用テキスト	指定なし 適宜資料配布					
評価	授業の参加度、各時限のレポート等、総合的に評価する					
学習上の留意点	医療人として持つべき倫理についての知識、看護実践のベースとなる考え方を学ぶ 日頃の生活から、倫理観を養うことを意識していく					

授業科目	公衆衛生学	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師
		開講時期	後期	時間数	30時間	
科目目標	公衆衛生に関連する統計情報、公衆衛生活動の現状を学ぶ 公衆衛生領域における健康教育の重要性を理解し、その活動の概要について学ぶ					宮山 貴光・中島 範宏 三木 貴子・有末 伸子 益田 岳・堤 亜樹子 秋山 千里・専任教員
学習目標	1. 公衆衛生に関連する統計情報を学ぶ 2. 公衆衛生活動の現状を知る 3. 健康教育の重要性や活動の概要を知ることができる					
回数	内容					授業形態
1	公衆衛生と健康の概念 (担当:宮山)					講義
2	人口統計と保健統計 (担当:三木)					講義
3	1)人口動態・静態統計					講義
4	人口統計と保健統計 (担当:三木)					講義
5	2)疾病・障害分類					講義
6	主要疾患の疫学、研究手法としての疫学 (担当:三木)					講義
7	地域保健 (担当:中島)					講義
8	母子保健 (担当:専任教員)					講義
9	学校保健 (担当:堤)					講義
10	予防接種・感染症対策 (担当:有末)					講義
11	成人・老年保健 (担当:益田)					講義
12	疾患対策・難病保健 (担当:益田)					講義
13	(がん、難病、腎疾患、リウマチ、アレルギー、臓器移植)					講義
14	精神保健 (担当:専任教員)					講義
15	環境保健 (担当:宮山)					講義
	産業保健 (担当:堤)					講義
	公衆衛生学演習 (担当:宮山)					演習
	まとめの講義後試験					講義・試験
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生 医学書院、国民衛生の動向 最新版 厚生統計協会					
評価	終講時試験(筆記試験)を総合的に評価する					
学習上の留意点	病気を持つ人も健康な人も公衆衛生が重要であることから、公衆衛生を身近なものとして捉えることができる。人々の健康のために公衆衛生の大切さを知り、良い社会への実現に向けて公衆衛生が重要であることを学ぶ					

授業科目	社会福祉	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	東海林 礼子
		開講時期	後期	時間数	30時間		
科目目標	社会保障及び社会福祉についての認識を深めてその内容を理解し、保健・医療・福祉の連携の意義について学ぶ						
学習目標	1. 社会保障制度と社会福祉の概要を理解し、具体的な保障内容を学ぶ 2. 所得保障制度を理解し、年金制度、社会手当、労働保険について学ぶ 3. 貧困や低所得者問題に対応する公的扶助制度について学ぶ 4. 高齢者福祉、障害者福祉、児童家族福祉の実態と、その施策を学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	社会保障制度の概要 1) 社会保障の概要 目的・機能・体系・内容・給付費 2) 社会福祉の概要と実施体制 主要8法の法構造と組織及び機関 3) 社会福祉の担い手 資格取得専門職、地域住民、ボランティア 等						講義
2	現代社会の生活変容と社会保険・社会福祉の動向 1) 生活変容 人口・家族・地域社会・経済/雇用状況 2) 動向 医療介護総合保健推進法→地域医療構想→地域包括ケアへ						講義
3	公的扶助(生活保護法)① 目的・3原則(保護の基準と但し書)						講義
4	公的扶助(生活保護法)② 4原則(申請・程度・即応・単位)						講義
5	公的扶助(生活保護法)③ 居住保護(8扶助)・施設保護(5施設)						講義
6	社会手当と低所得者対策 社会手当・公営住宅・生活福祉資金貸与 生活困窮者自立支援制度・障害者関連						講義
7	児童家庭福祉 子どもの人権と関連法、子育て支援と次世代育成支援対策 ひとり親家庭の支援、母子の健康水準の向上 小児慢性特定疾病 等						講義
8	障害児・社会福祉 児童・身体・知的・発達・精神各法の概要 障害者総合支援法 差別解決対策						講義
9	高齢者福祉 老人福祉法と関連施策 認知症者支援対策 後見制度 介護保険制度						講義
10	虐待対策 配偶者・児童・障害者・高齢者の特徴と留意点						講義
11	医療保障制度① 類型 我が国の特徴 国民医療費の動向						講義
12	医療保障制度② 保険者・被保険者 給付の種類とその内容 診療報酬 保険診療のしくみ 公的負担医療(自立支援医療・ 難病対策/前掲:障害者総合支援法)						講義
13	労働保険制度 労災保険 保険者・被保険者 給付内容 雇用保険 保険者・被保険者 給付内容						講義
14	所得保障制度 年金保険 保険者・被保険者 給付内容						講義
15	まとめの講義後試験						講義・試験
使用テキスト	系統看護学講座 社会保障・社会福祉 医学書院						
評価	筆記試験・レポート・授業の参加度等で総合的に評価する						
学習上の留意点	事前に授業内容を予習し授業に参加すること						

授業科目	医療保障制度	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	小松 美智子
		開講時期	後期	時間数	15時間		
科目目標	医療保障制度の概念を理解し、我が国の制度とその諸問題について学ぶ						
学習目標	1. 医療保険の種類とその対象者、特徴を学ぶ 2. 社会的支援を要する患者に対する医療機関としての役割を学ぶ 3. 療養先の選択と退院支援について学ぶ 4. 社会福祉実践と医療・看護との連携を学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	社会資源としての医療保障制度1 1) 社会資源とは？ 2) 社会保障の一分野としての医療保障制度 2) 医療保険の基本的な仕組み1国民皆保険制度とその影響 3) 医療保険の種類と給付内容						講義
2	社会資源としての医療保障制度2 1) 医療保険の基本的な仕組み2高額療養費・限度額適用認定証 2) 後期高齢者医療制度・各種医療助成制度 3) 日本の社会保障制度						講義
3	生活保護と障害者福祉について 1) 生活保護法:原理・原則 2) 障害者福祉:障害者とは？ 3) 各種手帳と利用できる制度						講義
4	医療機関の種類と連携について 1) 医療法による医療提供体制について 2) 医療機関の種類とその役割 3) 地域包括ケアシステムについて 4) 退院支援について						講義
5	介護保険と退院支援の実際 1) 介護保険制度が生まれた社会背景 2) 申請からサービス利用までの流れ 3) 各種在宅サービス・施設サービス 4) 退院支援プランの作成						講義・演習
6	家庭内の暴力と医療機関の役割 1) DVについて 2) 医療機関の役割 3) 児童虐待の種類・特徴・児童虐待防止法について 4) 医療機関における取組み:CAPS						講義
7	多職種連携について 1) 多職種連携の必要性について 2) 多職種連携の方法について						講義・演習
8	まとめの講義後試験						講義・試験
使用テキスト		系統看護学講座 健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉 医学書院					
評価		筆記試験・レポート・授業の参加度等で総合的に評価する					
学習上の留意点		事前に授業内容を予習し授業に出席すること。他の科目(関係法規、社会福祉、老年看護学、小児看護学、母性看護学、在宅看護論など)関連付けて学習するとよい					

授業科目	関係法規	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	中島 範宏
		開講時期	後期	時間数	30時間		
科目目標	法律を通じて、看護師の業務と責任および患者の権利について学ぶ						
学習目標	1. 他職種との比較を通じて看護師の業務の特徴を学ぶ 2. 看護師の仕事に伴う業務について学ぶ 3. 患者の権利について、その法的根拠を学ぶ 4. 複数の法律の相互関係について学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	法の概念						講義
2	医療と基本的人権						講義
3	保健師助産師看護師法						講義
4	医師法・歯科医師法・薬剤師法						講義
5	その他のコメディカル法						講義
6	医療法①						講義
7	医療法②						講義
8	診療情報と個人情報保護/臓器医療に関する法律						講義
9	薬務法						講義
10	医療過誤と関連法						講義
11	労働関連法						講義
12	保健関連法						講義
13	社会保険と福祉に関する法律						講義
14	全体のまとめ						講義
15	まとめの講義後試験						講義・試験
使用テキスト	森山幹夫. 看護関係法令(第52版). 医学書院. 2020年2月.						
評価	授業の参加度、筆記試験等で総合的に評価する						
学習上の留意点	関係法規の講義で扱う範囲は非常に広いため、難しいと感じたり、覚えきれないと思ってしまうこともあるでしょう。しかし、各法律は無関係に存在しているわけではなく、互いに補い合ったり、対応関係にあったりします。理解すべきポイントは講義内で繰り返し指摘しますので、習った知識を構造化するためにしっかり復習しましょう						

専門分野
基礎看護学 科目構成



授業科目	基礎看護学概論	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	看護学の概観を学ぶ						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の目的、対象者について学ぶ 2. 看護の歴史を振り返ることにより、現在の看護の立ち位置を確認し、今後について学ぶ 3. 人間とは何か、健康とは何かを多角的視点でとらえることを学ぶ 4. 多方面での看護の役割について学ぶ 5. 看護師と患者の人間関係について学ぶ 6. 看護における法と倫理、看護制度と看護行政について学ぶ 7. 専門職としての看護の在り方を学ぶ 8. 医療事故と医療安全への取り組みについて学ぶ 						
回数	内容						授業形態
1～2	人間科学としての看護学 学問としての看護、患者中心の看護、看護とは何か						講義
3～4	看護の過去から現在 ナイチンゲールが登場するまで～近代看護、職業的看護の発展						講義
5	看護における重要な概念 人間、健康について						講義
6～7	看護の役割と機能 看護の役割と機能、保健・医療・福祉の連携						講義
8～9	看護理論、看護実践の方法 各看護理論の概観、看護師-患者の関係、対人コミュニケーション						講義
10	看護における倫理と法 看護と法、倫理とは何か、臨床倫理、インフォームドコンセント						講義
11	看護実践を支えるもの 看護制度、看護行政、看護の周縁的な役割						講義
12	専門職としての看護 専門職とは、専門職と自律、専門職としての責任、看護基礎教育の変遷						講義
13	医療安全 医療事故と医療安全、医療安全への取り組み、看護職能団体の取り組み 事故発生メカニズム、事故対策、医療安全対策の具体的な例						講義
14	グローバル社会と看護 異文化の理解、非常時における学際的連携、災害における看護						講義
15	終講時試験						講義・試験
使用テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学① 看護概論 メヂカルフレンド社 ヘンダーソン：看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 ナイチンゲール：看護覚え書 本当の看護とそうでない看護 日本看護協会出版会 看護倫理20の理解と実践への応用 南江堂						
評価	筆記試験、提出物 等で総合的に評価する						
学習上の留意点	看護学の基礎となる科目です。今後学ぶ内容と関連するため、その意識を持って受講すること						

授業科目	医療安全 I	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	前期	時間数	15時間		
科目目標	患者の安全の最優先に考えるために必要な知識・態度を学ぶ						
学習目標	1. 医療安全を学ぶ意義、責任について分かる 2. 患者の安全を守るためのコミュニケーションについて分かる 3. KYT(危険予知トレーニング)において、危険察知能力を高めることができる						
回数	内容						授業形態
1	人間はなぜ間違いをおかすのか 意識状態の変動と医療安全を学ぶの意義 人間の3つの行動モデルと医療安全を学ぶことの意義 医療職を選ぶことの重さと安全努力の責務						講義
2	医療安全とコミュニケーション 不正確・不十分なコミュニケーションは不十分な事故要因 事故防止のための医療職間のコミュニケーション 医療事故防止のための患者とのコミュニケーション						講義
3	(安全管理の技術) ヒューマンエラーの特性と防止 看護事故の構造と防止の視点						講義
4～5	(基礎看護学実習 I 後) 演習: KYT(環境・コミュニケーション 事例)						演習
6～7	(基礎看護学実習 II 前) 演習: KYT(日常生活援助 事例)						演習
8	終講時試験						講義・試験
使用テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I メヂカルフレンド社 適宜 資料配布						
評価	筆記試験、提出物 等を総合的に評価をする						
学習上の留意点	・常に危険と隣り合わせな医療・看護場面に携わる者として、安全に対する意識を持つ必要があり、そのための入門となる科目である。真摯にこの科目と向き合ってもらいたい						

授業科目	共通看護技術 I (技術とは、コミュニケーション、 感染予防、教育指導)	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
	開講時期	前期	時間数	30時間			
科目目標	対象に日常生活援助に共通する技術(技術とは、コミュニケーションの技術、感染予防技術、教育指導技術、心理・社会的課題への援助)に必要な知識・技術・態度を習得する						
学習目標	1. 多角的に看護技術について学ぶ 2. 看護におけるコミュニケーションの技術に必要な基本的知識・技術・態度について学ぶ 3. 看護における感染予防技術に必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ 4. 看護における教育指導技術に必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ 5. 看護における心理・社会的課題への援助に必要な基礎的知識を学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	看護技術とは 看護技術と看護過程、看護技術の質、看護技術における倫理						講義
	(コミュニケーションの技術)						
2	コミュニケーションとは、対人関係プロセスとしての看護 看護におけるケアリングとコミュニケーション、看護理論とコミュニケーション						講義
3	看護とコミュニケーション コミュニケーションのプロセスに影響する要因						講義・演習 講義・演習
4	医療における信頼関係とコミュニケーション 疾患に伴ったコミュニケーション障害がある人への対応						講義・演習
	(感染予防の技術)						
5①	感染と感染予防策の基礎知識①						講義
6②	感染と感染予防策の基礎知識②、感染予防における看護師の責任 感染経路への対策①：手洗い						
7③	演習①：衛生的手洗い						演習
8④	感染経路への対策②：個人防護用具の使用 隔離法及感染源の拡散予防						講義
9⑤	演習②：必要の防護用具の選択・着脱、感染性廃棄物の取り扱い						演習
10⑥	感染源への対策						講義
11⑦	演習③：無菌操作						演習
	(教育指導技術)						
12①	看護の教育機能、指導技術の基本となるもの、指導の対象者と領域						講義
13②	指導の進め方						講義・演習
	(心理・社会的課題への援助)						
14①	心理的課題への援助、社会的課題への援助						講義
15	終講時試験						講義・試験
使用テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I メディカルフレンド社 参考テキスト: 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II 医学書院						
評価	筆記試験、提出物 等を総合的に評価をする						
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・看護の共通となる技術である。学んだ知識・技術を確実に身につけること ・演習オリエンテーションを受け、学ぶ姿勢を整えて演習に臨むこと 						

授業科目	共通看護技術Ⅱ (ヘルスアセスメント)	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	健康評価のためのヘルスアセスメントに必要な基礎的知識・技術・態度を習得する						
学習目標	1. ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーションが何かを学ぶ 2. バイタルサインの意義、方法及びアセスメントについて学ぶ 3. 身体計測の意義と方法及びアセスメントについて学ぶ 4. 全身の系統的アセスメントの意義と方法及びアセスメントについて学ぶ 5. 心理・社会的側面のアセスメント、セルフケア能力のアセスメントの意義と方法について学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	看護におけるヘルスアセスメント フィジカルアセスメントの基本① 体表解剖とフィジカルアセスメント、フィジカルアセスメントにおける基礎技術						講義
2～4	フィジカルアセスメントの基本② 一般状態のアセスメント：バイタルサイン、報告						講義
5	演習①：バイタルサインの測定						演習
6	フィジカルアセスメントの基本③ 一般状態のアセスメント：身体計測						講義
7	系統的なフィジカルアセスメント① 1) 体表面のアセスメント						講義
8	系統的なフィジカルアセスメント② 2) 呼吸器系のアセスメント						講義
9	系統的なフィジカルアセスメント③ 3) 循環器系のアセスメント						講義
10	系統的なフィジカルアセスメント④ 4) 腹部・消化器系、感覚器系のアセスメント						講義
11	系統的なフィジカルアセスメント⑤ 5) 脳神経、姿勢の保持、運動器系のアセスメント						講義
12～13	演習②：フィジカルアセスメント、身体計測 心理・社会的状態のアセスメント セルフケア能力のアセスメント						演習
14	技術試験：バイタルサインの測定						講義 演習
15	終講時試験						講義・試験
使用テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社						
評価	技術試験、筆記試験、提出物 等で総合的に評価する						
学習上の留意点	健全状態を総合的にアセスメントするためには、1つ1つの方法の根拠を理解し、正確な手技を持って情報を得る事、得た情報の意味を判断することが必要である。そのためには、看護技術のみならず、解剖学や生理学の、病態治療論の知識も多く必要となる。予習、復習を積極的に行いながら受講すること						

授業科目	共通看護技術Ⅲ (看護過程)	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	後期	時間数	30時間		
科目目標	問題解決のための思考過程と、看護記録・報告に必要な基本的知識・技術・態度を習得する						
学習目標	1. 看護過程の基になる考え方、看護過程と看護理論の関係について学ぶ 2. 看護過程の各段階について学ぶ 3. 看護過程の展開を事例を通して学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	看護過程とは						講義
2	看護過程の変遷						講義
3	アセスメント①						講義
4	アセスメント②						講義
5	関連図						講義
6	看護上の問題の特定(看護診断)						講義
7	計画						講義
8	実施						講義
9	評価						講義
10～13	事例展開						講義
14	看護記録						講義
15	終講時試験						講義・試験
使用テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 他、適宜指示する						
評価	筆記試験、提出物 等で総合的に評価する						
学習上の留意点	ここまで学んできた病態生理学や薬理学の知識も活用しながら、看護の思考過程を学ぶ。課題も多くあるが、今後の看護学へつながる重要な科目であるため、自主性を持って受講すること						

授業科目	日常生活援助技術Ⅰ (環境、活動)	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	看護実践の基盤となる、対象の日常生活援助技術(環境・活動)に必要な基礎的知識・技術・態度を習得する						
学習目標	1. 環境を整えるために必要な基本的知識・技術・態度について学ぶ 2. 活動・休息、安楽確保のために必要な基本的知識・技術・態度について学ぶ						
回数	内容						授業形態
	(環境を整える技術)(安全管理の技術)(感染予防の技術)						
1	環境の諸要素とその調整						講義
2	病室と病床の環境調整						講義
	<u>療養環境における危険防止、療養環境の清潔保持</u>						
3	デモンストレーション①：快適な療養環境の整備 (ベッドメイキング、ベッド周囲の環境整備、 室内気候の測定)						講義
4～5	演習①：快適な療養環境の整備						演習
6	演習②：臥床患者のリネン交換						講義
7～8	技術試験：ベッドメイキング						演習
	(活動・休息の援助技術)(安楽確保の技術)(安全管理の技術)(創傷管理技術)						
9①	活動と休息、活動のアセスメント、運動機能の維持・回復のための援助						講義
10②	看護における安楽の意義、安楽な体位保持 <u>褥瘡の予防</u>						講義
11③	ボディメカニクスの基本 運動機能の低下した人の援助①：体位変換						
12④	運動機能の低下した人の援助②：車椅子・ストレッチャーでの移動の援助 運動機能の低下した人の援助③：座位保持・起立動作の援助、歩行の援助 <u>転倒・転落防止</u>						講義
13～14	演習③：体位変換・体位保持						演習
⑤⑥	演習④：車椅子・ストレッチャー移乗の介助、車椅子・ストレッチャーの移送 歩行介助						演習
15⑦	安全保持の援助 睡眠の援助						講義
16	終講時試験						講義・試験
使用テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社						
評価	技術試験、筆記試験、提出物 等を総合的に評価をする						
学習上の留意点	・デモンストレーションを見て、自己練習を行ってください。ボディメカニクスの原理を意識すること、患者役の意見を取り入れて安楽な方法を考え練習を重ねて下さい ・演習にあたって、基本的な準備(練習、身だしなみ等)を十分に行って臨むこと						

授業科目	日常生活援助技術Ⅱ (食事、排泄)	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	通年	時間数	30時間		
科目目標	対象の日常生活援助技術(食事、排泄)に必要な基礎的知識・技術・態度を習得する						
学習目標	1. 食生活と栄養摂取の援助のために必要な基本的知識・技術・態度について学ぶ 2. 排泄の援助のために必要な基本的知識・技術・態度について学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	(食生活と栄養摂取の援助技術)(安全管理の技術) 食事・栄養摂取の意義としくみ、食事・栄養の意義とアセスメント						講義
2	患者への食事の援助、事例紹介						講義
3	演習①： 食事介助						演習
4	経腸栄養 <u>ライン・チューブトラブル防止</u>						講義
5～6	中心静脈栄養、末梢静脈栄養 演習②： 経管栄養法により流動食の注入 経鼻胃チューブの挿入						講義 演習
7①	(排泄の援助技術)(感染予防の技術) 排泄の意義としくみ、排泄のアセスメント						講義
8～9②③	排泄の援助①： トイレ、ポータブルトイレ、差し込み便器 排泄の援助②： 尿器、おむつ交換 <u>排泄援助における感染予防・排泄物の処理</u>						講義
10～11④⑤	演習③： 床上、ポータブルトイレ、おむつ						演習
12～13⑥⑦	排便・排尿障害のある患者の援助						講義
14⑧	演習④： 一時的導尿、膀胱留置カテーテルの管理						演習
15	終講時試験						講義・試験
使用テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社						
評価	筆記試験、提出物 等を総合的に評価をする						
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・食事・排泄はプライバシーに大きく関わり、個々のニーズも異なる。十分な配慮と、ニーズを捉えることの必要性を学ぶ ・演習では、事前に必要な知識やその方法を復習し、患者の立場になって考える姿勢を持って臨むこと 						

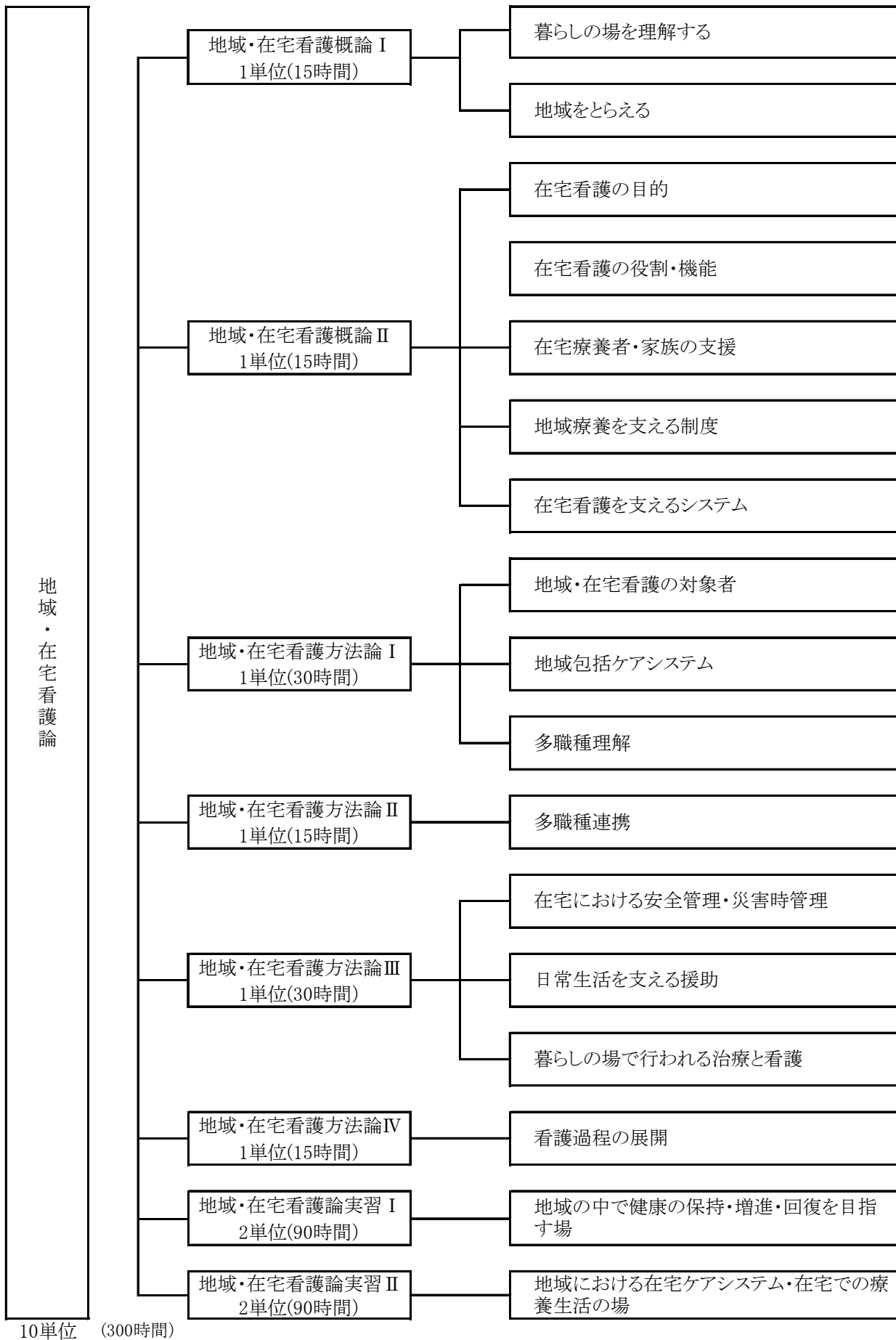
授業科目	日常生活援助技術Ⅲ (清潔・衣生活)	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	通年	時間数	30時間		
科目目標	対象の日常生活援助技術(清潔・衣生活)に必要な基礎的知識・技術・態度を習得する						
学習目標	1. 清潔の援助のために必要な基本的知識・技術・態度について学ぶ 2. 衣生活の援助のために基本的知識・技術・態度について学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	(清潔・衣生活)(安楽確保の技術) 清潔の意義、入浴						講義
2	手浴、足浴、陰部洗浄 マッサージ・指圧						講義
3～4	演習①：手浴、足浴 陰部洗浄						演習
5	洗髪						演習
6～7	演習②：洗髪						
8	全身清拭						講義
9	衣生活						演習
10	演習③：寝衣交換						演習
11	事例紹介、援助計画の立案(全身清拭・寝衣交換)						GW
12	演習④：援助計画の発表						演習
13～14	演習⑤：援助計画の実施						演習
15	終講時試験						講義・試験
使用テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社						
評価	筆記試験、事例の援助計画内容・技術習得度、等を総合的に評価をする						
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・演習での患者役の意見も取り入れながら、安全で安楽な清潔援助が提供できるように自己練習を重ねていくこと ・事例を用い援助計画を立案してもらうが、グループで意見を出し合い患者さんにとってより良い方法を熟考すること 						

授業科目	診療に伴う援助技術Ⅰ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	診療処置時の援助技術(呼吸・循環・検査)に必要な基礎的知識・技術・態度を習得する						
学習目標	1. 呼吸・循環を整える援助のために必要な基本的知識・技術・態度について学ぶ 2. 検査に伴う援助に必要な基本的知識・技術・態度について学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	(呼吸・循環を整える技術) 呼吸の意義とアセスメント、呼吸を楽にする姿勢・呼吸法						講義
2	気道分泌物の排除の援助						講義
3	酸素吸入療法						講義
4	演習①: 体位ドレナージ、酸素吸入療法						演習
5～6	演習②: 口腔内・鼻腔内・気管内吸引						演習
7	末梢循環促進の援助(温罨法・冷罨法)						講義
8①	(検査に伴う技術)(安全管理の技術)(感染予防の技術) 検査に伴う看護の役割、排泄物の検査						講義
9～10②③	体液・組織の検査① :尿、便、喀痰 体液・組織の検査② :血液、穿刺液(腰椎・胸腔・腹腔・骨髄穿刺) 分泌物、組織検査・生検・細胞診						講義
11③	<u>患者誤認防止、針刺し・切創・血液曝露事故防止</u> 演習②: 静脈血採血						演習
12～13④⑤	生体検査① :X線、CT、MRI、血管造影、内視鏡、超音波 <u>放射線曝露の防止</u>						講義
14⑥	生体検査② :心電図、脳波、核医学、肺機能、パルスオキシメトリー 生体情報モニター 洗浄(胃洗浄・膀胱洗浄)						講義
15	終講時試験						講義・試験
使用テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 江口正信 他編:検査早わかりガイド 第3版 サイオ出版 今日の治療薬 解説と便覧 2020 南江堂						
評価	筆記試験、提出物 等を総合的に評価をする						
学習上の留意点	・侵襲の大きな技術であり、患者と看護師両者の安全を確保した技術とするためには、解剖生理、病態治療論、感染予防の技術 などの知識が必要である。充分復習をして臨むこと						

授業科目	診療に伴う援助技術Ⅱ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	診療処置時の援助技術(与薬・救命救急処置・創傷管理)に必要な基礎的知識・技術・態度を習得する						
学習目標	1. 与薬・輸血の技術のために必要な基本的知識・技術・態度について学ぶ 2. 救命救急処置技術に必要な基本的知識・技術・態度について学ぶ 3. 創傷管理技術のために必要な基本的知識・技術・態度について学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	(与薬・輸血の技術) (安全管理の技術) 与薬に関する基礎知識 薬物療法の理解、看護師の役割、薬物療法を受ける患者の援助 <u>患者誤認防止、誤薬防止、薬液曝露の防止</u>						講義
2～4	経口与薬法 外用薬の皮膚・粘膜適応①： 口腔内与薬法、直腸内与薬法 外用薬の皮膚・粘膜適応②： 皮膚用製剤の塗布、貼付、点眼・点入法、吸入法 演習①： 経口薬(内服薬)、経皮・外用薬(点眼、坐薬)の投与 ネブライザーを用いた気道内加湿						講義 演習
5～6	注射法①： 基礎知識 注射法②： 皮下注射、皮内注射、筋肉内注射 注射法③： 静脈内注射、点滴静脈内注射						講義
7～8	演習②： 点滴静脈内注射 診療の補助技術における計算方法						演習
9	演習③： 皮下注射、筋肉注射						演習
10	輸血療法 輸液ポンプ、シリンジポンプ						講義
11①	(救命救急処置技術) 救命救急処置の意義と目的、救急蘇生法、止血法						講義
12②	演習⑤： 緊急時の応援要請、一時救命処置(BLS)						演習
13①	(創傷管理技術) 創傷管理の基礎知識、創傷の観察、創傷の処置						講義
14②	演習⑥： 創傷処置(包帯法)、止血法						演習
15	終講時試験						講義・試験
使用テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社						
評価	筆記試験、提出物 等を総合的に評価をする						
学習上の留意点	・侵襲の大きな技術であり、患者と看護師両者の安全を確保した技術とするためには、解剖生理、病態治療論、臨床薬理、感染予防の技術 などの知識が必要である。充分復習をして臨むこと						

授業科目	臨床看護総論	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	後期	時間数	30時間		
科目目標	臨床における経過別、障害別、治療別の看護に必要な基礎的知識を習得する						
学習目標	1. 健康障害の経過から見た看護について概観を学ぶ 2. 生命維持/日常生活に影響を及ぼす障害と看護についての概観を学ぶ 3. 治療方法とそれを受ける患者の看護についての概観を学ぶ 4. 医療機器使用の実際について学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	臨床看護とは						講義
2	臨床看護における対象者の理解、臨床看護の場						講義
3～5	健康障害の経過から見た看護 1) 健康障害のレベルとしての「経過」とは 2) 急性期を経験している患者の看護 3) 回復期を経験している患者の看護 4) 慢性期を経験している患者の看護 5) 人生の最終段階にある患者の看護 6) リハビリテーションと看護 7) 健康保持・増進への看護						講義
6～9	生命維持/日常生活に影響を及ぼす障害と看護 1) 生命維持/日常生活が障害されるということがどういことか 2) 呼吸が障害されるということ 3) 循環機能が障害されるということ 4) 栄養・排泄が障害されるということ 5) 運動機能が障害されるということ 6) 意識が障害されるということ 7) 痛みを経験するということ						講義
10～12	治療方法とそれを受ける患者の看護 1) 医療における意思決定とインフォームドコンセント 2) 安静療法と看護 3) 食事療法と看護 4) 薬物療法と看護 5) 手術療法と看護 6) 集中治療と看護 7) 救命治療と看護 8) 人工臓器/臓器移植を必要とする患者の看護 9) がん薬物療法と看護 10) 放射線療法と看護						講義
13	医療機器使用の実際、安全な使用、看護						講義
14	診療・観察、診断に用いる医療機器(担当: ME)						講義
15	終講時試験						講義・試験
使用テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論 メヂカルフレンド社						
評価	筆記試験、提出物 等で総合的に評価する						
学習上の留意点	臨床の場では、経過、障害、治療 などの様々な状況に応じた看護が求められる。 この単元では、それぞれの内容の概観を理解すること						

専門分野
地域・在宅看護論 科目構成



授業科目	地域・在宅看護概論 I (暮らしを理解する)	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	通年	時間数	15時間		
科目目標	暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解する						
学習目標	1. 地域で暮らす「地域」とは何か考えることができる 2. 人と人がつながって生きることの大切さを理解できる 3. 環境が健康にどのように影響するか理解できる 4. 地区視診から自助・互助・共助・公助を理解できる						
回数	内容						授業形態
1	地域と生活 (担当:三角) 地域アセスメントとその意義 地域での暮らしを支える地域包括ケアシステム						講義
2	地区視診・地区踏査による課題演習 (担当:石阪)						課題演習
3	地域で暮らす人々の健康と生活を支えるまちづくりと看護職の役割 (担当:石阪)						講義
4	健康の保持増進と疾病予防 (担当:小山) 保健所・保健センター						講義
5	保育園 (担当:小塚)						講義
6	健診センター (担当:篠田) 化学療法室						講義
7	デイケア・デイサービス (担当:伏見)						講義
8	まとめ グループ発表						講義・試験
使用・参考テキスト	地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド. 医歯薬出版株式会社 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア. メディカ出版						
評価	レポート、グループ発表によって評価する						
学習上の留意点	グループワーク・演習を取り入れ学習を行う						

授業科目	地域・在宅看護概論Ⅱ (在宅看護の基盤)	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	通年	時間数	15時間		
科目目標	地域・在宅看護論の対象と看護の基盤となる概念を理解する						
学習目標	1. 在宅看護が発展した経緯、背景について理解し、在宅看護の目的と特徴について理解できる 2. 在宅看護における看護師の役割について理解できる 3. 在宅看護の対象者の特徴、在宅療養者を支える家族を理解し、支援の在り方を理解できる 4. 在宅看護を支える制度と社会資源について理解できる 5. 在宅看護の対象(家族含む)の権利保障と考え方、仕組みを法的な視点を踏まえて理解できる						
回数	内容						授業形態
1	在宅看護の背景と基盤						講義
2	地域療養を支える在宅看護の役割・機能						講義
3	在宅看護を展開するための基本理念と倫理						講義
4・5	在宅療養者と家族の支援 在宅看護の対象者 在宅療養の場における家族のとらえ方						講義
6	地域療養を支える制度とその活用						講義
7	在宅看護を支えるシステム						講義
8	まとめの講義後試験						講義・試験
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア.メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術.メディカ出版						
評価	終講時試験						
学習上の留意点							

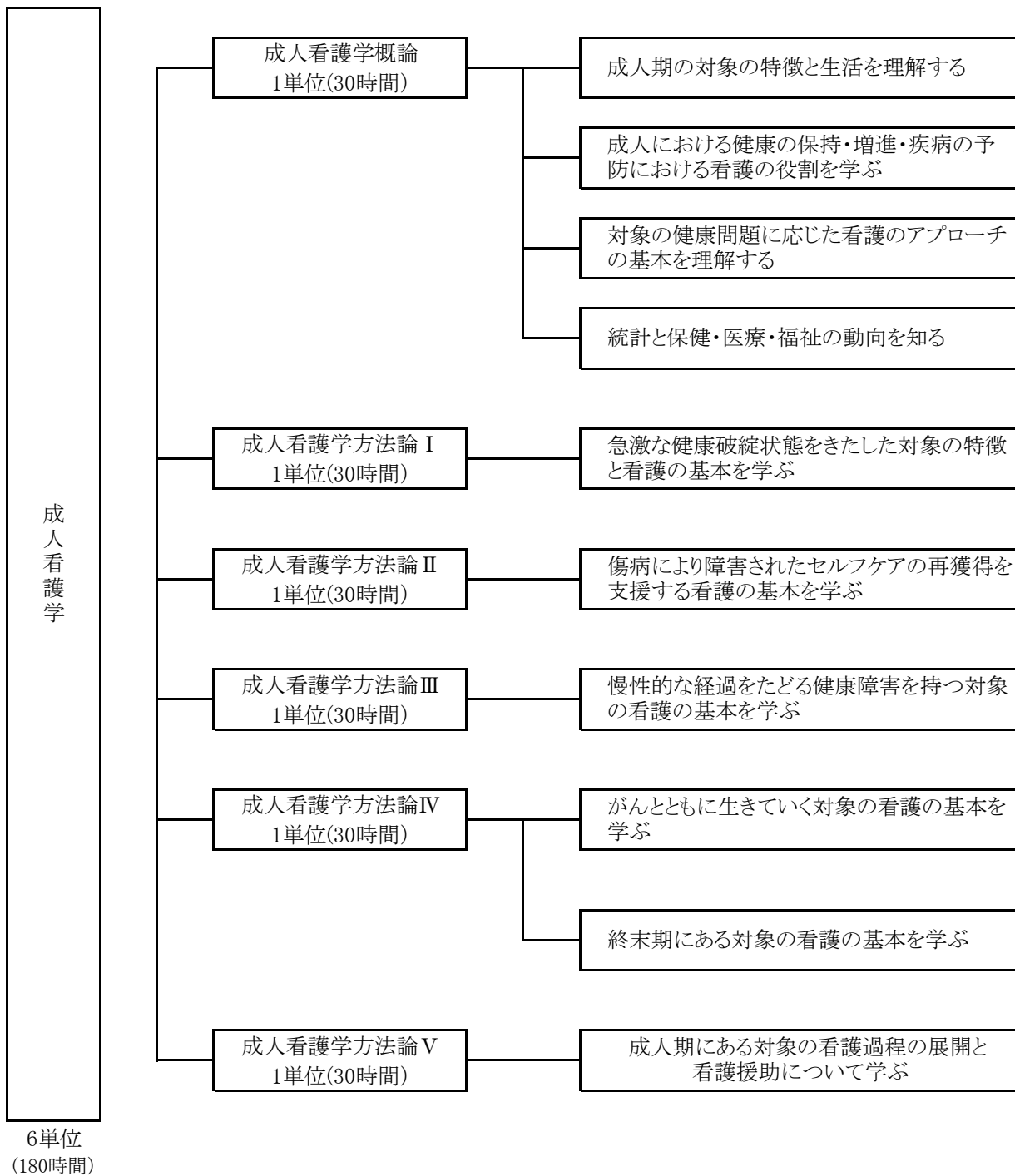
授業科目	地域・在宅看護方法論 I (地域の健康と暮らしを支える)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	菅谷 真理 望月 琳也 平野 一男
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	地域で暮らす人々の健康を守る看護を理解できる						
学習目標	1.地域が看護の対象になることと、その方法を理解できる 2.地域における人々の健康をまもる組織を理解する 3.健康の背景にある地域社会を理解する 4.地域包括ケアシステムの実際と多職種の役割を知る 5.暮らしの場で行われる治療と看護について理解できる						
回数	内容						授業形態
1	地域・在宅看護の対象のアセスメント (1～3回 担当:菅谷) 地域に暮らすすべての人々 健康状態、発達段階、家族						講義
2	訪問看護ステーションの仕組みと制度						講義
3～4	地域での協働と連携について (担当:平野) 地域包括支援センターの活動 ケアマネジャーの活動と役割						講義
5～6	多職種の理解 (担当:望月) 理学・作業・言語聴覚療法士の役割 福祉用具、サービスの活用						講義
7	演習 国際福祉機器展 見学						演習
8	薬剤師の役割 (担当:)						講義
9	地域で生活する人々と家族の看護 (担当:三角) 健康の保持増進・予防						講義
10	介入の時期と看護の継続 (10～15回 担当:菅谷) 治療の場から在宅への移行期、在宅療養安定期、在宅リハビリテーション期 急性増悪期、終末期						講義
11	演習 退院支援の看護						演習
12～14	地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメント 健康危機管理・災害時管理						講義
15	まとめの講義後試験						講義・試験
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア.メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術.メディカ出版						
評価	終講時試験、レポートなどで評価を行う						
学習上の留意点	演習やグループワークを取り入れて行う						

プレイを通し	地域・在宅看護方法論Ⅱ (多職種連携)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	後期	時間数	15時間		
科目目標	さまざまな組織・機関に属する職種との連携・協働に必要な基礎知識を理解する						
学習目標	1.多職種の役割と責務について理解する 2.多職種間の連携・協働のあり方を考える						
回数	内容						授業形態
1～2	多職種連携の概念 保健医療福祉の動向と多職種連携との関連について コミュニケーションと意思決定支援と合意形成 効果的なカンファレンス 地域資源の活用 ネットワークなどの連携・協働に関する基礎知識						講義
3	退院支援と多職種連携 地域移行支援・地域定着支援と多職種連携						講義
4～5	多職種および家族とのカンファレンス ロールプレイ準備						講義
6～7	ロールプレイ発表						演習
8	まとめの講義後試験						講義・試験
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア.メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術.メディカ出版						
評価	終講時試験、演習なども評価の視点に加える						
学習上の留意点	グループワーク、ロールプレイを通し、学修を深める						

授業科目	地域・在宅看護方法論Ⅲ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	松延 美由紀
		開講時期	通年	時間数	30時間		
科目目標	在宅療養を必要とする対象者の援助を学ぶ						
学習目標	1.療養の場における安全と健康危機管理について学ぶ 2.生活する場に訪問する看護師の姿勢について学び、信頼関係形成の在り方を学ぶ 3.基本的な看護技術を応用・創意工夫をし、在宅療養者に適した援助を理解する 4.医療依存度の高い療養者への援助技術を理解する 5.医療処置を必要とする療養者に対して、安全に実施できるための方法と留意点を理解する						
回数	内容						授業形態
1～2	在宅療養を支える基本的な技術 訪問時の心構え、身だしなみ、態度 在宅における面接技術、コミュニケーション 観察・アセスメント、環境整備						講義
3	日常生活を支えるアセスメントと援助技術						講義・演習
4	食						
5	排泄						
6	清潔と衣生活 移動・移乗・活動と休息						
7	暮らしの場で行われる治療と看護						講義
8	服薬管理						
9	栄養状態改善のケア・経管栄養法 在宅中心静脈栄養法(HPN)						
10	良肢位の保持と褥瘡予防・ストーマ管理 膀胱留置カテーテル						講義
11	在宅人工呼吸療法(HMV)と気道管理 非侵襲的陽圧換気療法 在宅酸素療法						講義
12	呼吸を整える技術(呼吸リハビリテーション、吸引)						講義・演習
13	在宅で療養する子どもと家族の支援						講義
14	看取りを迎える療養者と家族の支援						講義
15	まとめの講義後試験						講義・試験
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア.メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術.メディカ出版						
評価	終講時試験(筆記試験)100点						
学習上の留意点	基礎看護技術を復習しておきましょう						

授業科目	地域・在宅看護方法論Ⅳ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	小暮 和歌子
		開講時期	後期	時間数	15時間		
科目目標	在宅療養者の看護過程を展開できる						
学習目標	1. 在宅特有の看護過程の基礎を理解できる 1) 情報収集: 幅広い視点での情報収集の必要性と方法を理解できる 2) アセスメント: 生活者として対象をとらえる視点を理解できる 3) 看護目標: 療養者とその家族にとってのQOLを踏まえた目標が考えられる 4) 看護計画: 療養者とその家族のニーズに適した看護内容が考えられる 5) 実施・実施後の評価ができる 2. 療養者とその家族を支援する制度を理解できる 3. 在宅看護の特徴と重要なポイントを理解できる						
回数	内容						授業形態
1～2	在宅における看護過程の理解 1) 療養の場における看護過程とは 2) 在宅看護過程の特徴 3) 生活に密着した情報収集のポイントと必要性 4) 看護過程のプロセス						講義
3～4	特徴的な疾病のある療養者への在宅看護 1) 疾患の理解 2) 関連する制度について 3) 緊急時のサポート体制について 4) レスパイトケア						講義
5	事例展開発表						講義
6～7	看護計画の実施・評価						講義・演習
8	まとめの講義後試験						講義・試験
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア.メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術.メディカ出版 強みと弱みからみた在宅看護過程.医学書院						
評価	課題レポート①～③提出×10点、終講時試験(筆記試験)70点						
学習上の留意点	課題や自己学習をふまえてグループワークを通し学習を深めていくので、自己学習を事前に行っていくようにしましょう。						

専門分野
成人看護学 科目構成



授業科目	成人看護学概論	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	後期	時間数	30時間		
科目目標	成人期の対象の特徴と生活を理解し、健康保持・増進、疾病予防と成人看護におけるアプローチの基礎を知る						
学習目標	1. 成人期の対象の特徴と生活を理解する 2. 成人期における健康の保持・増進、疾病の予防における看護の役割について知る 3. 対象の健康問題に応じた看護のアプローチの基本を理解する 4. 統計と保健医療福祉の動向を知る						
回数	内容						授業形態
1	成人看護学の対象の理解						講義
2～4	成人期の特徴の理解 身体的・精神的・社会的側面の変化						講義・演習
5	成人期を取り巻く生活と社会 生活と健康を守り、育むシステム(法制度) 統計的輪郭と社会保障制度 保健、医療、福祉システムの概要と連携						講義
6	仕事をめぐる状況、日常生活の状況、家族形態の変化状況、環境						講義
7	成人における健康の保持・増進・疾患の予防 健康とは、健康観の多様化、生と死の動向、疾病構造の受療状況						講義
8～10	成人期における健康の保持・増進・疾患の予防(健康日本21) 生活習慣病に関連する健康障害、職業に関連する健康障害 生活ストレスに関連する健康障害						講義
11	ヘルスプロモーション 個人の主体的・集団的な健康づくりと看護 ヘルスプロモーションとは、個人の主体的な健康づくり 集団の健康づくり、ヘルスプロモーションを促進する看護の役割						講義
12～14	成人期看護における基本的考え方 関係を結ぶ、適応を促す、発達を促進する、統合を支援する 成人看護における倫理的課題と看護の基盤						講義
15	まとめ講義後試験						講義・試験
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 メディカ出版 国民衛生の動向 厚生労働統計協会						
評価	講義、レポート、授業の参加度で総合的に評価する						
学習上の留意点	成人は、社会に生き、世代をつなぐ存在でもある。よって、変動する社会に対してアンテナを高くし、日頃から時事にも関心を持って関わる必要がある。また、自らも成人学習者として、経験を豊かにして主体的に学習をすすめる。						

授業科目	成人看護学方法論Ⅰ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	急激な健康破綻状態をきたした対象の看護の基本を学ぶ						
学習目標	1. 急激な健康破綻状態をきたした対象の特徴と看護がわかる。 2. 急激な健康破綻状態をきたす代表的な疾患を持つ対象の看護がわかる 3. クリティカル看護の対象と看護の特徴について理解できる						
回数	内容						授業形態
1	クリティカル看護の概念 クリティカル看護の特徴とクリティカルケアを必要とする対象の特徴						講義
2	クリティカルな患者の侵襲と生体反応						講義
3	クリティカルな患者の主要病態の特徴とケア 1) 急性心筋梗塞の患者(アセスメントと看護実践)						講義
4	2) 心臓カテーテルを受ける患者の看護						講義
5	3) 心不全、不整脈、薬物療法を受ける患者の看護						講義
6	4) 重症感染症、DIC、呼吸管理、						講義
7	5) 脳血管疾患など						講義
8	周手術期看護の特徴、麻酔を受ける患者の看護						講義
9	周手術期看護(手術前・当日・手術中の看護)						講義
10	周手術期看護(術直後・術後の看護)						講義
11	周手術期看護(術後合併症のメカニズム)						講義
12	周手術期看護(術後回復促進及び合併症予防の看護)						講義
13	術後全身管理の実際 (創傷・ドレーン管理など)						講義
14	周手術期に必要な援助の実際 (呼吸訓練法、深部静脈血栓症予防法、創傷・ドレーン管理、早期離床)						演習
15	まとめ講義後試験						講義・試験
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 メディカ出版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学2・3・4・5・7 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 ナーシング・グラフィカ 成人看護学②健康危機状況/セルフケアの再獲得 メディカ出版						
評価	終講時筆記試験、レポート、演習などの参加状況等で評価する						
学習上の留意点	・クリティカルな状態にある患者の看護を学ぶためには、侵襲により生体にどのような変化が生じ、どのような反応が発生するかを理解する事が必要となる ・既習学習の復習を十分に行い、急激な健康破綻をきたした対象と周手術期の対象の看護を理解できるように学習に臨むこと						

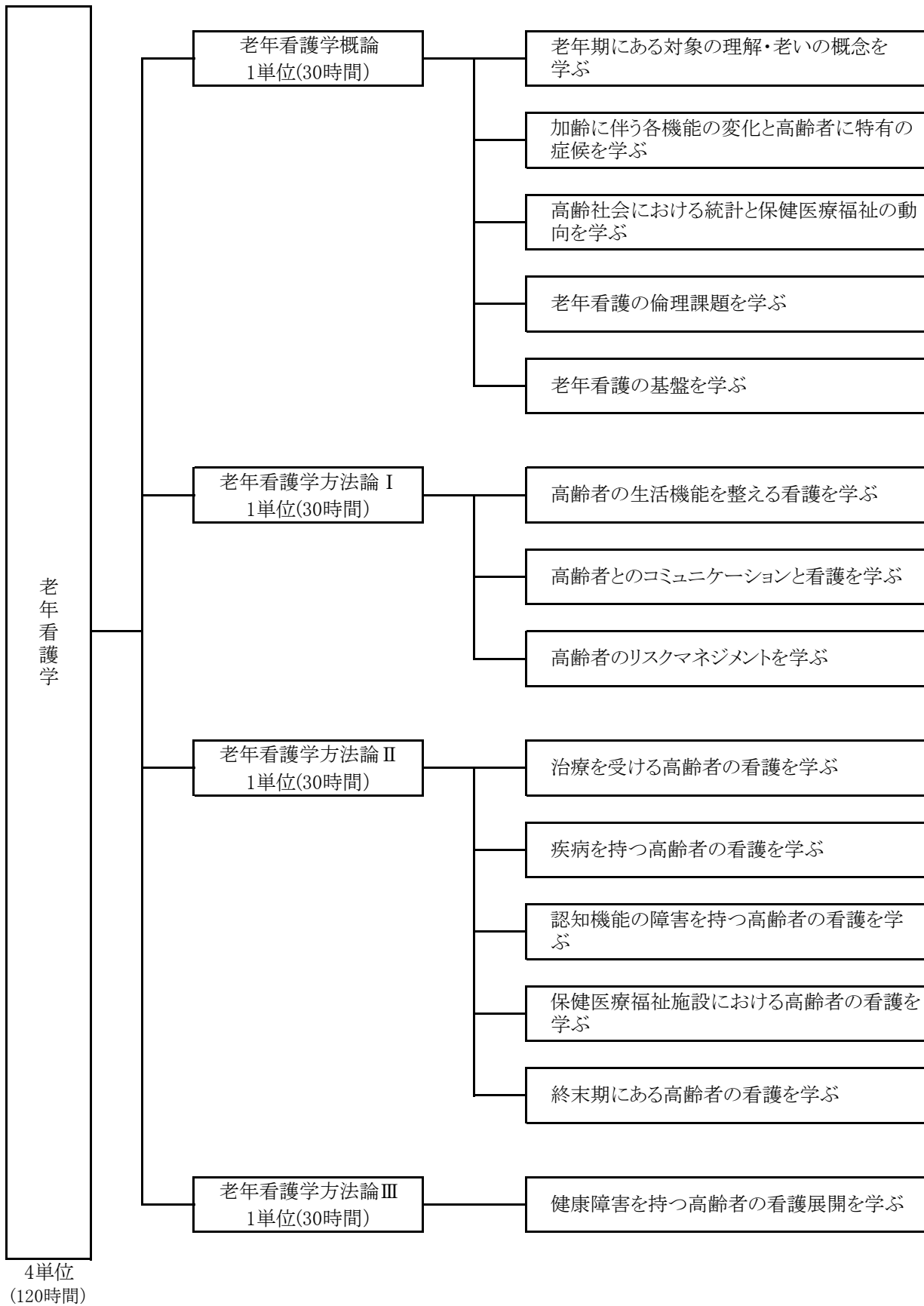
授業科目	成人看護学方法論Ⅱ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	傷病により障害されたセルフケアの再獲得を支援する看護の基本を学ぶ						
学習目標	1. 回復期にある対象の特徴を理解できる 2. セルフケア再獲得を目指す看護について理解できる 3. セルフケア再獲得を必要とする代表的な健康障害をもつ対象の看護が理解できる						
回数	内容						授業形態
1	回復期と回復期にある対象の特徴 セルフケア再獲得と自立						講義
2～3	セルフケア低下状態のアセスメントと評価 セルフケア再獲得を支援する看護 人的システム、法的システム						講義
4～5 6～7	脳・神経機能障害のある患者の看護 1) おもな疾患、治療と看護(脳血管疾患) 2) 機能障害を持つ対象の看護(嚥下障害・高次機能障害など)						講義
8～9	運動機能障害がある患者への看護 1) 骨格系の脊椎の運動機能障害がある患者の看護 (1) おもな疾患、治療と看護 (2) 機能障害を持つ対象の看護 2) 関節・筋肉の腫瘍、変形や神経に由来する 運動機能障害のある患者への看護 (1) おもな疾患、治療と看護 (2) 機能障害を持つ対象の看護						講義
12～13	栄養代謝機能障害にある患者の看護 1) おもな疾患、治療と看護 2) 機能障害を持つ対象の看護						講義
14	セルフケア再獲得の実際(演習)						演習
15	まとめ講義後試験						講義・試験
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ 成人看護学② 健康危機状況/セルフケアの再獲得 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑤ リハビリテーション看護 メディカ出版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学1～11 医学書院						
評価	筆記試験、レポート、授業への参加度で総合的に評価する						
学習上の留意点	既習学修を生かして、セルフケア再獲得のための支援を考える						

授業科目	成人看護学方法論Ⅲ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	通年	時間数	30時間		
科目目標	慢性的な経過をたどる健康障害を持つ対象の看護の基本を学ぶ						
学習目標	1. 慢性的な経過をたどる健康障害を持つ対象の特徴と看護がわかる 2. 代表的な慢性的な経過をたどる健康障害を持つ対象の看護がわかる						
回数	内容						授業形態
1～4	開講ガイダンス 慢性的な経過をたどる健康障害を持つ対象の理解、看護の特徴 1) 慢性的な経過をたどる健康障害を持つ対象の特徴 (身体的特徴・心理的特徴・社会的特徴) 2) 慢性的な経過をたどる対象の看護の基本的考え方 3) セルフマネジメント支援						講義
5	代表的な慢性的経過をたどる健康障害を持つ患者の看護 1) 慢性閉塞性肺疾患(COPD)を有する患者の看護① 病態生理、検査・治療の理解、対象の特徴						講義
6	2) 慢性閉塞性肺疾患(COPD)を有する患者の看護② 対象のアセスメント、看護						講義
7	3) 糖尿病患者の看護① 病態生理、検査・治療の理解、対象の特徴						講義
8	4) 糖尿病患者の看護② 対象のアセスメント、看護						講義
9	5) 慢性肝炎・肝硬変患者の看護① 病態生理、検査・治療の理解、対象の特徴						講義
10	6) 慢性肝炎・肝硬変患者の看護② 対象のアセスメント、看護						講義
11	7) 慢性腎不全(CKD)患者の看護① 病態生理、検査・治療の理解、対象の特徴						講義
12	8) 慢性腎不全(CKD)患者の看護② 対象のアセスメント、看護						講義
13	9) 全身性エリテマトーデス(SLE)患者の看護						講義
14	演習： 慢性的経過をたどる健康障害を持つ対象のセルフマネジメント支援 *詳細は追って説明する						演習
15	終講時試験・まとめ						試験
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学1～11 医学書院						
評価	筆記試験、レポート、授業への参加度で総合的に評価する						
学習上の留意点	慢性的な経過をたどる健康障害をもつ対象を全人的にとらえ、セルフマネジメント支援について学んでいく。既習の解剖生理、病態治療論などの復習をして臨むこと						

授業科目	成人看護学方法論Ⅳ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	専任教員 中別府多美得 吉田 有里 渡邊 直美
		開講時期	通年	時間数	30時間		
科目目標	がんとともに生きていく対象の看護の基本を学ぶ						
学習目標	1. 緩和ケアと看護の役割がわかる 2. がんとともに生きていく対象の特徴とその看護がわかる 3. がん治療の特殊性と看護の特徴がわかる 4. 死をめぐる倫理的課題がわかる 5. 終末期の特徴と看護の役割が理解できる 6. 自己の人生観・死生観を見つめることができる						
回数	内容						授業形態
1	がん医療の現状と看護						講義
2	がん患者の臨床経過						講義
3	がん患者の看護						講義
4	がん治療の患者の看護						講義
5	手術療法・薬物療法に関する基礎知識						講義
6～7	薬物療法における患者の看護						講義
8	放射線療法をうける患者の看護						講義
9	造血幹細胞移植を受ける患者の看護						
10～11	緩和ケア 1) 緩和ケアと看護の役割						講義
12～13	終末期看護 1) 終末期にある対象の看護 2) 死をめぐる倫理的問題 3) 高齢者における終末期と看護						講義
14	自己の人生観・死生観を考える 「今の私が思い描く人生観・死生観」講義内提出レポート						演習
15	まとめ講義後試験						講義・試験
使用テキスト	系統看護学講座 別冊 がん看護学 医学書院 ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア メディカ出版 医学書院、系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学4 医学書院						
評価	筆記試験、授業の参加度、レポート等で総合的に評価する						
学習上の留意点	患者は様々な治療を受け、異なる経過をたどる。患者を全人的にとらえ、看護を提供するための幅広い知識が得られるように、予習・復習をして臨むこと						

授業科目	成人看護学方法論Ⅴ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	後期	時間数	30時間		
科目目標	成人期にある対象の看護過程の展開と看護援助について学ぶ						
学習目標	1. 事例の生活背景、健康段階及び発達課題を理解することができる 2. 事例の病態・症状・治療を考慮し、対象の身体的・心理的・社会的側面を分析して、健康障害をもつ対象の全体像をとらえることができる 3. 看護問題を抽出し、優先度を考えて看護計画を立案できる 4. 看護援助の実施、評価、修正ができる						
回数	内容						授業形態
1	事例学習 1 病態生理、症状、治療、標準看護について学習						W:ワーク 個人W・講義
2	事例学習 情報の抽出とアセスメント、情報の関連付(全体像の描写) 看護上の問題の抽出						GW:グループワーク GW 講義
3	事例学習 事例個人ワークについて意見交換し、看護の考えを広め深める 情報の抽出とアセスメント 情報の関連付(全体像の描写) 看護上の問題の抽出						GW 講義
4	事例学習 グループで共有した看護上の問題に対し、必要な援助を考える 看護計画の立案 解説						GW 講義
5～6	看護の実践(シミュレーション学習) 演習: 観察、援助、評価、修正						演習
7～8	まとめ						講義・演習
9	事例学習 2 病態生理、症状、治療、標準看護について学習						個人W
10	情報の抽出とアセスメント、						個人W
11	情報の関連付(全体像の描写)						個人W
12	看護上の問題の抽出						GW
13～14	看護の実践(シミュレーション学習) 演習: 観察、援助、評価、修正						講義 演習
15	まとめ講義後試験						講義・試験
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 メディカ出版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学1～11 医学書院						
評価	個人学修、グループワーク、シミュレーション学習(演習)終講試験時筆記試験の総合評価						
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、グループで学習を進めていくため、個人個人が学習課題に積極的に取り組みながら、授業に参加し、グループで協力し、学習を進めていくことが大切である。 ・成人期の特徴を踏まえた学修を目的としているため、一連の学習を丁寧に理解すること 						

専門分野
 老年看護学 科目構成



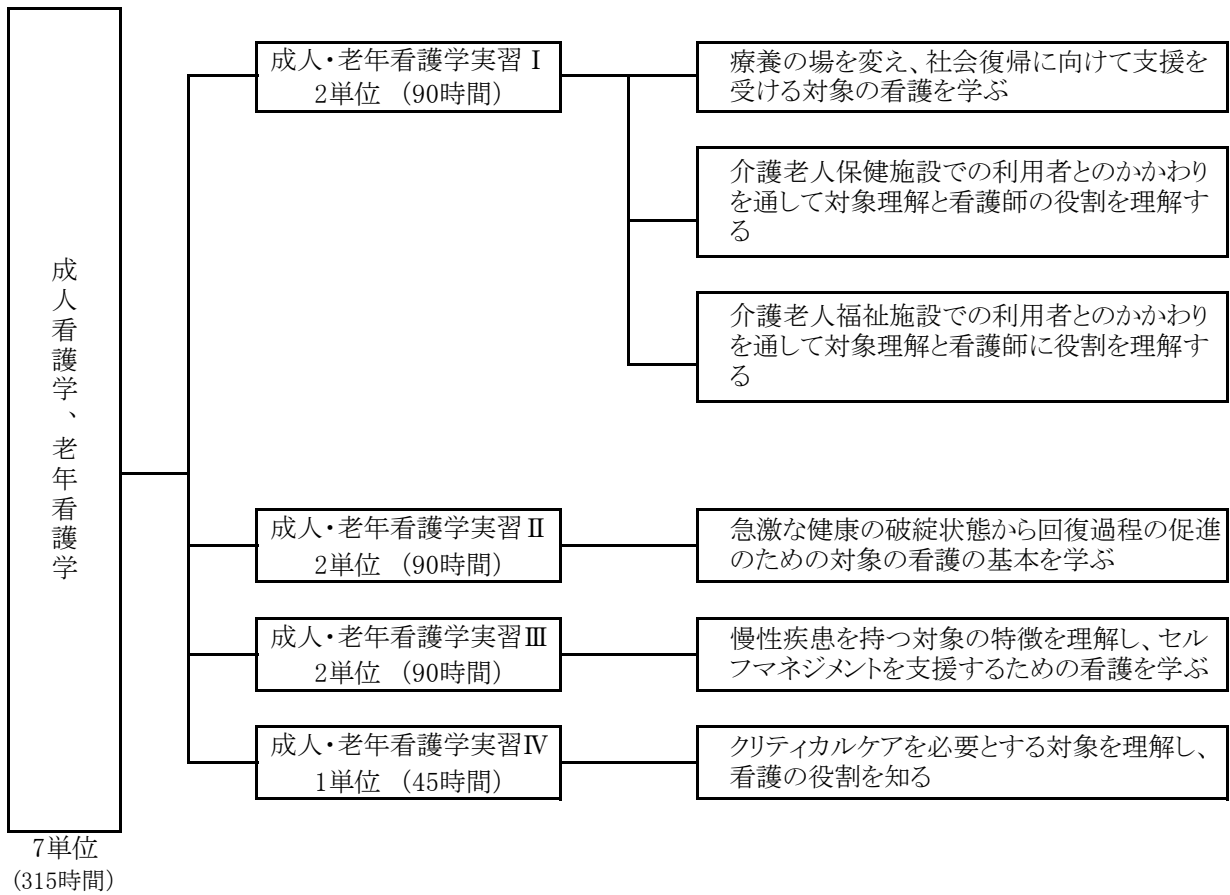
授業科目	老年看護学概論	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	後期	時間数	30時間		
科目目標	老年期にある対象の特徴を理解し、健康の保持増進・疾病予防のために看護の役割を理解する						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある対象の理解・老いの概念を学ぶ 2. 加齢に伴う各機能の変化と高齢者に特有の症状を学ぶ 3. 高齢社会における統計と保健医療福祉の動向を学ぶ 4. 高齢者を支える家族への支援を学ぶ 5. 老年看護の基盤を学ぶ 						
回数	内容						授業形態
1～2	老年期にある対象の理解・老いの概念						講義
3～4	高齢者の統計的輪郭						講義
5～6	老年看護倫理的課題について						講義
7～8	老年看護の基盤						講義
9～11	高齢者の加齢変化とアセスメント						講義
12～14	高齢者に特有な身体症状とアセスメント						講義
15	まとめ講義後試験						講義・試験
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 参考テキスト: 国民衛生の動向 厚生統計協会						
評価	終講時試験、高齢者体験レポート、グループ学習・発表、授業への参加度等で総合的に評価する						
学習上の留意点	老いとはどういうことか考え、加齢による変化やと急な症状を理解する。統計や保健医療福祉制度から高齢社会の現状を知り、高齢社会を支える制度や地域包括ケアの理解を深める。高齢者への看護はどの様であればよいかを深く学ぶ						

授業科目	老年看護学方法論Ⅰ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	高齢者の健康を支える看護の方法について理解する						
学習目標	1. 高齢者のQOLを配慮した看護の援助方法について理解できる 2. 加齢に伴う高齢者の日常生活に及ぼす影響を知り、看護について理解できる 3. 高齢者のリスクマネジメントと災害時看護がわかる						
回数	内容						授業形態
1～5	身体変化・生活リズム回復のための援助方法 「食生活への援助」「清潔への援助」他						講義 演習
6～8	日常生活拡大への援助 「日常生活を支える基本的活動」						講義 演習
9～12	身体変化・生活リズム回復のための援助方法 「排泄への援助」「おむつ交換と陰部洗浄」						講義 演習
13	高齢者と医療安全						講義
14	高齢者と災害						講義
15	まとめ講義後試験						講義・試験
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 医学書院 老年看護技術 アセスメントのポイントとその根拠 ニューヴェルヒロカワ						
評価	筆記試験、レポート(記録類)、グループワークへの参加度を総合的に評価する						
学習上の留意点	高齢者の健康レベルは様々な状況にある。様々な健康レベルにある高齢者に対してアセスメントの方法と看護ケアについて学習し、健康状態に合わせた看護を理解する						

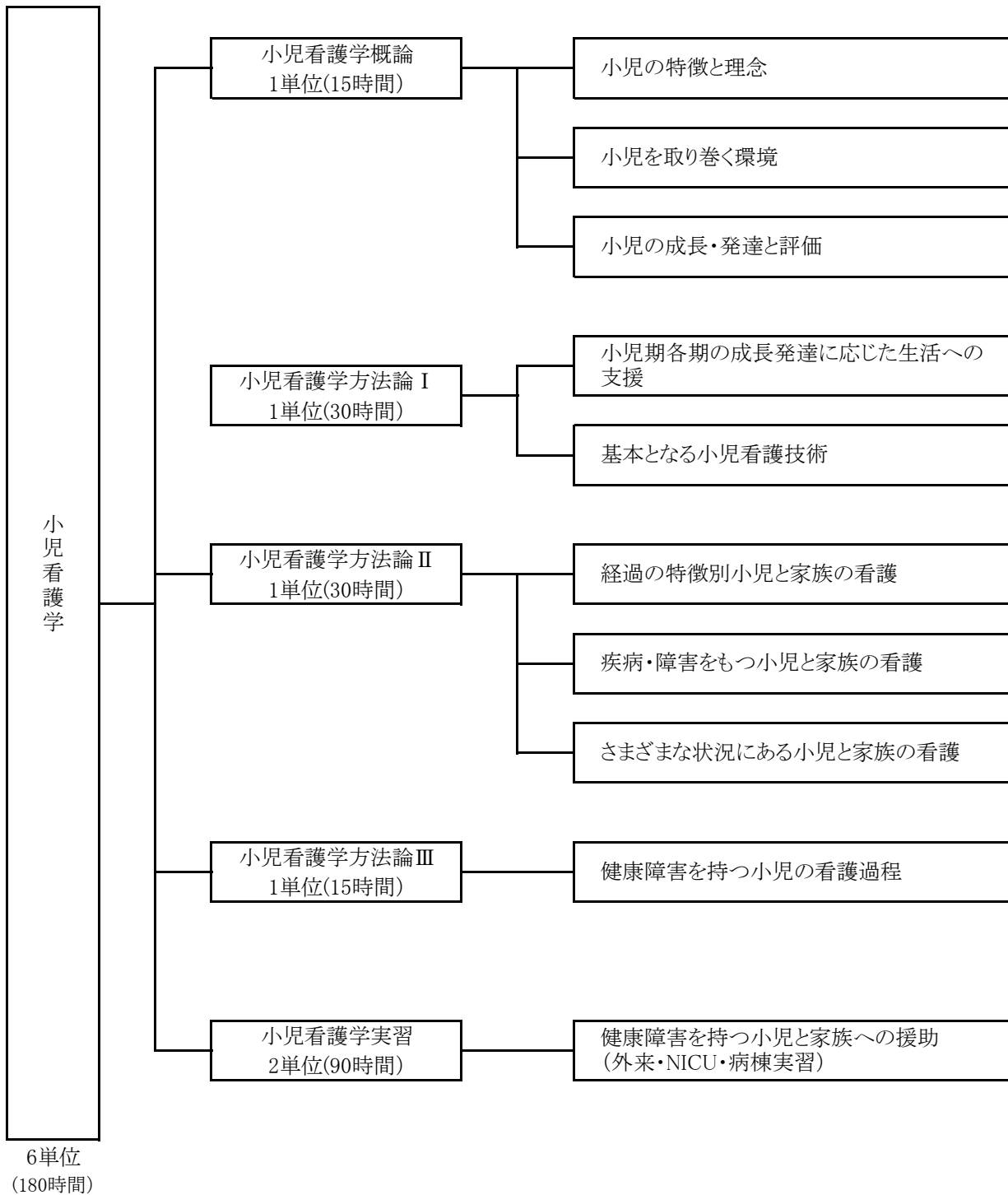
授業科目	老年看護学方法論Ⅱ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	通年	時間数	30時間		
科目目標	老年期に起きやすい疾患の特徴を知り、対象に合った看護方法を理解する						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 治療を受ける高齢者の看護について理解する 2. 老年期に起きやすい疾患の特徴と看護について理解する 3. 認知機能の障害と看護について理解する 4. 保健医療福祉施設の特徴と看護について理解する 5. 人生の終焉を迎える高齢者の終末期看護について理解する 						
回数	内容						授業形態
1～3	治療を受ける高齢者の看護 検査、薬物療法、外科的治療など						講義
4～6	高齢者特有の疾病と看護 パーキンソン症候群、骨粗鬆症、骨折、前立腺肥大症など						講義
7～9	認知機能の障害を持つ高齢者の看護						講義
10～13	保健医療福祉施設における看護 保健医療福祉施設の種類と特徴と看護の役割 保健医療福祉施設に求められる家族への看護 ライフヒストリーと自立支援への看護 高齢者のQOLを高める援助						講義
14	終末期にある高齢者の看護						講義
15	まとめ講義後試験						講義・試験
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 医学書院 老年看護技術 アセスメントのポイントとその根拠 ニューヴェルヒロカワ						
評価	筆記試験、レポート(記録類)、グループワークへの参加度を総合的に評価する						
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・疾患を持ちながら生活する高齢者への関わりを学び、人生の終末を病気だけでなく生活の延長線にあることを捉える ・老年看護学実習に必要な知識と技術の習得を図る ・高齢者の安全や安楽とは何か、自立した生活を送るために必要な看護を学ぶ 						

授業科目	老年看護学方法論Ⅲ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	後期	時間数	30 時間		
科目目標	健康障害を持つ高齢者の看護展開について学ぶ						
学習目標	1. 老年期の特徴を踏まえ、健康障害とその看護の方法を理解できる 2. 根拠に基づき看護を計画的に実践する必要性を理解できる						
回数	内容						授業形態
1～2	高齢者の看護過程に必要な視点 1) 高齢者の特徴的な身体・心理・社会的側面 2) 老年期に特徴的な疾患についての事例学習						講義 GW:グループワーク
3～4	情報の抽出と分析、関連付け						講義 GW
5～6	看護問題の抽出と看護目標の立案						講義 GW
7～8	看護計画の立案						講義 GW
9～11	演習：事例に基づき高齢者看護の実践						演習
12～14	演習のまとめ・発表						GW
15	まとめ講義後試験						講義・試験
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 医学書院 老年看護技術 アセスメントのポイントとその根拠 ヌーヴェルヒロカワ						
評価	筆記試験、レポート(記録類)、グループワークへの参加度を総合的に評価する						
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢に伴う変化や疾患が高齢者の生活に与える影響を捉える ・個別性や多様性のある高齢者の自立や生活支援を考える ・マイナス面だけでなく、プラス面へ向けた介入を考える ・高齢者を取り巻く家族についての考えを深める ・環境が与える影響を医療安全と関連付け、看護を捉える 						

専門分野
成人看護学、老年看護学 科目構成



専門分野
小児看護学 科目構成



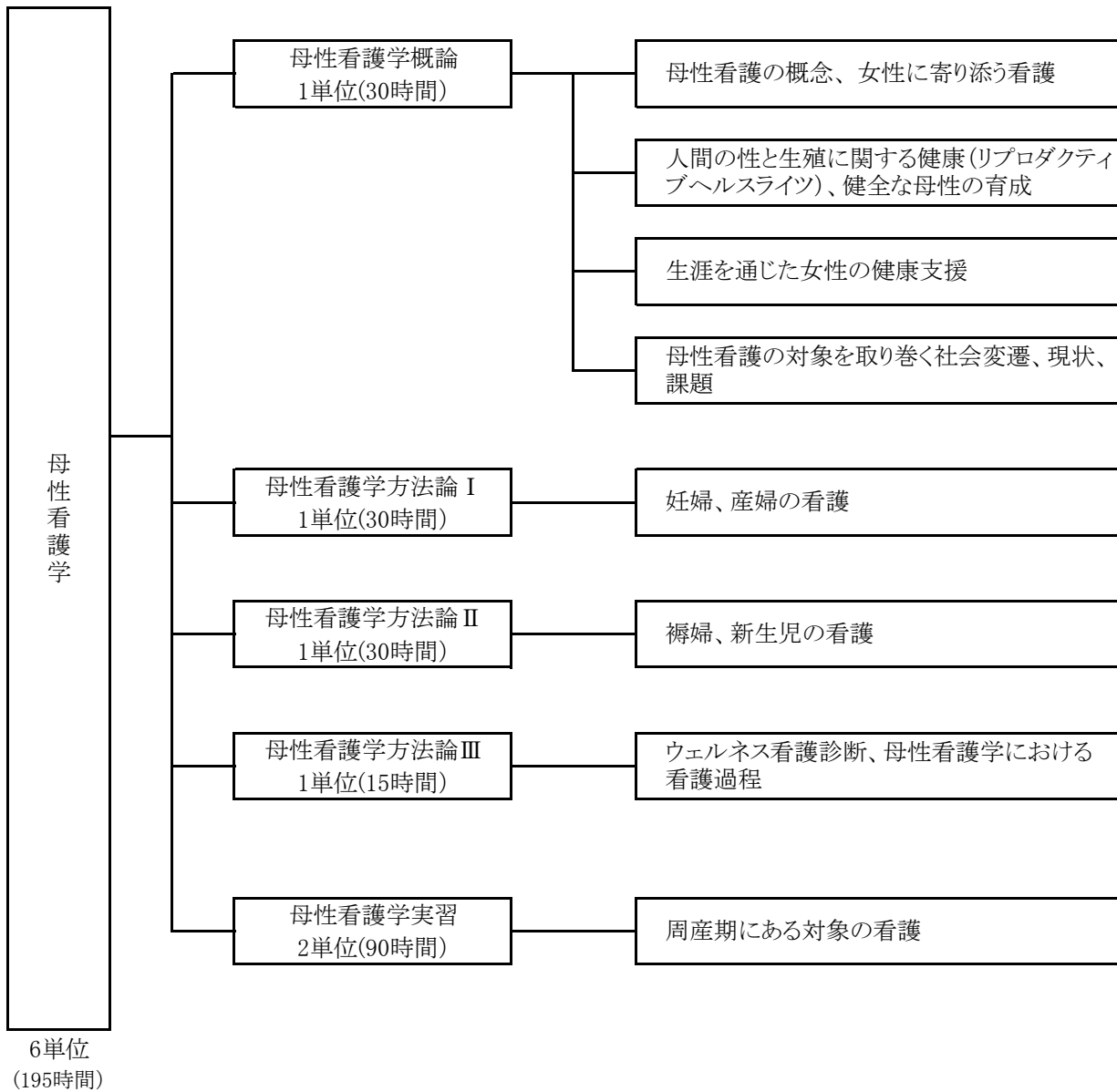
授業科目	小児看護学概論	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	専任教員 高木 志帆
		開講時期	後期	時間数	15時間		
科目目標	子どもの各成長・発達段階の特徴や取り巻く環境の意義をふまえ、小児看護の理念・目的が理解できる						
学習目標	1. 小児看護の対象の特性を学び、子ども観・家族観を深める 2. 小児各期の特徴と成長・発達が理解できる 3. 小児看護の目標と課題を理解し、小児看護観を育む						
回数	内容						授業形態
1	小児とは						講義
2	小児看護の特質						講義
3	小児看護における倫理						講義
4	小児を取り巻く環境（担当：高木）						講義
5～6	小児の特徴と成長・発達						講義
7	成長・発達の評価						講義
8	まとめ講義後試験						講義・試験
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論/小児臨床看護総論 医学書院、国民衛生の動向 厚生動向協会						
評価	終講時筆記試験100点で評価する						
学習上の留意点	小児医療や看護に関するニュースに関心を持ち、社会の一員としての行動を考えてみる						

授業科目	小児看護学方法論Ⅰ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	各成長発達段階に応じた健康増進のための看護を理解し、基本的な小児看護技術を習得する						
学習目標	1. 発達段階に応じた健康な日常生活のために必要な基礎的援助方法が理解できる 2. 子どもの発達段階を踏まえて健康状態を把握するために必要な看護技術が理解できる 3. 検査・処置・治療が子どもに与える影響を踏まえ、発達段階別に必要な看護技術が理解できる						
回数	内容						授業形態
1～2	乳児期の成長・発達に応じた生活への支援						講義
3～4	幼児期の成長・発達に応じた生活への支援						講義
5	学童期の成長・発達に応じた生活への支援						講義
6	思春期の成長・発達に応じた生活への支援						講義
7	小児看護に必要な看護技術						講義
8～9	治療に伴う小児看護技術						講義
10～11	発達段階別に必要な看護技術 1) プレパレーションの意義と方法 2) 事例を用いた計画の立案						講義 GW
12～13	演習：計画に基づいたプレパレーションの実践						演習
14	検査、処置、治療が子どもに与える影響 演習の振り返り						講義
15	まとめ講義後試験						講義・試験
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論/小児臨床看護総論 医学書院						
評価	終講時筆記試験100点で評価する						
学習上の留意点	健康な小児を理解することがのちの健康障害時の看護に繋がるため、イメージを促しながら学習を進める						

授業科目	小児看護学方法論Ⅱ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	通年	時間数	30時間		
科目目標	健康障害を持つ子どもと家族を理解し、さまざまな状況に合わせた基礎的看護実践について理解できる						
学習目標	1. 健康障害や入院が子どもと家族に与える影響と必要な看護が理解できる 2. 小児における疾病の経過と看護が理解できる 3. 小児特有の疾患が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、健康障害を持つ子どもとその家族の援助方法が理解できる						
回数	内容						授業形態
1	病気や入院が子どもと家族に与える影響と看護						講義
2	外来における子どもと家族の看護						講義
3	急性期にある子どもと家族への看護						講義
4	周手術期における子どもと家族への看護						講義
5	救命救急処置を要する子どもと家族への看護						講義
6	慢性期にある子どもと家族への看護						講義
7	終末期にある子どもと家族への看護						講義
8	循環機能障害のある子どもと家族への看護						講義
9	腎機能障害のある子どもと家族への看護						講義
10	感染予防の必要がある子どもと家族への看護						講義
11	神経・筋疾患のある子どもと家族への看護						講義
12	先天性疾患のある小児と家族への看護						講義
	心身障害のある子どもと家族への看護						
13	虐待を受けている子どもと家族への看護						講義
14	災害を受けている子どもと家族への看護						講義
15	まとめ講義後試験						講義・試験
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論/小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児看護学各論 医学書院						
評価	終講時筆記試験100点で評価する						
学習上の留意点	疾患の看護は、病態治療論Ⅵ(小児)と連動しているため、復習をして臨むこと						

授業科目	小児看護学方法論Ⅲ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	後期	時間数	15時間		
科目目標	既習学習内容を統合し、小児看護学過程の要点を踏まえ、健康障害を持つ子どもと家族に必要な看護展開が理解できる						
学習目標	1. 小児に特徴的な看護過程について理解できる 2. 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力のために必要な思考過程がわかる 3. 小児に必要な看護援助の実際について理解できる						
回数	内容						授業形態
1	開講ガイダンス 小児の看護過程の特徴 看護展開をする上での疾患・成長発達の振り返り 事例内容の提示、情報の整理						講義 GW
2	情報の整理とアセスメント						GW
3	関連図を描いてみよう						GW
4	看護計画の立案・演習準備						GW
5～6	演習：看護計画の実践 グループで考えた計画の実施						演習
7	演習の評価、まとめ						GW
8	まとめ講義後試験						講義・試験
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論/小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児看護学各論 医学書院						
評価	出席状況、グループワークの参加度及び記録物、終講時筆記試験を総合的に評価する						
学習上の留意点	本科目は小児看護学の科目の集大成となるため、既習学習を復習し、必要な資料を準備して臨むこと これまでの看護過程や小児看護の講義のもとに、小児に特徴的な看護援助に結び付き、実践の能力が向上することを期待したい						

専門分野
母性看護学 科目構成



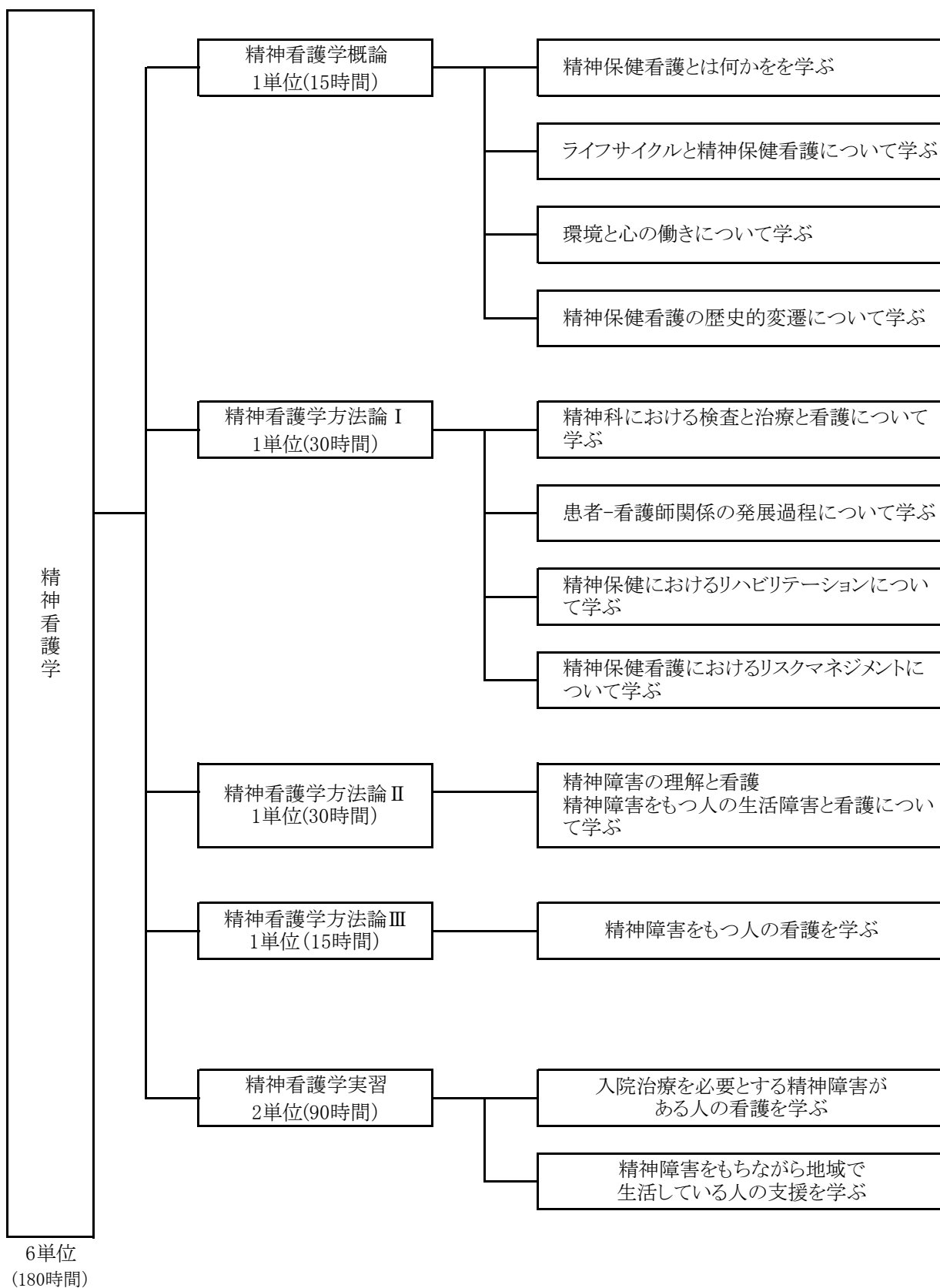
授業科目	母性看護学概論	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	後期	時間数	30時間		
科目目標	母性看護の概念を学び、女性に寄り添う看護のあり方を理解する						
学習目標	1. 母性看護の概念を学ぶ 2. 人間の性と生殖に関する健康と権利(リプロダクティブヘルス/ライツ)、健全な母性の育成を学ぶ 3. 生涯を通じた女性の健康支援を学ぶ 4. 母性看護の対象を取り巻く社会変遷、現状、課題を考える						
回数	内容						授業形態
1	母性看護の基盤になる概念 母性、母子関係と家族発達、セクシュアリティ(人間の性) 人間の性と生殖に関する健康と権利(リプロダクティブヘルス/ライツ) ヘルスプロモーション、ウイメンズヘルス						講義
2	母性看護のあり方 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状						講義
3	母性看護の対象理解① 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化、女性のライフサイクルと家族						講義
4	母性看護の対象理解② 母性の発達・成熟・継承、親性・父性						講義
5	生涯を通じた女性の健康支援① ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性、思春期の健康と看護						講義
6	生涯を通じた女性の健康支援② 成熟期・更年期・老年期の健康と看護						講義
7	母性看護の対象を取り巻く現状と課題・リプロダクティブヘルス/ライツ チームを編成しテーマを決めて学習する						講義 チーム学習
～	テーマ例) 家族計画、性感染症、HIV、人工妊娠中絶 喫煙、DV、児童虐待、国際化社会						
12	出生前診断、不妊、少子化、子育て支援 など						演習
13	チーム学習まとめ、性教育の実際						演習
14	母性看護における倫理						講義
15	終講時試験						講義・試験
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院						
評価	出席状況、プロジェクト学習参加状況、提出物、終講時試験を総合的に評価する						
学習上の留意点	自分自身も母性、女性であることを認識し、社会の現状・課題を意識し、女性に寄り添う看護の在り方を考える						

授業科目	母性看護学方法論Ⅰ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	妊婦・産婦の看護に必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ						
学習目標	1. 妊娠経過を理解し、妊婦に必要な看護を学ぶ 2. 分娩経過を理解し、産婦に必要な看護を学ぶ 3. 妊婦・産婦の看護に必要な看護技術を習得する						
回数	内容						授業形態
1	妊娠とは 妊娠の生理・妊娠の成立						講義
2	母体の生理的変化						講義
3	胎児の発育とその生理						講義
4	妊婦と胎児のアセスメント 1)レオポルド触診法 2)子宮底長 3)胎児心拍聴取 4)NST判読						演習
5	妊婦と家族の看護 1)妊婦健康診査 2)保健指導(集団指導、個別指導) 3)地域との連携 特定妊婦						講義
6	妊娠の異常と看護① 1)妊娠持続期間の異常 2)異所性妊娠 3)母子感染症 4)合併症妊娠						講義
7	妊娠の異常と看護② 1)妊娠高血圧症候群 2)妊娠糖尿病 3)多胎妊娠						講義
8	妊婦の看護に必要な看護技術 1)子宮底長の計測 2)腹囲計測 3)レオポルド触診法 4)胎児心拍の聴取						講義
9	分娩とは 分娩3要素						講義
10	分娩経過と看護① 1)産婦、胎児、家族のアセスメント 2)分娩時の援助 3)産婦と家族の看護						講義
11～12	分娩経過と看護② 1)胎児とその付属物 2)分娩時の異常						講義
13	分娩時の損傷・出血・産科処置・手術 1)前置胎盤 2)常位胎盤早期剥離						講義
14	急速分娩、異常経過時の看護 帝王切開分娩の看護						講義
15	終講時試験・まとめ						講義・試験
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院 写真で分かる母性看護技術 インターメディカ						
評価	出席状況、授業・提出物、終講時試験を総合的に評価する						
学習上の留意点	妊娠期・分娩期にある対象の看護を学び、臨地実習に繋げる						

授業科目	母性看護学方法論Ⅱ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	通年	時間数	30時間		
科目目標	褥婦・新生児の看護に必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ						
学習目標	1. 産褥経過を理解し、褥婦に必要な看護を学ぶ 2. 新生児の生理を理解し、新生児に必要な看護を学ぶ 3. 褥婦・新生児の看護に必要な看護技術を習得する						
回数	内容						授業形態
1	産褥期の生理的・心理的・社会的変化						講義
2	産褥期の異常 帝王切開含む 1) 子宮復古不全 2) 産褥期の発熱 3) 精神障害 4) 乳房トラブル						講義
3	産褥期のアセスメント 1) 妊娠・分娩経過を踏まえたアセスメント 2) 日齢に応じた変化						講義
4	産褥早期の看護 1) 身体機能の回復及び進行性変化への看護 2) 育児にかかわる看護						講義
5	退院から退院後に向けての看護 1) 退院に向けた健康支援 2) 家族役割の調整 3) 施設退院後の看護						講義
6	新生児の生理 1) 出生直後の新生児 2) 日齢に応じた変化						講義
7	新生児の異常						講義
8	新生児の観察とアセスメント						講義
9	新生児の看護 1) 栄養 2) 清潔 3) 環境 4) 擁護 5) 母子関係 6) 事故防止						講義
10・11	褥婦と新生児の看護に必要な看護技術 1) 褥婦の退行性変化観察 2) 乳頭マッサージ 3) 授乳介助 4) 新生児のバイタルサイン測定 全身の観察 5) 清潔保持						演習
12	演習結果から褥婦、新生児の日齢に応じたアセスメント						演習
13	出生直後から集中治療が必要な子どもと家族への看護 1) NICUにおける看護 2) 母子分離状態の看護						
14	様々な状況に応じた母子の看護						講義
15	終講時試験						講義・試験
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院 写真で分かる母性看護技術 インターメディカ						
評価	出席状況、授業・演習の参加状況、提出物、終講時試験を総合的に評価する						
学習上の留意点	臨地実習にあたり、周産期がより良い状況で経過できるように援助する看護の役割、重要性を考える						

授業科目	母性看護学方法論Ⅲ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	後期	時間数	15時間		
科目目標	看護過程の展開を通し、母性看護に特有な看護を理解する						
学習目標	1. 母性看護に必要なウェルネス看護診断の考えが理解できる 2. 母性看護学における看護過程が展開でき、対象に必要な看護を考えることができる						
回数	内容						授業形態
1	母性看護における看護過程の特徴 ウェルネス看護診断の考え方						講義
2	褥婦と新生児の看護過程を展開 必要な情報収集・アセスメント						講義・演習
3	褥婦と新生児の看護過程を展開 アセスメント						講義・演習
4	褥婦と新生児の看護過程を展開 看護診断と看護目標						講義・演習
5	看護過程の展開 看護計画の立案(個人・グループワーク)						講義 GW
6・7	看護計画の実施(シミュレーション学習) 産褥期の看護の実施、評価、学びを発表、共有する						GW・演習 GW・発表
8	まとめ						講義
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院 写真で分かる母性看護技術 インターメディカ						
評価	出席状況、授業・GWの参加状況、提出物を総合的に評価する						
学習上の留意点	臨地実習に繋がる看護過程の展開である。概論、方法論ⅠⅡをもとに、各自が主体的に、実践能力向上に向けて学習をする。						

専門分野
精神看護学 科目構成



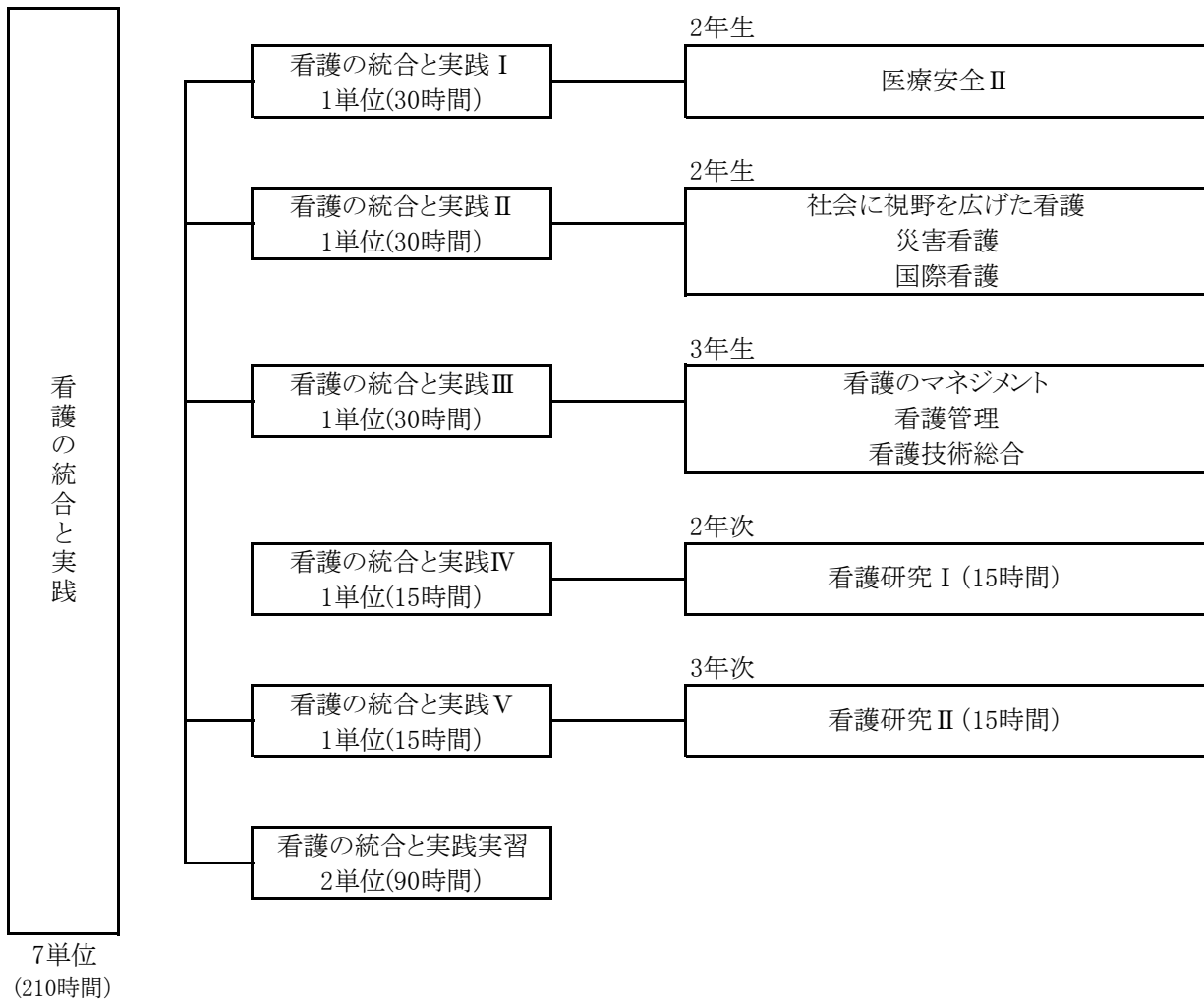
授業科目	精神看護学概論	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	後期	時間数	15時間		
科目目標	1. 現代社会の問題と精神の健康問題の関連を理解する 2. 精神看護の目標と役割について理解する						
学習目標	1. 人間の健康な心と働きを理解する 2. 精神看護の基本概念を学ぶ 3. 人間の成長発達段階に伴うメンタルヘルスケアの特徴を理解する						
回数	内容						授業形態
1	精神看護学の考え方 1) 精神の構造と機能・心の発達と健康 2) 今日の社会的動向と精神保健看護 3) 精神保健看護の目指すもの						講義
2～3	危機状況と心の働き 1) 危機の概念 2) ライフサイクルにおける危機的状況に焦点を当てた健康問題 3) ストレスと対処法						講義・演習
4～5	環境と心の働き 1) 暮らしの場、教育の場、職場、地域社会と心の健康 2) 精神科で出会う人々の特徴 3) 患者－看護者関係						講義
6～7	精神看護の基本概念 1) リカバリーとは 2) セルフケアとは、セルフケアを支える諸理論 3) 精神保健福祉の歴史的変遷						講義・演習
8	まとめ講義後試験						講義・試験
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院						
評価	講義・演習への参加状況、終講時試験等を総合的に評価する						
学習上の留意点	テキスト及び、資料を持参する 予習・復習をして講義に臨む						

授業科目	精神看護学方法論 I	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	専任教員 岩上 昌生
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	1. 心の健康課題・障害と治療について理解する 2. 治療回復過程における精神保健看護の機能と役割を学ぶ						
学習目標	1. 精神科領域における検査と治療に伴う看護を学ぶ 2. 患者-看護師関係の発展段階を関連理論から学ぶ 3. 精神科におけるリスクマネジメントを学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	精神障害をもつ人の理解と看護の基本 1) 精神障害をもつ人の抱える症状 2) 精神科における看護師の機能と役割						講義
2	精神障害の診断と検査 1) 診断の基礎と要点 2) 検査と看護						講義
3～4	主な精神障害の診療と看護 1) 各種治療法 2) 入院・外来施設における看護師の役割						講義
5～6	精神保健看護における対人関係、接触の技術						講義・演習
7～10	精神保健看護における患者-看護師関係 1) 関係のアセスメント 2) プロセスレコード						講義・演習
11	精神科におけるリハビリテーションとは						講義
12～14	リスクマネジメントの考え方と方法 1) 行動制限 2) 緊急事態に対処する 3) 災害時のケア						講義・演習
15	まとめ講義後試験						講義・試験
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院						
評価	講義・演習への参加状況、終講時試験等を総合的に評価する						
学習上の留意点	テキスト及び、資料を持参する 予習・復習をして講義に臨む						

授業科目	精神看護学方法論Ⅱ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	通年	時間数	30時間		
科目目標	精神障害をもつ人やその家族を理解するために必要な考え方と看護を実践的に学ぶ						
学習目標	1. 疾患や状態によってもたらされる生活の変化の把握と看護について理解する 2. 精神障害をもつ人が、その人らしく生活するための支援を考える						
回数	内容						授業形態
1	患者家族の理解とその援助						講義
	1) 家族の心理、負担						
	2) 家族が危機をのり越えるための援助						
2	主な症状に対する看護						講義
	1) 精神症状と看護						
	2) 精神科における身体のケア						
3～4	診療に伴う看護						講義
	1) 薬物療法に伴う看護						
	2) 電気痙攣療法を受ける人の看護						
	3) 精神療法を受ける人の看護						
	4) 社会療法を受ける人の看護						
5	行動制限のある人の看護						講義
6～12	精神障害をもつ人の看護						講義
	1) 統合失調症をもつ人の看護						
	2) 気分(感情)障害をもつ人の看護						
	3) 神経症性障害、ストレス関連障害をもつ人の看護						
	4) パーソナリティ障害をもつ人の看護						
	5) 認知症をもつ人の看護						
	6) 精神作用物質使用による障害をもつ人の看護						
	7) てんかんをもつ人の看護						
	8) 神経発達障害をもつ人の看護						
13～14	精神保健医療福祉におけるチーム						講義・演習
	1) 精神科リハビリテーションと地域精神保健						
	2) リエゾン精神看護						
	3) 看護師のメンタルヘルス						
	4) 地域生活を支援するための社会資源・サービス						
15	まとめ講義後試験						講義・試験
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院						
評価	講義への参加状況、終講時試験等を総合的に評価する						
学習上の留意点	テキスト及び、資料を持参する 予習・復習をして講義に臨む						

授業科目	精神看護学方法論Ⅲ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	後期	時間数	15時間		
科目目標	精神障害をもつ人の看護を展開する						
学習目標	1. 精神看護学の既習知識に基づき、患者の全体像を把握する 2. 事例患者の看護を紙上展開する						
回数	内容						授業形態
1～4	精神障害をもつ人の看護：統合失調症、気分(感情)障害 1) 疾患の理解 2) 客観的データと主観的データ 3) 精神症状、状態像の観察とアセスメント 4) 看護上の問題点と看護診断 5) ストレングスマデルの活用						講義・演習
5～6	看護計画の立案と実践の評価						講義・演習
7	成果発表、まとめ						講義・演習
8	まとめ講義後試験						講義・試験
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院						
評価	講義・演習への参加状況、終講時試験等を総合的に評価する						
学習上の留意点	テキスト及び、資料を持参する 予習・復習をして講義に臨む						

専門分野
看護の統合と実践 科目構成



授業科目	看護の統合と実践Ⅰ (医療安全Ⅱ)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	臨床の場における医療安全の考え方と実践方法を学ぶ						
学習目標	1. 臨床におけるリスクの理解とスキルの向上の重要性がわかる 2. 医療安全を担うチームの一員である自覚が持てる 3. 品質改善の手法を用いて、医療安全が改善されていくことを理解できる 4. 患者や介護者と協働した医療安全を考えることができる 5. わが国の患者安全の施策の動向を知る						
回数							授業形態
1	導入・ガイダンス 医療安全Ⅰで学んだこと、医療安全Ⅱで学ぶこと						講義
2～3	臨床におけるリスクの理解とスキルの向上 1) 個人のテクニカルスキルを見直す 演習: テクニカルスキルを意識した療養上の世話、診療の補助技術						講義
4	演習まとめ						講義
5～6	2) 危険予知トレーニング 危険予知トレーニングの応用 KYTシートによる事故発生の考察						個人ワーク 演習 講義 講義
7～8	3) ノン・テクニカルスキルの向上 チームにおけるコミュニケーション 演習: 報告・連絡・相談・確認						演習 講義
9～10	医療安全におけるチームアプローチ 演習 チームアプローチ体験						講義 ミニ演習含む
11	品質改善による医療安全の改善						講義
12	患者・介護者と協働した医療安全						講義 ミニ演習
13	我が国の患者安全の施策の動向						講義
14	看護学生の実習と安全						講義
15	まとめ講義後試験						講義・試験
使用テキスト	系統看護学講座 医療安全 医学書院 参考テキスト: 医療安全ワーク 医学書院						
評価	授業・演習の参加度、演習での技術評価ならびにレポート、終講時試験で総合的に評価する						
学習上の留意点	1年次の基礎看護技術1で学んだ医療安全Ⅰの知識を土台として、本科目では、今後の看護の学修の根幹を貫く概念として、視野を広げ発展させていく。演習に積極的に取り組み、チームの一員としての実践力・倫理観が育まれることを期待する。						

授業科目	看護の統合と実践Ⅱ	対象学年	3年	単位数	1単位	担当講師	赤池麻奈美 黒岩 美幸
		開講時期	通年	時間数	30時間		
科目目標	1. 災害看護に関する基礎的な知識・技術を習得する 2. 国際看護における国際交流と協力の現状の仕組みを学び、必要性や意義を理解する						
学習目標	1. 災害医療・看護の概念を理解する 2. 災害看護の実際を理解する 3. 災害各期の看護活動を理解する 4. 災害看護における今後の課題について理解する 5. 異文化について知り、対象に合った看護が必要であることを理解することができる 6. 国際保健における主となる問題点について知ることができる 7. 国際協力の仕組みを知り、国際的問題に対する援助について知ることができる 8. 国際保健における主な問題解決の開発目標について知ることができる 9. 国内における国際看護について知ることができる						
回数	内容						授業形態
1	(災害看護) 災害医療、看護概念(災害の定義、災害看護の概要 等						講義
2	災害医療、看護概念(関係法規 等						講義
3	災害医療、看護概念(災害サイクル 等						講義
4	トリアージ						講義
5	演習: トリアージ						演習
6	東日本大震災、常総市水災害について						講義
7	心のケア						講義
8~9	防災館見学						現地
10	(国際看護) 看護と異文化理解 1) 看護における異文化理解とは(民族・文化・宗教 等) 2) プライマリヘルスケア						講義
11	国際保健の現状 1) 母子保健 2) 人口問題 3) 栄養問題 4) 感染症問題						講義
12	国際協力のしくみ 1) 国際連合 2) NGO/NPO 3) 国際緊急援助 4) 海外看護活動(JICA/MSF 等)						講義
13	ミレニアム開発目標						講義
14	国内における国際看護 1) 在日外国人 2) 外国人看護師						講義
15	まとめ講義後試験						講義・試験
使用テキスト	新体系看護学全書 看護の統合と実践 災害看護 メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 看護の統合と実践 国際看護 メヂカルフレンド社						
評価	筆記試験、授業の参加度、レポート 等にて総合的に評価をする						
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・講義、演習、防災館見学などを通して、災害医療・看護について理解を深める ・災害医療・看護の社会的な動向や活動にも目を向け、関心を持って学習する ・国内だけでなく、国際看護にも視野を広げ関連付けて学習する ・国際的な視点、関心を持って学習をする ・海外の情勢・動向にも関心を持って情報を得るようにする 						

授業科目	看護の統合と実践Ⅲ (看護のマネジメント)	対象学年	3年	単位数	1単位	担当講師	専任教員 木所 篤子 中野 美佐子
		開講時期	通年	時間数	30時間		
科目目標	基礎的知識・技術・態度を統合して、看護実践能力を高めるとともに、看護におけるマネジメントの基礎的能力を養う						
学習目標	1. 看護におけるマネジメントならびに、多職種と連携を図る看護師の役割を理解できる 2. 医療安全を踏まえた複合的な看護技術の実践能力を高める 3. 演習を通して、看護のマネジメントの実際をイメージ化でき、統合実習につなげることができる						
回数	内容						授業形態
1	看護とマネジメント (担当:木所)						講義
2	チーム医療における看護師の調整・リーダーシップ (担当:木所)						講義
3	安全に対するマネジメント① (担当:木所) 1)医療安全						講義
4	安全に対するマネジメント② (担当:中村) 2)感染予防策						講義
5	まとめ講義後試験						講義・試験
6~7	看護とマネジメント 演習ガイダンス・事例紹介						講義 演習
8~9	援助計画 グループワーク						演習
10~11	複合技術演習						演習
12~13	看護とマネジメント 実技テスト						実技テスト
14	振り返り・まとめ						講義
15	まとめ講義後試験						講義・試験
使用テキスト	系統看護学講座 看護管理 医学書院／系統看護学講座 医療安全 医学書院 参考テキスト:医療安全ワーク 医学書院						
評価	授業・演習の参加度、演習での技術評価ならびにレポート、終講時試験で総合的に評価する						
学習上の留意点	この科目は、3年間の集大成ともいえる統合実習前の実践的な学修である。看護におけるマネジメントを理解し、多重課題の優先順位決定や倫理的配慮を学ぶ。複合技術となるので、既習の知識・技術を統合していく。						

授業科目	看護の統合と実践Ⅳ (看護研究Ⅰ)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	東垣内 徹生
		開講時期	後期	時間数	15時間		
科目目標	看護における研究の意義, 基礎的な知識を理解し, 臨床実践能力の向上に必要な論理的思考・探求的態度を養う						
学習目標	看護研究の基礎的知識を学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	量的研究 研究の枠組み, 測定尺度						講義
2	量的研究 信頼性と妥当性						講義
3	量的研究 結果の統計処理, 相関研究における考察の注意点						講義
4	量的研究 実験的研究と準実験的研究						講義
5	質的研究 ケーススタディと帰納法的事例研究						講義
6	質的研究 M-GTA						講義
7	質的研究 メタ統合						講義
8	まとめ講義後試験						講義・試験
使用テキスト	看護における研究(第2版) 南裕子・野嶋佐由美 日本看護協会出版会						
評価	講義・演習の参加状況と終講時試験から評価する						
学習上の留意点							

授業科目	看護の統合と実践Ⅴ (看護研究Ⅱ)	対象学年	3年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	通年	時間数	15時間		
科目目標	ケーススタディを通して、看護を探究する態度を養う						
学習目標	1. 自身の実習での看護体験を振り返り、目的意識をもって研究的に取り組むことができる 2. 文献により裏付けられた、論理的思考が展開できる						
回数	内容						授業形態
1～2	開講ガイダンス ケース・スタディの基本的知識 1) ケース・スタディとは 2) ケース・スタディのタイプと目的 3) 看護とケース・スタディとは 4) 看護学生のためのケース・スタディ						講義 講義
3～5	学習進度計画書の作成 ケース・スタディの進め方 1) テーマ設定 2) 文献検索と活用 3) 指示された構成に基づき論文作成 4) 発表補助資料としての抄録作成						個人ワーク 講義
6	発表の基本 1) テーマ設定 2) 文献検索と活用 3) 指示された構成に基づき論文作成 4) 発表補助資料としての抄録作成						講義
7～8	ケース・スタディの発表						演習
使用テキスト	看護における研究 南裕子 日本看護協会						
評価	授業・発表会の参加度、論文内容等により総合的に評価する						
学習上の留意点	この科目は、2年次の「看護研究Ⅰ」を土台に、ケーススタディを実際に行い、研究的態度を養う。今後、臨床での看護の疑問に対して、「看護研究の成果を使う」態度につながるとともに、将来における看護研究の足掛かりとなることを期待する。						